

平成14・15年度

生きる力をはぐくむ読書活動推進事業

実践事例集

国立教育政策研究所

教育課程研究センター

はじめに

読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。この思いのもと、読書活動推進に向けて様々な取組が行われています。

平成11年8月、読書の持つ計り知れない価値を認識し、国を挙げて子どもの読書活動を支援するため、「国際子ども図書館」が開館する平成12年（西暦2000年）を「子ども読書年」とする衆参両議院の決議がなされました。さらに、平成13年4月には、「子どもゆめ基金」が創設され、民間団体の行う子どもの読書活動等に対する助成が始まっています。「子ども読書年」を契機とした、子どもの自主的な読書活動を推進する取組の動きは、平成13年12月の「子どもの読書活動の推進に関する法律」の成立、公布・施行へとつながりました。

この法律の規定に基づき、施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、平成14年8月、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定されました。この基本計画は、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備を推進することを基本理念としています。この基本計画に従い、各都道府県・市町村での「子ども読書推進計画」の策定が進み、また4月23日の「子ども読書の日」にちなんだ読書推進の催しが開催されるなど、子どもへの読書機会の提供、関係機関や民間団体等が連携・協力した取組、社会的気運醸成のための普及・啓発等の取組が推進されてきています。

国立教育政策研究所教育課程研究センターでも、平成14年度から「生きる力をはぐくむ読書活動推進事業」を実施し、全国で17府県30地域を指定し2年間の実践研究を委嘱しました。この研究では、子どもたちの読書活動の推進に学校・家庭・地域社会が一体となって取り組むとともに、読書に関する現状調査も実施して子どもたちの読書活動の変化を把握し、読書活動を推進し、読書習慣を形成するために効果的な取組方法について研究していただきました。

この「平成14・15年度生きる力をはぐくむ読書活動推進事業実践事例集」は、こうした指定地域の2年間の研究成果の概要をまとめたものです。本書を活用いただくことで、学校・家庭・地域社会が一体となって子どもたちの読書活動を支援する体制が一層充実し、子どもたちの読書習慣の形成に資することを願っております。

平成17年3月

国立教育政策研究所教育課程研究センター長

折 原 守

目 次

I	実施要項	1
II	読書活動推進地域一覧	5
III	平成14・15年度 実践事例	9
	埼玉 県	
	越谷市	11
	吹上町	14
	さいたま市	17
	千葉 県	
	富津市	20
	神奈川 県	
	中井町	23
	長野 県	
	茅野市	26
	大町市	30
	波田町	33
	諏訪市	36
	箕輪町	41
	滋賀 県	
	草津市	43
	京都 府	
	園部町	46
	京都市	49
	大阪 府	
	豊中市	51
	寝屋川市	55
	堺市	58
	和泉市	61
	兵庫 県	
	三木市	64
	和歌山 市	
	南部川村	67
	岡山 県	
	加茂川町	71
	哲西町	74
	広島 県	
	福山市	77
	甲山町	80
	山口 県	
	大島町	83
	徳島 県	
	三加茂町	87
	福岡 県	
	春日市	90
	熊本 県	
	大津町	93
	芦北町	96
	鹿児島 県	
	始良町	100
	沖縄 県	
	具志川市	103

平成14・15年度生きる力をはぐくむ読書活動推進事業

(読書活動推進地域事業) の取組の概要..... 106

I

實 施 要 項

平成14・15年度生きる力をはぐくむ読書活動推進事業
(読書活動推進地域事業) 実施要項

1 目的

児童生徒の読書活動に関し、学校図書館を含めた学校における学習活動、公共図書館の活用、家庭での働きかけなどを相互に連携させながら、学校・家庭・地域社会が一体となった効果的な取組方法について実践的な研究を行い、生きる力をはぐくむ読書活動の一層の推進に資する。

2 読書活動推進地域事業の委嘱等

- (1) 国立教育政策研究所は、全国から10地域程度を読書活動推進地域(以下「推進地域」という。)とし、推進地域の所在する都道府県教育委員会に本事業を委嘱する。
- (2) 推進地域の範囲は、複数の小学校区程度とする。
- (3) 推進地域の所在する市町村教育委員会(以下「推進地城市町村教育委員会」という。)は、原則として、推進地域内の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、盲学校、聾学校及び養護学校の中からあわせて3校程度以内の推進協力校及び協力機関(公共図書館、公民館(図書室)等)を指定する。

3 委嘱の手続

- (1) 委嘱を受けようとする都道府県教育委員会は、別紙様式により希望調書を国立教育政策研究所に提出するものとする。
なお、委嘱の希望に当たっては、読書活動推進地域事業を実施するために必要な施設・設備の利用ができ、かつ推進協力校その他関係機関・団体の協力が得られるよう配慮すること。
- (2) 国立教育政策研究所は、上記(1)により提出のあった内容を審査し、本事業の委嘱が適当と認めた場合、別途定める実施計画書の提出を求める。
- (3) 国立教育政策研究所は、上記(2)により都道府県教育委員会から提出された実施計画書が適切であると認めた場合には、当該都道府県教育委員会に対し、実践研究を委嘱する。

4 指定期間

原則として2か年とする。

5 事業の内容

推進地城市町村教育委員会は、推進地域において、「生きる力」をはぐくむ読書活動を推進する観点から、学校、家庭、地域社会が相互に連携し、児童生徒の読書を進めるための効果的な取組方法について実践的な研究を行うものとする。

事業の実施に当たっては、

- ① 読書に関する現状調査を行うとともに、読書活動を推進したことによる読書量の増加その他の具体的な効果の把握を行うものとする。
- ② 事業の内容には、他の図書館（公共図書館、他校の学校図書館）、児童生徒の保護者、地域の関係機関等、「学校、家庭、地域社会」の三者の連携を含むものとする。

6 事業の実施

(1) 読書活動推進会議

推進地城市町村教育委員会は、学校教育関係者、社会教育関係者、児童生徒の保護者、企業関係者、学識経験者等から委員を委嘱して、読書活動推進会議（以下「推進会議」という。）を設置する。

推進会議は、推進地域における読書活動推進の各種取組が一体のものとして効果的に推進されるよう、読書に関する現状について調査を行い、全体計画の策定等について協議し、読書活動の推進成果について評価する。また、推進協力校等に対する助言、指導及び調査等を行うものとする。

(2) 推進協力校等

推進協力校及び協力機関は、推進会議の定めるところにより、相互の連携を図りながら実践的研究を行う。

7 事業の運営

- (1) 推進地城市町村教育委員会は、都道府県教育委員会との緊密な連携のもと事業を実施するものとする。
- (2) 推進地城市町村教育委員会は、各年度終了後速やかに事業実施報告を、その所在する都道府県教育委員会に提出するものとする。
- (3) 都道府県教育委員会は、推進地城市町村教育委員会から提出された事業実施報告をもとに実績報告書を作成し、国立教育政策研究所に提出するものとする。
- (4) 都道府県教育委員会が作成した実績報告書については、国立教育政策研究所においてその収録を編集し、公表することができるものとする。
- (5) 国立教育政策研究所は、本事業の円滑な実施に資するため、連絡協議会を開催する。

8 経費

国立教育政策研究所は、予算の範囲内で、各年度毎に研究に必要な所要額を都道府県教育委員会からの請求に基づいて支払うものとする。なお、都道府県教育委員会は、各年度終了後速やかに別途定める収支精算書を国立教育政策研究所に提出するものとする。

9 その他

国立教育政策研究所は、必要に応じ、この事業の進捗状況及び経費の処理状況について、実態調査を行う。

II

読書活動推進地域一覽

平成14・15年度生きる力をはぐくむ読書活動推進地域一覧

都道府県	市町村名	推進協力校				協力機関
1 埼玉	越谷市	南中学校	蕨生第二小学校	萩島小学校		市立図書館・蕨生公民館
	吹上町	吹上中学校	吹上小学校	小谷小学校	大芦小学校	町立図書館
	さいたま市	常盤小学校	本太小学校	上木崎小学校	文蔵小学校	常盤北小学校
2 千葉	富津市	大貫中学校	大貫小学校	吉野小学校		移動図書館、中央公民館、地域の絵本サークル
3 神奈川	中井町	中井中学校	井ノ口小学校	中村小学校		町農村環境改善センター図書室、町立井ノ口公民館図書室
4 長野	茅野市	永明中学校	永明小学校	豊平小学校	米沢小学校	茅野市図書館及び公民館、人ヶ岳総合博物館、安石洞文考古館
	大町市	大町西小学校	第一中学校	仁科台中学校	大町高等学校	図書館、PTA、ボランティア
	波田町	波田小学校	波田中学校			町立図書館
	諏訪市	中州小学校	諏訪南中学校	湖南小学校	諏訪西中学校	市立図書館、市立風樹文庫
	箕輪町	箕輪中学校	箕輪南小学校	箕輪中部小学校		町立図書館、箕輪町連合PTA
6 滋賀	草津市	玉川中学校	志津南小学校	南笠東小学校	笠縫東小学校	市立図書館、お話研究会
6 京都	園部町	摩気小学校	西本梅小学校	川辺小学校		町立図書館
	京都市	大宅小学校	大宅中学校			山科図書館・醍醐図書館
7 大阪	豊中市	東豊台小学校	新田南小学校	第十六中学校		市立図書館
	寝屋川市	東小学校	中央小学校			市立東図書館
	堺市	津久野小学校	湊小学校	大浜中学校		市立中央図書館・鳳図書館
	和泉市	富秋中学校	幸小学校			市立人権文化センター「にじのとしょかん」
8 兵庫	三木市	豊地小学校	瑞穂小学校			市立図書館・細川町公民館
9 和歌山	南部川村	上南部小学校	上南部中学校	高城小学校	高城中学校	中央公民館、地区公民館、保育所、幼稚園
		清川小学校	清川中学校			
10 岡山	加茂川町	津賀小学校	円城小学校	御北小学校		加茂川町図書館
	哲西町	野馳小学校	矢神小学校			きらめき広場・哲西町図書館
11 広島	新市町	中央中学校	綱引小学校	新市小学校	戸手小学校	綱引公民館・新市公民館・戸手公民館
	甲山町	甲山中学校	東小学校			町立図書館、図書館委員会、お話し広場、「おい風船」等地域読書活動推進ボランティアグループ
12 山口	大島町	三浦小学校	屋代小学校	明新小学校	沖浦小学校	町立図書館、各地区公民館、読書をすすめる会、読み聞かせの会、PTA
		蒲野中学校	大島中学校	沖浦中学校		
13 徳島	三加茂町	西庄小学校	三加茂中学校	三庄小学校		三加茂町立図書館
14 福岡	春日市	春日北小学校	春日西小学校	須玖小学校		春日市民図書館
15 熊本	大津町	大津中学校	大津小学校	大津南小学校	大津高校	町立図書館
	芦北町	佐敷小学校	吉尾中学校			町立図書館
16 鹿児島	始良町	粘佐小学校	西始良小学校	北山小学校	重富中学校	町立図書館
17 沖縄	具志川市	あげな中学校	川崎小学校	天願小学校		市立図書館、児童センター

Ⅲ

平成 14・15 年度

実 践 事 例

埼玉県教育委員会

推進地域名	越谷市
-------	-----

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

越谷市は、東京都心から25キロ圏内に位置し、埼玉県南東部地域の中核都市として着実に発展を続けている。昔から「水郷こしがや」と呼ばれ、古利根川、綾瀬川、元荒川、葛西用水など多くの河川や用水が流れ、豊かな自然環境に恵まれている。現在、人口31万人、小学校29校・中学校15校、「第3次総合振興計画」に基づき、「市民との協働によるまちづくり」を基本に、「水と緑と太陽に恵まれたふれあい豊かな自立都市」を目指している。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	越谷市立荻島小学校	630	19
2	越谷市立蒲生第二小学校	525	15
3	越谷市立南中学校	570	18

① 荻島小学校

明治6年開校で今年130周年を迎えた。学区は、農村地域と新興住宅地とからなる。学校図書館は、昭和62年に2教室分の広さで設置され、「ブックワールド」という愛称を付け、夏休みの地域開放では多くの利用がある。

② 蒲生第二小学校

開校昭和44年、東武伊勢崎線蒲生駅より歩いて7分の住宅街にある。「歌いっぱい、本いっぱい、汗いっぱい」を学校の特色に掲げ、ハーモニーに感動し楽しく歌える子、読書の楽しさに共感する子、運動遊びの楽しさを味わえる子の育成を目指している。

③ 南中学校

開校昭和22年、JR武蔵野線沿いに広がる田園地帯に位置する。「本と緑と歌声のあふれる学校づくり」を学校の特色テーマとし、心の教育のための朝の10分間読書活動の推進と、歌声のあふれる学校づくりに力を入れている。

(3) 協力機関等

① 市立図書館

蔵書総数約52万冊、視聴覚ライブラリーとしても機能している。催し物の開催、配本サービス等の活動も行い、ホームページでの蔵書検索、新刊案内検索ができる。

② 蒲生公民館・荻島公民館

市民の学習活動、教養、文化創造をはじめ、スポーツ・レクリエーション活動、地域のコミュニティ活動や福祉活動の拠点として活用されている。

2. 実践研究の概要

(1) 研究の内容

① 読書に関する現状調査

② 学校・家庭・地域社会が連携した読書活動

(2) 推進事業の体制

① 推進協力校 小学校2校・中学校1校

② 協力機関 越谷市立図書館・荻島公民館・蒲生公民館

③ 協力団体等 文教大学教育学部助教授・学校図書館活用推進委員・越谷市教育研究会図書部会・読み聞かせボランティア・文教大学ワンダーキッズお話部会・推進協力校保護者代表

(3) 研究の成果

① 朝の読書活動による効果

② 読み聞かせやブックトーク等による効果

③ 図書ボランティア活動による効果

④ 市内小中学校への情報発信

(4) 今後の課題

① 児童生徒の積極的読書活動の推進

② 小・中学校児童生徒の読書活動を通じた交流推進

3. 実践研究の内容及び成果

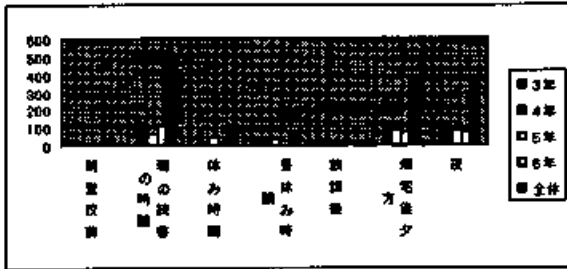
(1) 読書に関する現状調査

推進協力校において、平成14・15年度の2回にわたり読書に関する現状調査を行った。この調査から、児童生徒の実態と推進事業の成果として次のような結果が得られた。

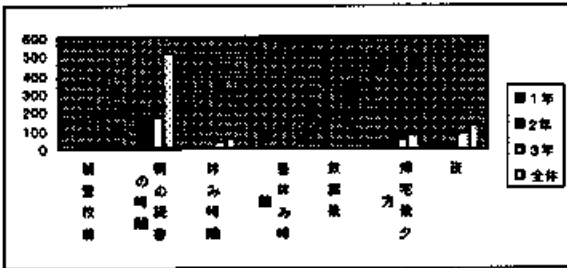
① 一日に読む時間帯

小中学生ともに「朝の読書の時間」に読むと答えた人数が多い。一方で、わずかだが、帰宅後に読書の時間を取るようになってきたことが分かる。

平成15年度調査から (小学校)



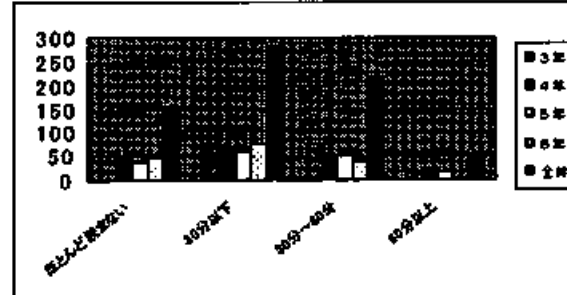
(中学校)



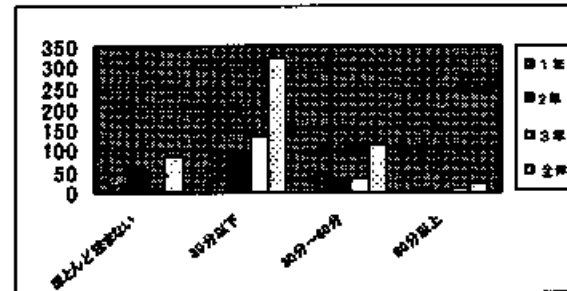
② 一日の読書量 (学校のある日)

朝の読書活動の定着により、一日の読書の時間が小・中学生ともに30分前後確保されるようになってきた。

平成15年度調査から (小学校)



(中学校)

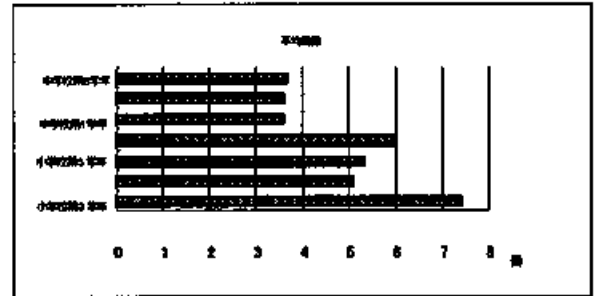


③ 読んだ冊数 (10月22日~11月21日)

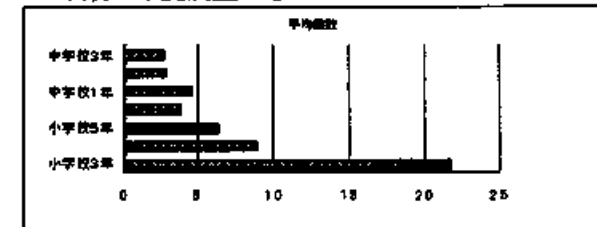
調査期間中、一番読書量が多かったのは小学

校3年生の平均21.7冊で、昨年度平均7.4冊の3倍となった。その他の学年では、あまり成果が見られなかった。

平成14年度調査から



平成15年度調査から



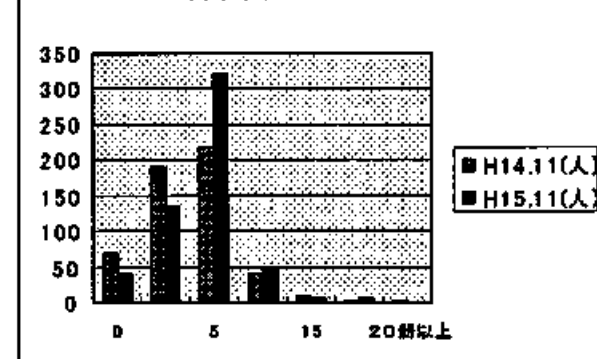
(2) 学校・家庭・地域社会が連携した読書活動

① 一斉読書

推進協力校3校において、朝の一斉読書に取り組んだ。荻島小学校は、毎週金曜日業間休み15分間、蒲生第二小学校は、毎週月曜日朝10分間、南中学校は、毎朝10分間の全校一斉読書を行った。

特に、毎朝の読書活動を継続して行った南中学校においては、平成14年度の年間読書時間の合計が34.2時間になった。15年度も継続して取り組むことにより、次のグラフで示すとおり、1か月に読んだ本の冊数0冊の生徒が13%から7%に減少し、2~5冊読んだ生徒が40%から58%に増加した。

南中学校一か月読書冊数



② 読み聞かせやブックトーク



荻島小学校では、全職員による読み聞かせのほか、読み聞かせボランティア「あいのみ文庫」による読み聞かせを行った。お話朝会、特設おぎしまお話ランド、昼休みの自由参加読み聞かせなど、様々な設定でお話の楽しさを味わわせることに努め、児童にとって待ち遠しい時間となった。

また、「読書月間」を設け、全校読書の時間の増設や、お話朝会での読み聞かせなどにも取り組んだ。

蒲生第二小学校では、「越谷おはなしの会」による読み聞かせを各学級で年2回行った。さらに水曜日の昼休みには、低中高に分かれての読み聞かせや、市立図書館司書によるブックトークも学期に1～2回行い児童の読書意欲を高めた。



このほか、3学期に「校内音読発表会」を開き、学年や学級ごとに国語教材文を音読して、日本語のリズムや響きを楽しむことにも取り組んだ。

③ 図書委員会活動

小学校では、図書委員による大型絵本を使った読み聞かせ、手作りしおりを作ったのプレゼント、年間多読賞の紹介や受賞者の発表などに取り組んだ。中学校では、学校図書館の環境整備に力を入れた。学校図書館の広報誌発行や書籍・絵本作りの紹介、文豪新聞の発行など学校図書館活用の意識を高める活動に取り組んだ。

④ 小中学校の交流

中学校の生徒から、小学校5・6年生におすすめの本を紹介してもらい、学級ごとに紹介文を掲示した。紹介された本を読んだ児童が感想やお礼の手紙を送るという活動を展開した。

⑤ 図書ボランティア活動

ア 夏季休業中の「わくわく図書室推進事業」における読み聞かせや本の貸出

越谷市では、全小中学校において、保護者ボランティアを募り、夏休みに図書室の開放を行っている。図書の貸出だけでなく、読み聞かせや図書の整理など読書活動の推進に協力を得ている。

イ 親子読書

小学校においては、学年PTAで親子読書に取り組み、読書の楽しさを共有している。



(3) 成果等

- ① 朝の読書活動により本に親しむ機会が定着し、朝のスタートの集中力を高めることができた。
- ② 読み聞かせやブックトークにより、物語の世界を楽しむことができ、読書の幅を広げることができた。
- ③ 保護者や地域の協力と連携により、図書ボランティア活動による効果が高まっている。読み聞かせ、図書室の整理、移動図書館の貸出、夏休みの図書貸出など様々な協力を得ている。
- ④ この2年間の取組を「読書活動推進のてびき」として、市内44小中学校に情報発信をした。

4. 今後の課題等

2年間の取組により、読書活動の定着が図られてきた。今後は、読書の質の向上と量の拡大を目指し、児童生徒の積極的な読書活動の推進を図りたい。また、教職員の協働体制を構築し、小・中学校の読書活動を通じた交流を深めていきたい。保護者や地域社会との連携も更に深めていきたいと考える。

推進地域名	吹上町
-------	-----

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

吹上町は、首都圏より50km圏内で、町の中央をJR高崎線と国道17号線が縦貫し、鉄道で1時間と東京への通勤距離圏にある。

町内を西から東南に流れている元荒川は、江戸時代初期までは荒川の本流であり、その荒川の流れによって造り出された自然堤防の上に形成された集落が本町の始まりである。

本町では、「水と緑・人にやさしい文化都市」の実現に向け、様々な施策に取り組んでいる。また、昭和60年10月1日には「教育の町」を宣言し、以来一人一学習をモットーに、町を挙げて明るく生きがいのある生活の向上と郷土吹上の発展を目指し様々な活動を続けている。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	吹上町立吹上小学校	659	21
2	吹上町立小谷小学校	200	7
3	吹上町立下忍小学校	539	16
4	吹上町立大芦小学校	186	6
5	吹上町立吹上中学校	418	14
6	吹上町立吹上北中学校	425	12

① 吹上小学校

創立114年目の町内の中心校として、教育目標「夢いっぱい 輝く瞳 光る汗」の下、確かな学びの力の育成に取り組んでいる。

② 小谷小学校

平成14・15年度文部科学省から「学力向上フロンティア事業」の指定を受け、学力向上の推進に取り組んでいる。

③ 下忍小学校

開校130周年を迎えた歴史と伝統のある学校で、子どもたちの明るくさわやかなあいさつ・校庭で運動する元気な姿・美しい歌声の

ひろがる学校である。

④ 大芦小学校

学ぶ意欲や学び方・豊かな心等を中心とした「生きる力」の育成を目指し、学習指導の改善に取り組んでいる。

⑤ 吹上中学校

緑豊かな中に、天体ドームのある校舎・不易流行庭園・大空の像等伝統と落ち着きのある学校である。「継続は力なり」を校訓として、意欲的に教育活動に取り組んでいる。

⑥ 吹上北中学校

緑豊かな潤いのある教育環境の整った学校である。教育目標「夢・学・怒」の下、全教育活動を通して、「自ら学ぶ意欲を育てる指導と評価の工夫」に取り組んでいる。

(3) 協力機関等

① 町立図書館

② 子ども会連絡協議会

③ 読み聞かせボランティアグループ

2. 実践研究の概要

(1) 研究の内容

① 吹上町読書活動推進会議の設置

○ 地域読書活動推進部会

地域での活動をとおして、子どもたちの読書意欲の向上を図る。

○ 学校読書活動推進部会

学校における読書に関する取組の充実を図る。

○ 家庭読書活動推進部会

家庭での読書習慣の確立を図る。

② 読書に関する現状調査の比較

(2) 研究の成果

① 地域読書活動推進部会の取組

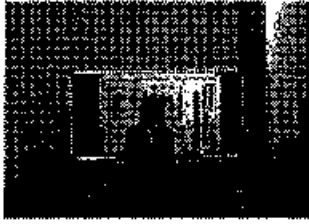
ア 読書推進講演会の実施

○平成15年3月1日(土)

講師：秋葉 恵子氏

(元東京子ども図書館職員)

演題：「子どもたちの読書意欲を高める」



○平成15年11月1日(土)

講師：ミステリー作家 北村 薫 氏

演題：「読むこと、書くこと」



イ 本のリサイクル市の実施

○平成15年11月1日(土)



② 学校読書活動推進部会の取組

ア 図書委員会による読書集会・しおりコンクールの実施



イ 学校図書館支援員によるパネルシアターの実施



ウ 朝の一斉読書の実施

各学校とも、全校一斉に読書をする時間を設定し、教員と児童生徒と一緒に読書をしている。

エ わたしの1冊の紹介



オ 吹上町特別研究員制度による、「児童生徒の主体的な読書を促す指導法の工夫」の研究発表会の実施(2年間継続)

カ 「子ども読書の日」を学校だよりや各学年の月行事予定表等で保護者・地域へ啓発

③ 家庭読書活動推進部会の取組

ア 乳幼児向けブックリストの作成

イ 10か月児相談時における読み聞かせの実施



④ 読書活動推進リーフレットの作成

⑤ 児童生徒及び保護者・地域の方の読書に関する意識・実態の把握

(3) 今後の取組

① 学校・家庭・地域が一体となった継続的な読書推進活動の実施

② 児童生徒及び保護者・地域の方の読書に関する意識・実態の変容の把握

③ 司書教諭を中心とした、校内での読書活動推進に関する指導体制の充実

④ 学校図書館支援員配置の継続や、保護者による学校図書館ボランティアの協力による環境整備の充実

⑤ 子ども読書の日や読書週間の効果的な活用

3. 実践研究の内容と成果

(1) 具体的な取組及び取組の成果

① 読書に関する現状調査の結果から

(第1回：平成15年2月実施、

第2回：平成15年10月実施)

Q：あなたは、1か月間におよそ何冊の本を読みますか。

※ 「0冊」と答えた児童生徒の割合

調査時期	小学生 計	中学生 計
第1回調査	4.4%	21.1%
第2回調査	2.1%	18.8%

各学年とも「0冊」と答えた児童生徒の割合が昨年度に比べて少なくなっている。また、昨年度の同学年の児童生徒と比較しても減少傾向にある。

昨年度		本年度	
小3：	2.7%	小4：	1.2%
小5：	5.6%	小6：	2.0%
中1：	10.3%	中2：	9.5%

Q：あなたは、昨年度より本を読む機会（冊数）が増えましたか。（本年度のみの調査）

0. 昨年度より本を読む機会が増えましたか？



小学生、中学生、高校生ともに、本を読む機会の増加が見られた。各学校の読書推進の取組の成果である。

Q：あなたは、心に残っている本を読んだ時期はいつですか。（保護者や地域の方）

0. 心に残っている本を読んだ時期はいつか？



小学校や中学校時代に心に残るよい本にふれあっている。小さいころから本に親まることが大切である。

Q：家族と一緒に本を読んだり、共通の本の話をすることがありますか。

（保護者や地域の方）

0. 家族と一緒に本を読んだり、共通の本の話をする機会はあるか？



読書の大切さは理解（読書は大切だと思う：94.8%）しているが、実際は家族と一緒に本を読んだり、本の話をするのは少ない。

今後、「子ども読書の日」や読書週間の中に、家庭読書の日（11月1日）を設けることにより、より一層の充実を図る。

Q：あなたは、町立図書館や他の公立図書館をよく利用しますか。（保護者や地域の方）

0. 町立図書館や他の公立図書館をよく利用しますか？



昨年度と比較すると、わずかであるが、利用が増加傾向にある。町全体での取組の成果である。今後は町立図書館等の主催の催しについて、町の広報紙を活用してより一層PRしていきたい。

4. 今後の課題等

- ① 2年間の取組によって、大きな成果を上げるまでにはいたらなかったが、今後も読書推進会議のネットワークを活用して、地域の方への啓発活動に取り組んでいきたい。
- ② 中学生、高校生と年代が高くなるに連れて、本を読まない子が増加傾向にあるので、学校図書館教育等の充実をより図りたい。

Q：あなたは、本を読むことが好きですか。

※ 「はい」と答えた児童生徒学生の割合

第2回調査結果から	学年	割合
	小6	39.1%
	中2	37.9%
	高2	30.8%

埼玉県教育委員会

推進地域名	さいたま市
-------	-------

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

さいたま市は、平成13年5月に浦和、大宮、与野の旧3市が合併して誕生した市で、人口は105万人を超え、合併から約2年を経た平成15年4月1日に全国13番目の政令指定都市に移行した。

政令市移行を機に、文教都市としての更なる飛躍を目指し、「潤いのある教育・文化の創造」を推進している。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童数	学級数
1	さいたま市立常盤小学校	769	25
2	さいたま市立本太小学校	817	24
3	さいたま市立上木崎小学校	561	18
4	さいたま市立文蔵小学校	787	22
5	さいたま市立常盤北小学校	346	12

① 常盤小学校

学校図書館「ときわっ子本の国」が平成9年度にオープン。その後、「学校図書館情報化・活性化モデル地域事業」「学校図書館資源共有型モデル地域事業」の実践協力研究校となり、蔵書のデータベース化、コンピュータによる日常業務管理を進めている。

② 本太小学校

学校図書館「ブックランド」は平成10年度にオープン。文部省「学校図書館情報化・活性化モデル地域事業」実践協力校、平成11年度は東部地区学校図書館活用フォーラム会場校となり、平成12年度には「読書活動優秀実践校」として表彰される。

③ 上木崎小学校

平成5年の埼玉県図書館協議会授業研究会開催をきっかけとし、学校図書館教育に力を入れ、「学校図書館情報化・活性化モデル地

域事業」の実践協力校になって以来、蔵書のデータベース化、コンピュータによる日常業務管理を進めている。

④ 文蔵小学校

平成9年「自ら学ぶ心豊かな子の育成」を目指し、「学習・情報センターとしての学校図書館を活用して」をテーマに研究を始めた。「学校図書館情報化・活性化推進モデル事業」に取り組み、平成11年度には東部地区学校図書館活用フォーラム会場となった。

⑤ 常盤北小学校

学校図書館は本を中心とした図書室と情報機器を中心としたメディアルームがつながっており、学習情報センターとして同時に使用できる。

「学校図書館情報化・活性化モデル地域事業」により、平成10年度から蔵書のデータベース化を進め、施設の特徴を生かした実践を行っている。

(3) 協力機関等

① さいたま市立教育研究所

「学校図書館コンピュータシステムの構築」は重点事業の一つであり、市内小・中学校の学校図書館の情報化を推進している。

② さいたま市立北浦和図書館

(学校図書館支援センター)

学校図書館支援センター(現在、さいたま市立の公共図書館6館で運営)は、公共図書館と学校図書館のネットワークの窓口として、教科関連資料の収集貸出・レファレンス・資料リストの作成を始め、学校訪問・学校招待等、広く学校図書館活動に協力している。



2. 実践研究の概要

(1) 推進協力校5校の連携による「子ども読書の日」の取組

「親子で楽しむ子ども読書の日」を推進協力校5校の共通テーマとし、5校が連携を深め、平成15年4月23日を中心とした「子ども読書の日」の取組を企画、実施し、成果について考察する。

(2) 推進協力校の特色ある読書活動の実践

これまで実施してきた各推進協力校の特色ある読書活動を発展させ、家庭・地域との連携を深めたものとし、その成果について考察する。

(3) 「読書活動推進のてびき」の発刊

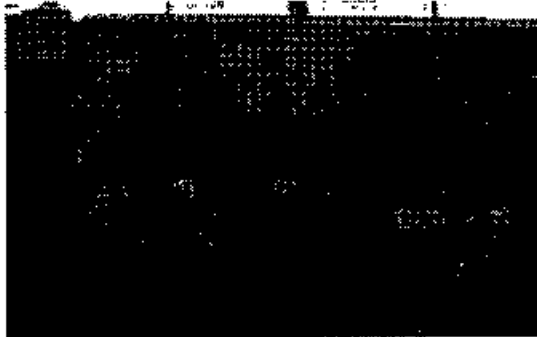
各推進協力校の取組とその成果を「読書活動推進のてびき」にまとめ、市内全小・中学校に配布し、それぞれの実践を共有化する。

3. 実践研究の内容及び成果

(1) 平成15年4月23日「子ども読書の日」の取組について

共通テーマ「親子で楽しむ子ども読書の日」の下に、各校では4月23日の「子ども読書の日」を中心とした取組を企画、実施した。共通のポスター、しおりを制作するとともに、学校図書館ボランティアの導入、保護者の参加の呼びかけなどを通して、地域全体で取り組んでいる雰囲気高めるよう図った。

また、学校図書館資源共有型モデル地域事業による蔵書の共同利用のシステムを活用し、必要な図書資料や大型絵本等を相互に貸借し、各学校図書館の読書環境を充実させるよう図った。



<各推進協力校の企画>

常盤小学校	◎～おはなしテーマパークへようこそ～ 4/21～4/26 「おはなし世界一周」と題し、読書集会や休み時間を使っての読み聞かせ、ブックトーク等 ◎土曜の学校図書館開放 4/26 おはなし会の開催
本太小学校	◎読書まつり 4/23 ◎土曜日の学校図書館開放 4/26 地域ボランティアによる大型絵本の読み聞かせ 学校ボランティア、教職員による影絵の国
上木崎小学校	◎図書館フェスティバル 4/23～4/30 PTAによる読み聞かせ、パネルシアター
文蔵小学校	◎読書まつり 4/23 読書郵便ボランティアの紹介 ボランティアによる読み聞かせ
常盤北小学校	◎親子で楽しむ読書の日 4/22 大型絵本の読み聞かせ、エプロンシアター

※読書活動実態アンケートから

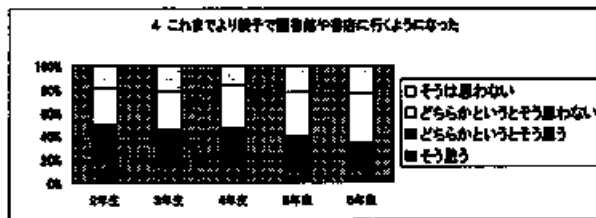
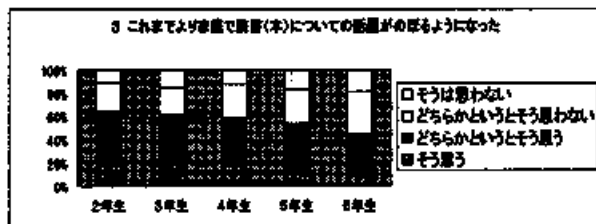
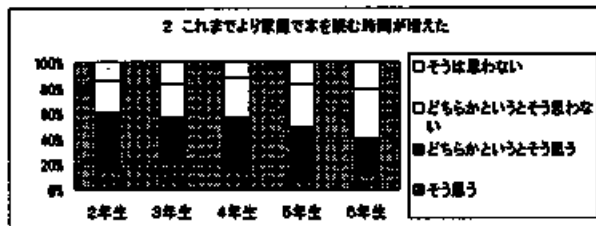
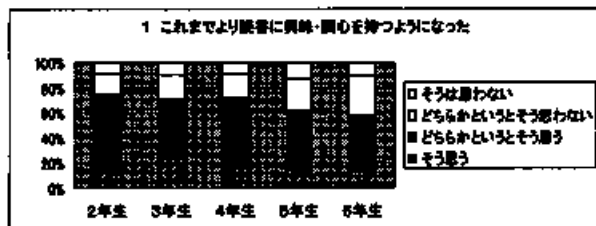
推進協力校5校が連携して行った「子ども読書の日」の取組を経た後、推進協力校5校の保護者を対象として、これまで取り組んできた家庭・地域と連携した子どもの読書活動とあわせて、子どもの読書活動の実態についてアンケート調査を行った。

<調査時期> 平成15年5月

<調査対象>

推進協力校5校の2～6年生の保護者

〈調査結果〉



アンケート結果から、全体としては、子ども・家庭ともに、子どもの読書活動に対する意欲の高まりが見られるが、これも日常的な学校と家庭、地域が連携した読書活動推進の取組の基盤があることにより「子ども読書の日」の取組が、子どもの読書活動の推進に一層の効果を上げたものと思われる。

(2) 各推進協力校における家庭・地域と連携した子どもの読書活動の推進について

《常盤小学校》

- 児童の家庭での読書を定着させることと、保護者の読書に対する意識を啓発することをねらいとして親子読書を計画し、実施した。
- 保護者による学校図書館ボランティア「ヨムヨムサポーター」が活動し、読書環境の整備を図った。

《本太小学校》

- 学校での読書関連行事、春の「さくら読書まつり」、秋の「もみじ読書まつり」を通しての読書への誘いを行った。
- 保護者のボランティア活動(月1回の読み聞かせ)、家庭読書推奨を行った。
- 近隣の公民館で活動している民間の団体「ぶんぶん文庫」による読み聞かせ、人形劇などの地域との交流を行った。

《上木崎小学校》

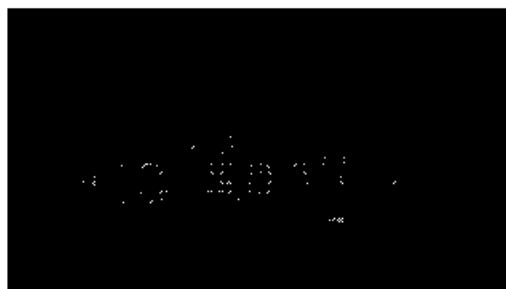
- 児童による異学年間による本の読み聞かせ交流会を開催した。
- 地域のボランティアグループによる放課後の「おはなし会」を実施した。
- 保護者に親子で読む本として学校図書館を貸し出し、親子読書を推進した。

《文蔵小学校》

- 日常的に、校内で友達や先生に本の内容を紹介したりする「読書郵便」が行われてきたが、それを家庭に広げるとともに、読書郵便ボランティアを募り、地域に読書郵便を広げた。

《常盤北小学校》

- 地域のボランティアによる「お話し会」を学期に1回、各学年で実施した。
- 保護者を対象にした読み聞かせの意義やポイントなどの講習会を開催した。



4. 今後の課題等

この研究の成果を踏まえ、本市が進めている学校司書の全校配置、学校図書館支援センターとの連携や学校図書館の資源共有化を十分に生かして、全小・中学校で家庭・地域と連携した子どもの読書活動の推進を図っていく必要がある。

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

富津市大佐和地区は、もともと読書活動の盛んな地域で、特に吉野小学校は、昭和40年代の家庭教育学級を母体とした母親文庫の発足、昭和58年の第32回読売教育賞の受賞と特色ある読書教育を進めていた。

しかし、本市に公共図書館の設備がない、地域内に書店が少ないといった現状や、社会におけるメディアの多様化といった問題に伴い、最近では本地域も読書活動が盛んであるとは言えない状況にあった。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	富津市立吉野小学校	263	11
2	富津市立大貫小学校	387	15
3	富津市立大貫中学校	378	12

① 吉野小学校

昔ながらの農業生産地。地域の人々は穏和で教育に対する関心が高い。

② 大貫小学校

海岸に面し、商店街・住宅地・田園地帯に囲まれている。地域の人々は協力的である。

③ 大貫中学校

素直な生徒が多く、穏和で明るい。地域の教育に対する関心は高く協力的である。

(3) 協力機関等

- ・富津市立吉野小学校PTA
- ・富津市立大貫小学校PTA
- ・富津市立大貫中学校PTA
- ・吉野小 読み聞かせ お話の会「絵本の森」
- ・大貫小「お話し会」読み聞かせサークル
- ・「ミニミニ図書館」プロジェクト
- ・吉野小学校家庭教育学級「ゆめクラブ」

2. 実践研究の概要

① 読書活動推進会議を核とした読書活動推進サポートチーム作りの推進

「生きる力をはぐくむ読書活動」推進の会を開催し、推進体制の確立・取組の方向性と事業計画の確認を行うことができた。

② 学校・家庭・地域社会が連携した読書イベントの開催

吉野小学校を中心に学校と家庭・地域社会が連携して「読書まつり」を2回開催した。その結果、児童のみならず地域全体の読書に対する意識の高揚を図ることができた。

③ 学校教育委員会による児童に対する読書教育の推進

読書活動年間計画及び吉野小課題図書ブックリストの作成や読書活動の検証授業等を行うことで、児童の読書に対する関心を高め、読書量を向上させることができた。

④ 図書整備部会による図書リサイクル活動の推進

「読書まつり」において「ふる本交換会」を開催した。地域の方から寄付された古本を参加者に無料配布することで、地域全体の読書に対する意識の高揚を図ることができた。

⑤ 読書ボランティア部会による児童・地域に対する読書活動の推進

絵本読み聞かせサークル「絵本の森」による児童に対する本の読み聞かせや社会人講師としての国語科授業・読書活動への参加、図書室環境ボランティアによる図書室の環境に関するアドバイスや図書室の修繕活動等の取組を通し、児童の読書に対する関心を高めるとともに、保護者への啓発を行うことができた。

⑥ 読書に関する現状調査

本事業開始当初、第1回読書まつり後、第2回読書まつり後の計3回、吉野小学校の全保護者と全児童を対象に、読書に関する現状調査を行った。その結果、保護者や児童の読書の傾向や読書に対する意識の持ち方等を把握することができた。

らも、保護者だけでなく地域の方も自由に参加・参観できるよう設定。授業参観・読み聞かせ会・ふる本交換会・ミュージカル公演・講演会等を行ったこともあり、両日とも多数の参加を得ることができた。「読書に関する現状調査」の結果からも分かるように、児童・保護者の読書に対する意識を高揚させることができた。また、本地域全体への読書の啓発にもつながった。

3. 実践研究の内容及び成果

① 読書活動推進会議を核とした読書活動推進サポートチーム作りの推進

平成14年11月30日（土）、吉野小学校体育館にて「生きる力をはぐくむ読書活動」推進の会を開催。参加者は、吉野小保護者、大佐和地区読書推進会議構成員、吉野小職員。本事業の趣旨・内容、読書の必要性をより多くの保護者に伝えるために、授業参観後に推進の会を設定し、保護者が参加しやすいように配慮した。

推進の会の主な内容は以下のとおり。

- ・代表校あいさつ・委嘱状交付並びに教育長あいさつ
- ・本事業についての説明
- ・講演会演題
「子どもたちに読書を ～今、私たちにできること～」
講師
全国図書館協議会読書教育推進委員長
徳永 隆憲 先生

この取組により、推進体制の確立・取組の方向性と事業計画の確認を学校と地域・家庭との間で行うことができた。また、講演会は、読書のすばらしさや必要性を再認識し、読書に対する関心を高めるよい機会となった。

② 学校・家庭・地域社会が連携した読書イベントの開催

平成15年6月29日（日）と11月22日（土）の2回、吉野小学校にて読書まつりを開催。どち

読書まつりの内容は以下のとおり。

<第1回読書まつり>

- ・全校児童による詩の群読の発表
- ・クラスごとの発表（ブックトーク・読み聞かせ・語り等）
- ・図書整備部会を中心とした図書のリサイクル活動（ふる本交換会）
- ・読書ボランティア「絵本の森」による地域を対象にしたお話し会
- ・ミュージカル公演「オズの魔法使い」

<第2回読書まつり>

- ・読書授業実践発表
- ・読書啓発パンフレット配布（研究のまとめの報告を兼ねる）
- ・講演会
演題「親子で知ろう 読書の楽しさ」
講師 児童文学作家 村中 幸衣 先生

なお、2回目の読書まつりでの講演会は、吉野小学校と大貫小学校との共催によるもので、両校の児童・保護者を対象に、会場を公民館の大ホールに移して行った。低学年の部と高学年の部による2部構成で、読み聞かせや大型絵本によるゲームを通して読書のすばらしさを語っていただき、両校の児童・保護者の読書に対する関心を高めることができた。

- ③ 学校教育部会による児童に対する読書教育の推進
- ④ 図書整備部会による図書のリサイクル活動の推進
- ⑤ 読書ボランティア部会による児童・地域に対する読書活動の推進

各部会の取組の具体的な内容は以下のとおり。

<学校教育部会>

- ・読書活動年間計画の作成
- ・古野小課題図書ブックリストの作成
- ・図書室の整備
- ・図書に関する掲示物の作成
- ・千葉県立中央図書館の図書利用
- ・読書活動の検証授業

<図書整備部会>

- ・「読書まつり」において「ふる本交換会」を開催
 - 地域に呼びかけ、古本の寄付を募る
 - 大人向け、子ども向けに分類
 - 「読書まつり」参加者に無料配布
- 残った図書の中から一部を図書室へ

<読書ボランティア部会>

- (絵本読み聞かせサークル「絵本の森」)
- ・児童に対する本の読み聞かせ(月2回程度)
- ・社会人講師としての国語科授業・読書活動への参加(読み聞かせのモデル等)
- ・「絵本の森だより」による児童・家庭に対する読書の啓発
- ・「読書まつり」でのおはなし会(図書室環境ボランティア)
- ・図書室の環境に関するアドバイス
- ・図書の修繕活動
- ・図書台帳の管理(ラベル貼り・コンピュータへの入力等)

以上の取組は、児童の読書の関心を高める上で有効であった。また、これらの取組を授業参

観で保護者や地域に公開したり、その様子をPTA広報等で広めたりすることで、保護者への啓発という点でも有効であった。

⑥ 読書に関する現状調査

平成14年7月の第1回現状調査では、保護者・児童共に半数以上が「読書は好き」と回答し、90%近くが「読書は大切」と回答していることから、本地域の読書への関心は高いと言える。しかし、保護者の約30%に不読者が見られる。また、保護者の読書への関心が高い程、児童も読書好きになるという傾向が見られた。この結果、学校と地域・家庭が更に連携して、児童だけでなく保護者に対しても呼びかけ、本地域全体の読書量を向上させる必要があることが明らかになった。以上から、平成15年度、2回の読書まつりを開催するに至った。

第1回読書まつり後の現状調査では、保護者の80%と児童の95%が「読書まつりで古本をもらった」と回答し、さらに保護者の67%と児童の88%が「もらった古本を読んだ(読んでいる)」と回答した。

また、第2回読書まつり後の現状調査では、「本屋に行くようになった」「図書館に行くようになった」「本を読むようになった」という回答が、それぞれ「保護者10→21%、児童20→45%」「保護者8%→11%、児童14→26%」「保護者48→54%、児童67→77%」と2回目の現状調査より更に増えた。

以上から、学校で読書の機会を増やしたり、地域を挙げて読書に親しむ機会を設けたりすることは、地域全体の読書量や読書に対する意識を高める上で有効であったといえる。

4. 今後の課題等

「読書まつり」を始めとした学校・家庭・地域社会が連携して行う読書活動の継続と、より効果的な連携の仕方の追究が、本地域における今後の課題であると考えられる。

神奈川県教育委員会

推進地域名	中井町
-------	-----

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

中井町は、神奈川県南西部に位置する面積約20km²、人口約10,300人の緑豊かな町である。町の北部に東名高速道路秦野中井インターチェンジがあり、東京都心からは約1時間（都心より70km圏内）の距離にある。

明治41年に、中村と井ノ口村が合併して中井村となり、昭和33年中井村誕生50年を契機に単独で町制を施行し、現在の姿になった。

昔から農業が盛んで、酪農やミカン、煙草、野菜の栽培などが営まれてきたが、昭和40年代以降、宅地の造成や企業の進出が進み、近年は、急速に都市化が進展している。特にインターチェンジ周辺には、本町の特徴である緑豊かな自然との調和を目指した開発事業「グリーンテクなかい」（工業団地）が完成。流通関係や研究開発型の企業が進出し、独創的なまちづくりを進めている。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	園児・児童・生徒数	学級数
1	中井町立中井中学校	298	10(1)
2	中井町立中村小学校	275	12(1)
3	中井町立井ノ口小学校	261	11(2)
4	中井町立井ノ口幼稚園	53	2

平成15年5月1日現在。()は特殊学級数。

① 中井中学校

町のほぼ中央の丘の上に位置し、周囲を豊かな自然に囲まれ、運動施設が備わった町中央公園が隣接している。

男子ソフトテニス部の平成15年度全国大会への出場など、勉学・スポーツ・文化活動と多方面で優秀な成績を修めている。平成13年度から、毎日の朝読書を実施している。

② 中村小学校

平成11年、校舎の大規模改造によりオープンスペース型の校舎を新築し、広々とした空間を

活用した開放的な教育を実践している。平成13・14年度には文部科学省「歯・口の健康づくり推進指定校」実践研究協力校として実践に励み、平成15年度には優良校として表彰された。司書教諭配置校。

③ 井ノ口小学校

東名高速道路秦野中井インターチェンジに近く、交通量が多い幹線道路脇に位置しているが、学校から少し足を伸ばせば、自然に恵まれた地域である。平成14年度県から愛鳥モデル校の指定を受け、学校近くの巖島湿生公園をフィールドに環境教育を中心とした総合的な学習の時間の推進に取り組んでいる。

④ 井ノ口幼稚園

井ノ口小学校に隣接している。園児は毎日保護者によって送迎されるので、保護者と教職員との連携が深い。地域の高齢者との交流や畑での野菜作りなど、人や自然との交流を大切にしたい指導を推進している。平成14年度絵本コーナーを開設し、絵本の貸出業務も開始した。

(3) 協力機関等

① 井ノ口公民館

各種教室・講座・講習会等を主管し、町民に役立つ実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行っている。町図書室の管理や運営も行う。

② 農村環境改善センター

農業の健全な発展と町民の社会的、文化的生活向上を推進し、あわせて地域連帯感の高揚を図るため設置された。町図書室の管理や運営も行う。

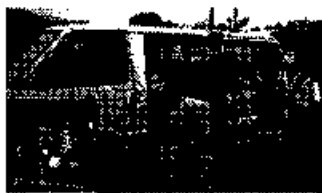
③ その他

社会教育委員会議・青少年指導員連絡協議会・子ども会育成指導者連絡協議会・生涯学習推進員連絡協議会・町PTA連絡協議会の各団体の代表の方々の協力をいただいた。

2. 実践研究の概要

本教育委員会では、各家庭で活用されていない書籍を回収する「書籍リサイクル運動」、夏季休業

をはさんで募集した「読書活動推進標語・ポスターコンクール」等の事業を通して、児童・生徒が読書への興味・関心を高めるよう働きかけた。



<書籍リサイクル運動>

また、「本の読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリング、アニメーション」等の学習会を通して、教員、保護者

やその他町民が自信を持って児童・生徒の読書活動推進に当たれるよう取り組んできた。平成15年度の後半では、毎年11月3日を「中井町読書の日」と定め、読書活動推進標語・ポスターコンクールの優秀者の表彰や学校等における読書活動推進の取組等の発表を行った。

学校等では、日ごろの「朝読書」「本の読み聞かせ」に加え「子ども読書の日」「読書週間」にちなみ、各学校や学年の実態に応じた取組がなされた。

また、幼稚園や小学校では、図書館の整備や本等の読み聞かせを行う保護者ボランティアを募ったところ数名ずつ程度の応募があり、特に図書館の整備では町教育委員会が派遣する読書活動推進指導員（図書館司書有資格者）と連携をとりながら活動することができた。

このような事業を展開する中、その成果を月々行う調査やまとめの調査により評価した。

3. 実践研究の内容及び成果

(1) 本の読み聞かせ勉強会

(平成15年2月16日開催)

保護者等36名の参加。当日は、中学生も4名参加した。

読書研究者であり文教大学講師の蔵元和子氏を講師として迎え、本の読み聞かせについて講演会を開催した。

(2) 書籍リサイクル運動

(平成15年3月15日開催)

各家庭から寄贈された書籍を貸出・返却自由な図書として活用するため、また、回収作業を通して子ども会員と地域の方々との交流を深めるために、本運動を実施した。

当日町農村環境改善センターに回収した書籍は、中学生ボランティアと青少年指導員が整理した。

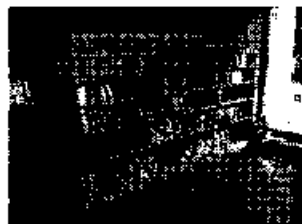
[書籍リサイクル運動の結果]

協力者：27自治会、生涯学習推進員、子ども会育成指導者、青少年指導員、子ども会員107名、中学生ボランティア8名

書籍寄贈者：106名、寄贈された書籍：1642冊

(3) なかい文庫

書籍リサイクル運動で寄贈された書籍は、「なかい文庫」と名付け、町農村環境改善センタ



<なかい文庫>

ー並びに井ノ口公民館内に設置した書架(町購入)に並べ、貸出・返却自由な書籍として町民に活用いただいた。

(4) 読書活動推進指導員の配置

図書館司書資格保有者を非常勤職員として雇用し、曜日を割り当て、幼稚園・学校はもとより町図書館にも派遣した。

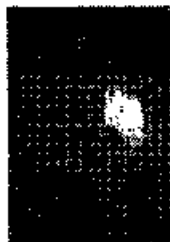
(5) 楽しい読書の学習会

(平成15年4月12日開催) 28名参加
蔵元和子氏を講師として招き、「ブックトーク」「ストーリーテリング」「アニメーション」などの手法について学習会を開催した。

(6) 読書活動推進標語・ポスターコンクール

(平成15年9月締切・11月展示)

本コンクールは、町内在住の小・中学生対象に募集した。標語の部は小学校低学年・中学年・高学年以上の3部門、ポスターの部は小学校3年生以下と4年生以上の2部門からそれぞれ優秀作品3点ずつを選出し、10月27日からの読書週間に合わせ、町農村環境改善センター玄関ホールに展示した。



<啓発ポスター>

また、各部門の最優秀作品を一つにまとめた「中井町読書の日制定」啓発ポスターを作成し、各自治会の看板や学校等を始めとした公共施設

内に掲示した。

(7) 「中井町 読書の日」の制定と記念事業

(平成 15 年 11 月 3 日開催)

読書週間の中の 11 月 3 日を「中井町 読書の日」と定め、記念事業を通して町民の読書活動への興味・関心の高揚を図った。記念事業前半式典の部では、中井町長・町議会議員・教育長から、標語・ポスターコンクール優秀者へ表彰状の授与を行った。

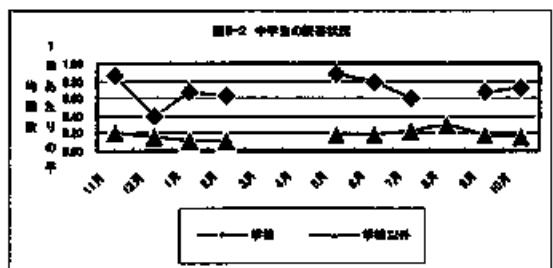
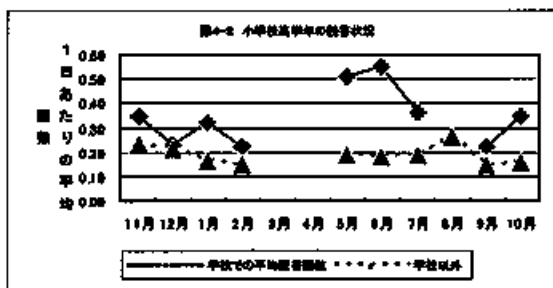
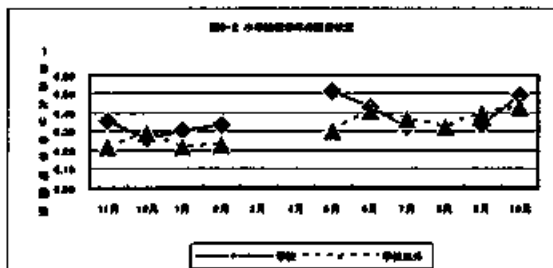
また、後半アトラクションの部では、幼稚園・小学校の教諭が読書活動推進の取組を発表した。

(8) ブックスタート事業

(平成 15 年 12 月 7 日・16 年 2 月 4 日開催)

本事業は、「子育てを支援し、ひとつくり・まちづくりの運動の一環として事業の推進にあたる。」という目的の下、保健福祉課と連携をとりながら、今年度(平成 15 年 4 月 2 日以降)生まれた子どもを対象として始めることとした。

(9) 読書調査から



詳細については紙面の都合上割愛するが、まとめのアンケートの第1発問では、「子ども読書

の日」を理解している児童・生徒及び保護者は全体の 20%前後しかいなかった。機会を見ては周知を図る必要がある。定められてから 2 年たった時期の理解度がこの程度であることを考えると、新規事業の周知については、かなりの工夫が必要であると考えられる。

また、同じまとめのアンケートでは、児童生徒自身も、また保護者からも読書量が多くなったという回答が多数を占めていたが、左のグラフのように月々行った読書量調査からはそれを裏付けるデータは得られなかった。小学生の「学校での平均読書回数」が、2月に比べ5月大きく増加しているのは、朝読書の回数が今までの週1回から平成 15 年度より 2 回になった表れであると考えられる。

4. 今後の課題等

子どもの読書活動を推進するためには、子どもの内面に迫る取組が必要であり、1 年や 2 年で成果が表れるのは難しい。新たな取組も考慮しつつ、これまで 2 年間の取組は今後の推進活動でのペースとして変容を見極めたいと考える。

本事業の調査では、子どもたちは時間を確保さえすれば読書をするという傾向がつかめた。例えば、「中井町読書の日」のある時間帯に、町内一斉に読書をするというような設定をしていくことも一つの方法として考えることができる。

また、本事業では、「学校、家庭、地域社会が一体となって」がキーワードであり、初年度に町を挙げて「書籍リサイクル運動」を展開したが、とても大きな労力を必要とした活動であったが、その成果はあまり見えなかった。今、子どもたちが地域社会で活動する時間は限られている。学年が上がるにつれ、子どもを束縛するものが多くなる。学校週 5 日制でゆとりが生まれたはずであるが、子どもたちの現実はどうであろうか。そのような中で、子どもの読書活動を推進するために、地域社会がいったいどんな役割を担うことができるのか、試行錯誤を繰り返しながら追究できたらと考える。

長野県教育委員会

推進地域名	茅野市
-------	-----

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

長野県中部の東よりに位置し、八ヶ岳、蓼科、白樺湖などの観光リゾート地を有する人口約5万6千人の高原の町。当市では、様々な事件が次々と起き、憂慮すべき現状にある世相や子育ての環境を、読書の楽しみや読書の力を生かすことで根源的に改善し、未来に夢をつなぐまちづくりと生きる力を持った児童生徒の育成が可能になるのではないかと考え、市民と行政のパートナーシップによる全市的な読書推進活動に取り組んでいる。平成12年7月に「読書の森 読りーむ in ちの」(公民協働の読書推進組織)を立ち上げ、乳幼児期からの連続的・継続的・発展的な読書推進活動に力を入れている。



<公民協働の全市的読書推進活動(茅野市)>

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒	学級数
1	茅野市立永明中学校	428	12
2	茅野市立永明小学校	612	20
3	茅野市立豊平小学校	254	10
4	茅野市立米沢小学校	255	12

① 永明中学校

茅野市の市街地にあり、教育目標「自らの

生活をたくましく生きる」の具現のために「挨拶・清掃・黙想・合唱」の4つの柱と「時間・給食・読書・全校集会・下駄箱・ごみ拾い」を重点に据え、読書を教育を支える重要な活動と位置付けている。

② 永明小学校

茅野市の中心に位置する。地域や保護者の学校への関心も高く協力的。設立2年目の読み聞かせボランティアや17年目を迎えるボランティアサークル「紙ふうせん」は読書活動を支えている。読書活動の推進のため、校内職員組織を整え実践に力を入れている。

③ 豊平小学校

八ヶ岳山麓に残る縄文遺跡文化の中心地に位置し、豊かな自然や環境を生かした体験的学習に重点をおき、地域との連携を大切にしている。

④ 米沢小学校

「自らやり遂げ、心拓く子」を目指し、地域との連携を大切に実践を積み上げている。朝の十分間読書、読書ボランティア及び全職員による朝の読み聞かせ、図書館を利用した課題解決学習に力を入れて取り組んでいる。

(3) 協力機関等

茅野市図書館・公民協働の読書推進組織「読書の森 読りーむ in ちの」

2. 実践研究の概要

① 読書に関する現状の調査

ア 乳幼児から始まる全市的な、連続的・発展的な読書活動と成果

イ 永明中学校の実践から見た成果

② 学校・家庭・地域が連携した取組

ア 公民協働の全市的な活動の成果

イ 小・中学生の参加と広がる読書活動

ウ 読書ボランティアの活動

③ 学校図書館の情報センター機能を活用し課題解決力/情報活用力を伸ばす実践

ア 協力校米沢小学校の事例

3. 実践研究の内容及び成果

① 読書に関する現状の調査

ア 乳幼児から始まる全市的な、連続的・発展的な読書活動と成果

《活動》

赤ちゃんに絵本を贈るファーストブックプレゼントから始まり、現在市内17保育園の「朝の絵本の時間」また、市内9小学校、4中学校、2高等学校の全学校・全学級で「朝の読書」が実施されている。

《成果》

アの① ファーストブックプレゼント事業

☆茅野市のすべての赤ちゃんに絵本をプレゼントする。

- ・平成12年8月から 出生届時 1冊
- ・平成13年4月から 上記に加え4か月健診時に1冊の計2冊



＜4か月健診児時の絵本プレゼント＞

※既に4,000冊を越す絵本が手渡された。

☆プレゼントを受けた子どもたち(母親)の変容

(アンケート14年12月…15年10月)

250家庭中185家庭回答 《数字は回答数》

- ・本をもらうことで子育てを応援する環境を感じ取り、育児に希望を持つ親が増えた。(62…81)
- ・絵本をじっと見たり絵に反応する子どもの姿から、親も積極的にかかわろうとするようになった。(59…102)
- ・本好きな子どもが増え、兄弟姉妹間で読み聞かせを楽しむ姿が増えている。(32…72)
- ・本を選ぶ視点ができた。

・父親が絵本に関心をもつようになった。(以下略)

アの② 朝の『絵本の時間』(保育園)

9:00~9:30 日課に位置付いた『朝の読書』(小中高等学校)

《実施校の変化》	平成13年		平成15年	
	小	中	小	中
5日完全実施(教員同席)	5校	1校	8校	4校
〃 (教員不在あり)	2	0	1	0
4日実施	1	3	0	0
3日実施	1	0	0	0

《小学校9校 中学校 4校》

○ 全市的な読書推進活動の進展の中で、市内のすべての小・中・高等学校が朝の読書を日課に位置付け成果を上げている。

《生徒の変容》

☆ 小学校

- ・落ち着いた学校生活のスタートがきれる。
- ・読書への興味が増し図書館に来て本を読んだり利用する児童生徒が増えた。
- ・読む力(速読・語彙・読みきる)が付いた。
- ・本を通じた異年齢交流が広がった。

☆ 中学校

- ・授業の開始がスムーズになった。
- ・本屋に立ち寄る生徒が増えた。
- ・教員も真剣に読書に取り組むようになった。
- ・読書時間だけでなく学校生活が落ち着いた。(アンケート回答上位から)

イ 永明中学校の実践から見た成果

永明中学校は、平成9年から「朝の10分間読書」を継続し7年目を迎えている。

《成果》 (永明中学校研究のまとめより)

○ 平成9年より 8:15~25(毎朝)

師弟同行で漫画・雑誌・教科書以外の本(読書時間の確保 動から静の時間へ)

☆ 平成15年 アンケート

- ・この時間をとても楽しみにしている 50%強
- ・この時間が自分にとって「必要」「とても必要」(61%強) 3年生は69%

※ 生活の様子や生活記録から

- ・10分間の読書が呼び水になり、自分自身の読書活動が活発になり、休み時間や家庭での時間に読書を取り入れるようになった生徒が増えた。
- ・教科学習とは一線を画した「自由読書」を楽しむ生徒が増えた。
- ・新入生はアニメのノベライズ版や部活動の技術書が多いが、学年が上がるにつれて長編や文学作品に傾倒する生徒が見られ読書の幅が広がる。

《課題》 読書傾向と個に応じたかわり
読ませっぱなしではいけない
学級差・実践の継続・質を高めること

② 学校・家庭・地域の連携した取組

ア 公民協働の全市的な活動の成果

茅野市の施策3本柱は環境／福祉／教育。教育分野の柱に読書が据えられ、公民協働で子どもたちの心の育ちを応援する読書活動（「読書の森読み〜む in ちの」の活動）を進めている。読書ボランティア活動・赤ちゃんの絵本研究・ブックリストの選定・読み聞かせや紙芝居などの実践・市内各所でのお話会など地域の連携を大事にした活動を進めてきた。

アの1 保育園や学校を支える読書活動

○ 朝の読書見学会の実施

全市的に毎日継続されている園児・児童・生徒の「朝の読書」（絵本の時間）の様子を市民・教育委員会・読書ボランティアなどが、計画を立てて見学する機会を設けた。

（17園・13小中学校・2高等学校のすべて）

《見学会参加者の感想のまとめから》

- ・子どもたちは、（幼児から高校生まで）次第に本を読むことが（お話を聞くことも）好きになっている。乳幼児期からの連続的な活動の中で、様々な本と出会い、本を通して心を耕し（知性・感性・情緒）ことばを磨く（思考・表現・コミュニケーション）大切な時間と

なっている。

- ・保育園の育児や学校教育のオアシスとなっている。朝の読み聞かせや読書が子どもたちの心に静寂の中で内省と反省、緊張と集中を生み出し、同時に潤いを生む時間を作り出している。数字で表すことはできないが、子どもたちの変化は大きい。
- ・基礎学力の向上がうかがえる。聞く力、読む力、語彙力など、いろいろな場面で成長がとらえられる。

イ 小中学生の参加と広がる読書活動

お話会や中学生と小学生の交流活動、市民とともに進める読書活動への児童生徒の参加を通して、主体的な活動を育てた。

（事例）協力校 永明小学校

- ・姉妹学級への図書委員会による紙芝居、姉妹学級によるペアー読書、永明中図書委員会、地域ですすめるお話会での児童による読み聞かせやパネルシアター・影絵・紙芝居等の発表など。子どもたちが自らが表現に参加することで、読書を楽しむ姿勢や行動力が高まってきた。



＜地区お話会で特読「宮沢賢治の作品」を発表する小学生＞



＜小学校に読み聞かせする中学生＞

ウ 読書ボランティアの活動

市内13小中学校の読書ボランティアの存在
平成13年 6校→平成15年度 10校に

- ・月1回の朝の読み聞かせ・読書旬間中の『お話の部屋』（米沢小）
- ・朝読書時間に週1～2回読書ボランティアが読み聞かせに入る。読書ボランティアサークル「紙ふうせん」年6回のお話の部屋（永明小）
- ・朝読書の各学級読み聞かせと月一回の休み時間読み聞かせ。また、図書館内外の装飾やいす・棚などの整備を行う。活動の後に、子どもたちの様子や図書館の選書等について職員と意見交換している。子どもたちの姿は著しく、意欲的な姿が見られるようになった。

（豊平小学校）

読書ボランティアは15年度になって広がり、学校における読書環境の一つとして効果を上げている。

③ 学校図書館の学習情報センター機能を活用し課題解決力／情報活用力を伸ばす実践

《学校図書館資源共有型モデル地域事業》

（平成13～15年）の中での研究

☆協力校 米沢小学校の事例

5年生 総合的な学習の時間

《野口英世ってどんな人？》

開校130周年記念事業の一つとして、それまで図工準備室に置かれていた野口英世像（塑像）が恒久化されることになった。この像は昭和28年当時の児童と教員が「野口英世のような人になりたい」という願いを持って製作したものであり、その願いを新たに探る学習に取り組んだ。

児童は英世についてはなにも知らず、図書館で調べることになった。しかし、自校の図書館には、関係の書籍は2冊程度しかなく行き詰まった。そこで、茅野市では、図書館物流システムが稼働し始めたことを知り、英世に関する本を市内各校から集めて調べ学習を進めた。

・身近なところにあった像をきっかけに意欲的に学習に臨んだ。→ 何度も何度も本を読返す姿から。

・調べ方を学ぶことで追究が深まった。→ 調べ学習の過程に沿った学習が進んだ。

・課題（人物像・業績・考え方・生い立ち・支えた人々など）を共有できたことにより、有効な資料の選び出しができた。→ 困ったら図書館に行き調べようという意識が高まった。

・調べたことをもとに発表したり話し合ったりすることを通して、英世の生い立ちや生涯や人生観を、自分の生き方に照らして考え学習を深めることができた。→ 調べたこと（事実）に基づいて自信を持って発表できるようになった。

○ 学校図書館資源共有型モデル事業（平成13年度～平成15年度）の取組から

4. まとめと今後の課題等

茅野市における「生きる力をはぐくむ読書活動の推進」は、市の教育施策の重点に位置付けられた活動であり、本指定事業（平成14、15年度）で終わるものではなく、今後継続していく。児童生徒の読書量や図書館の貸出数などは、飛躍的に増加しているが、読書活動ではぐくまれる生きる力は、10年後、20年後を見通して質的にとらえることが求められる。読書環境の向上、市民と行政の協働による位置付けの明確な読書推進活動、特に、乳幼児・保育園（幼稚園）・小中学生・高校生を結ぶ日常的な読書活動など、大きな成果が期待できる段階に来ていると当市では評価している。

学校図書館の環境が整い、全市的な読書推進活動が継続するので、今後も引き続き成果を見極めながら事業を推進することが課題である。

長野県教育委員会

推進地域名	大 町 市
-------	-------

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

大町市は長野県の北西部に位置し、西は北アルプスが連なっていて市街地の標高が700m余りと高く、気候は内陸性で寒暖の差が大きい。また、豊富な水資源に恵まれ、一時はアルミニウムや繊維の工場が稼働し活気に溢れていたが、近年は撤退が続き若者の市外への転出もあり、これからは産業の育成と魅力ある町づくりが課題となっている。

(2) 推進協力校の概要

	学 校 名	児童・生徒数	クラス数
1	大町市立大町第一中学校	401	14
2	大町市立大町西小学校	467	18
3	大町市立大町北小学校	590	20

① 大町第一中学校

「ゆとりと充実」を目指す二学期制の実施
単元評価カードを作成し、学習の到達度を
示し、また、自分の目標に向かって努力した
人を認め合う「向上の証」の表彰を行っている。

② 大町西小学校

子どもたちにやる気と自信・達成感を
「公開授業」を行い、国際交流集会や外部
講師を招き広くいろいろな人から学ぶことを
大切にしている。

③ 大町北小学校

福祉の心を学ぶ、ふるさとに学ぶ。
昭和53年開校以来、さまざまなボランティ
ア活動を続けている。

(3) 協力機関等

- ・読書活動推進会議
- ・読書活動推進の会
- ・市立大町図書館
- ・読み聞かせボランティアサークル

2. 実践研究の概要

(1) 読書活動推進のための支援及び活動の普及
① 「読書活動推進会議」が中心となり、15の
ボランティアサークルの活動を支援。

② 平成16年4月から「ブックスタート」支援
事業を市民と行政との協働によりスタートす
るために学習会を開催。

(2) 推進校における読書活動の推進

① 「読書活動推進の会」が中心となり、児童
生徒の読書状況の実態調査を実施し、反省と
分析の上で今後の読書活動を推進していく指
針を見出す。

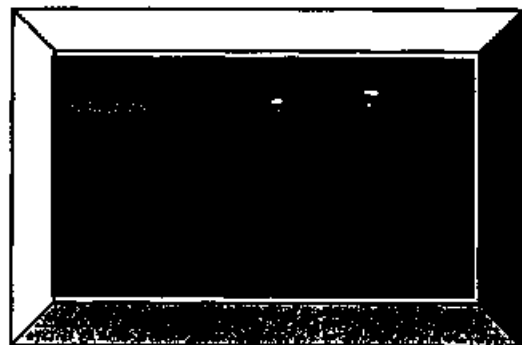
② PTA講演会との共催で「生きるというこ
と」をテーマに自作朗読コンサートを開催。

(3) 読み聞かせについての研修会等の開催

① 教育機関等で読み聞かせ活動を行なってい
る。ボランティアの養成を目的とした養成講
座や研修会や一般市民を対象とした学習会を
開催。

(4) フォーラムの開催

① 読書活動推進会議を中心に読み聞かせボラ
ンティア代表者会、市立大町図書館等協働で
「子どもと本のつどい in おおまち実行委員
会」を立ち上げ、『BookBook2003』を開催。



＜小中学生が選んだ好きな本コーナー＞

3. 実践研究の内容及び成果

(1) 読書活動推進のための支援及び活動の普及

① 読み聞かせ活動が年々盛んになり、今年度
は3サークル増え、15の読み聞かせボランテ
ィアサークル、105名の登録がある。幼児教室
から中学校まで週1回から月1回の定期的な
活動を行っている。

② 2歳児健診時に絵本の読み聞かせを行なっているが、4月から「ブックスタート」事業を行なうため、先進地茅野市社会教育委員の本間佐男先生を講師に学習会を開催した。また、乳幼児期から本と親子で触れ合う時間の大切さを伝えて絵本を手渡すため、読み聞かせボランティアの研修会も行った。

(2) 推進校における実態調査の実施

① 推進校における読書旬間の取組とアンケート調査による具体的な方策・結果

—実態調査のまとめ—から
 <興味・関心>について

問：あなたは読書が好きですか？

①たいへん好き②わりあい好き③あまり好きではない④きらい



問：おうちの方からみて、お子さんは読書が好きだと思われますか？

	小学生	中学生	小学生 (H15)	中学生 (H14)
大好き	9.9	9.5	22.6	—
好き	47.9	47.6	33.9	—
あまり好きでない	31.0	33.3	38.7	—
きらい	4.2	0.0	3.2	—
わからない	7.0	4.8	3.2	—

(単位：%)

*小学生では読書好きな児童が8割を超えるが保護者は6割弱と知っている。また、中学生でも6割弱の生徒が好きである。読書習慣が身に付くように、読書時間の確保など家庭・学校・地域での働きかけが大切である。

<読書量>について

*中学生では不読者数は増加傾向にあるが、読書旬間後には半減していることもあり、「読書のすすめ」により歯止めがかかった。中には空いた時間をうまく利用している生徒もおり

読書機会を多く設定していくことが重要になってくる。

(保護者)

問：お家の方の読書は1週間に何時間くらいしますか？

	小5男	小5女	中2男	中2女
①1時間未満	56.3	69.2	44.4	50.0
②1時間～	25.0	25.0	33.3	0.0
③2時間～	9.4	9.4	22.2	16.7
④3時間～	0.0	0.0	0.0	16.7
⑤4時間～	9.4	9.4	0.0	16.7

(単位：%)

*保護者の読書量は「1時間未満」が半数にのぼり、少しの時間親子で本に親しむ時間を持つ努力をしていくよう働きかけていきたい。

<読み聞かせ> について

問：あなたは読み聞かせをしてもらうのは好きですか？

①大好き ②好き ③あまり好きではない ④きらい

() 内は昨年との差

	小5男	小5女	中2男	中2女
①	6.1 (-13.3)	20.5 (-10.3)	8.3 (+0.6)	0.0 (-5.3)
②	63.6 (+24.4)	53.8 (+5.1)	0.0 (-15.4)	50.0 (+2.6)
③	27.3 (-11.4)	20.5 (+2.6)	50.0 (+3.8)	18.8 (-18.0)
④	0.0 (-3.2)	5.1 (+2.5)	25.0 (-5.8)	31.3 (+20.8)

(単位：%)

*「読み聞かせ」をしてもらうのが好きな小学生は7割、中学生でも5割に達し昨年と比較して微増しており、読書機会を増やすよう発信する。

*「読み聞かせ」はフォーラムや子育てセミナー・リーダー研修会など学校や地域で行い、子ども同士のコミュニケーションを取る絶好の機会である。大人が対する時より楽しんでおり、少子化時代に異年齢との交流は貴重な時間を過ごす機会でもある。

<読書指導>について

*学年に関係なく読書量には個人差があるが「読書のすすめ」の効果を実感している。

*日ごろの推進活動が読書を浸透させる手段になる。

月別貸出冊数及び利用人数

	北小		西小		～中	
	冊数	延人数	冊数	延人数	冊数	延人数
10月	227	197	455	235	30	24
11月	309	275	424	213	43	39

* 読書旬間中の学校全体の取組が効果を上げ、貸出冊数や利用人数の増加につながった。

〈学校・家庭・地域社会の連携の取組〉について

* 参観日等で保護者に対して読み聞かせ活動の啓発を行い、家庭での読書が習慣化するように繰り返し呼びかけていく。

* ボランティアによる読み聞かせ活動を推進するように、公共施設（図書館・公民館・児童館）などを利用しやすいように働きかけることが重要。

② 大町北小学校のPTA講演会との共催

* 市内6校の小中学校のPTAに呼び掛け、大北地方の教職員で形成される「北安曇朗読研究会」の講師である尾崎美千代先生の『生きるということ』をテーマにした自作朗読コンサートを開催した。これを開催することにより三者の協力体制の確立と読み聞かせ活動の事例発表による読書推進の啓発を行うことができたと考えられる。

(3) 読み聞かせ活動の研修会等の開催

① 「読み聞かせの輪を広げる学習会」を2回開催し、『紙芝居』の効用や『昔話』がいかにか子どもに影響を与えるかなど興味深い講演会となり多くの方の参加を得た。また、読み聞かせサークルの事例発表は各サークルの情報交換の場であり、ネットワーク作りの一助になり読み聞かせの輪を広げることに繋がった。

② 「ボランティア養成講座」を前・後期計8回開催し、理論面・実践面等多くのことを学ぶことにより、レベルアップを図るとともに地域での読み聞かせ活動に生かされた。

③ 「ボランティアのための研修会」を5回開催し基礎部分での技術向上を図った。フォーラム後の研修会では民話を勉強していき

いと希望から「大町の民話」を取り入れて関心のある内容で好評を得た。

(4) フォーラムの開催

① 実行委員を中心にサン・アルプス大町の全館を使用し、～絵本の世界へあそびにおいて～(副題)の楽しい絵本の世界を作り上げた。

『小中学生が選んだ好きな本』約200冊、『読んでもらいたいお薦め絵本』約300冊、『どんぐりと山猫』の原画などたくさんの絵本を展示し多数の一般参加の方に関心を持ってもらうことができた。

② 市内で活躍している“童話の会”“手作り絵本の会”“高校の影絵サークル”の協力を得、わらべ歌を歌い、手作り絵本・点字絵本にふれ、影絵を見るなど地域との交流もできた。

③ 市内中高生による読み聞かせは異年齢間の交流が行なわれるとともに、中高生の読書への関心、意識の向上につながったと考える。

4. 今後の課題等

(1) 年々、読み聞かせ活動の気運が高まってきているが、定着するために公民館を中心に「おはなし会」を開催し、地域での読み聞かせ活動を推進していく。

(2) 4月から始まる「ブックスタート事業」は関係機関との連携を取りながら、将来の読書習慣を形成するための一歩にしていく。

(3) 市内6校で「読書推進の会」を中心に読書推進活動を継続し、三者の連携により読書時間の確保や読書環境の充実を目指し進めていく。

(4) 大町市全体で子どもの読書活動を推進していく上で、読み聞かせボランティアの技術向上やネットワーク作りを強化して、読書環境の充実の一助となるよう講座等を開催する。

(5) 来年度のフォーラムは図書館を会場に開催期間を一定期間設ける。ゆとりある時間の中でたくさんの絵本とふれ、子ども同士の読み聞かせ体験が異年齢間の交流になり、健全育成につながるものと考え、「生きる力をはぐくむ読書活動」の一環となるように計画する。

長野県教育委員会

推進地域名	波田町
-------	-----

学校	小・中司書教諭	図書	町立図書館司書
校	読書グループ	書	小・中図書館司書

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

波田町は、松本平の西端に位置し、北アルプスを源とした梓川流域南岸に広がる緑豊かな河岸段丘上に開けた、人口 15,000 人余りの町である。近年、松本市のベッドタウンとして人口が増加する中、住民一人一人が豊かな自然にふれあい、はぐくみあい、明日を語り、住んでよかったと実感できるような町づくりを推進している。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	波田町立波田小学校	926	29
2	波田町立波田中学校	517	16

① 波田小学校

町の中央に位置し、赤松の林と、その下陰に咲くつつじの群落に囲まれている自然豊かな学校である。県内でも有数の大規模校であり、「まつかぜプラン」のもと、歌声の響き合う学校づくり、読書活動の充実、花壇づくり、子どもと教員の心のつながりを大切にしたい教育を通して、子どもの心を育て、感性を磨き合っている。

② 波田中学校

学校目標「やかたづくり」(やさしさ・かしこさ・たくましさ)で願う生徒を具現するために読書活動や体験的な活動を通じて、自分自身の生き方を見つめ、よりよく問題解決していく力を育てる、授業改善を推進している。

(3) 協力機関等

波田町立図書館			
波田町読書活動推進会議 (4 部会)			
家庭地域	社会教育委員 小・中学校 PTA 企業関係者	保育所	学識経験者 乳幼児保育者 養護学校教諭

2. 実践研究の概要

- ① 「ブックタウン波田」の具現を目指す「子ども読書活動推進計画」を策定する。家庭における乳幼児期からの読書活動を向上させるために、啓発資料を作成し、その資料に基づいて啓発活動を展開する。
- ② 地域社会における読書活動を向上させるために、町立図書館を核とした読書関係行事の年間計画を立て、その計画に基づいて読書関係行事を展開する。(波田町読書週間、子ども読書の日、本による自然観察会、図書交換会、巡回図書館など)
- ③ 保育所・小学校・中学校・養護学校における読書活動を向上させるために、発達段階に応じた指導資料を作成し、その資料に基づいて読書関係行事を展開する。(発達段階別推薦図書リスト、読み聞かせ・語り聞かせ、10 分間読書、本の紹介、読書意欲の高め方)

3. 実践研究の内容及び成果

(1) 読書活動推進会議による取組

① 読書の啓発資料づくり

家族みんなで読書に親しんでもらうための啓発資料として「家族みんなで読書のすばら

しさを」と題したリーフレットを作成し、町内の全家庭へ配布した。

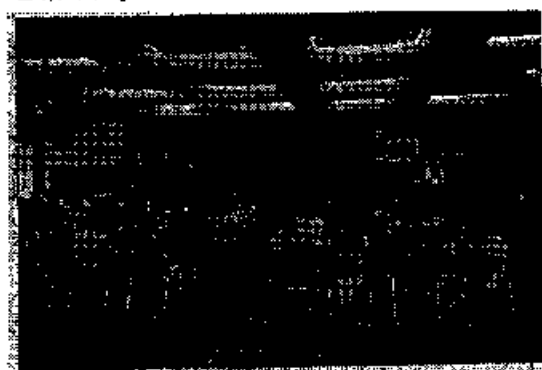


内容としては、町民から寄せられた読書の体験談をはじめ、読書のすすめや音読のよさなどを掲載し、図書館の活用や家庭での読書を呼びかけている。

また、乳幼児・保育園児のいる家庭用として、リーフレット「本は楽しい」を作成し、保育園や町立図書館にある絵本を紹介し、読み聞かせの留意点等を紹介している。

② 読書啓発リーフレットを活用した講座の開催

小学校・中学校・保育園等において、保護者を対象とした読書啓発講座を実施し、各家庭での「テレビ・ターンオフタイム（テレビのスイッチを切る時間）」や「ノーテレビデー」を決めて、家族で読書タイムをとることを勧めた。

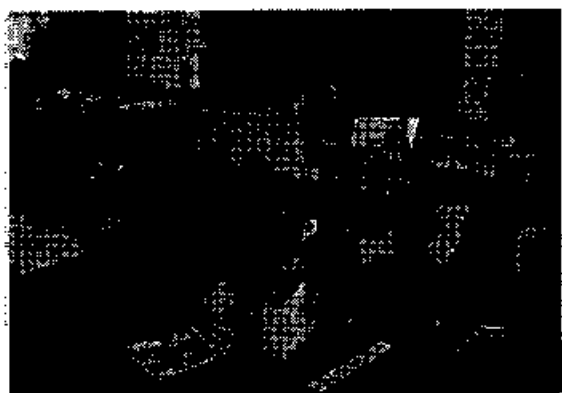


＜中学校保護者を対象とした講座＞

(2) 学校での読書に関する取組

① 朝読書の実施

（小学校）通常の朝読書に加えて、学級ごとに、町内の読書ボランティアによる読み聞かせ・語り聞かせを週1回取り入れる。



◇ 教職員対象のアンケート結果から

- ・休み時間にも本を読む児童の増加
- ・読書量と図書館利用の増加
- ・落ち着いた1日のスタートと、教室内の学習する雰囲気の上
- ・集中力や持続力の向上

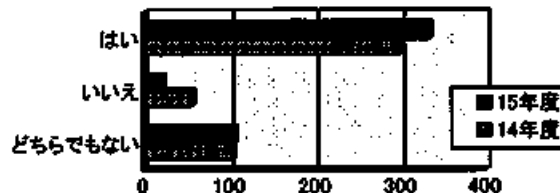
（中学校）生徒が読書の喜びを味わえるようにするための、朝読書の支援の在り方

- ・朝読書と朝学活の関係（日課の見直し）
- ・図書館を利用できる時間帯の拡大
- ・図書を紹介活動の場の積極的な設定
- ・司書教諭、学校司書が積極的に各学級に入り、生徒への助言

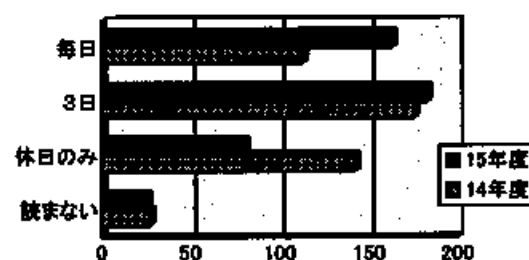
(3) 学校における読書調査（比較）

町内小学校2年～6年を対象に、実践研究に取り組む前と後とを比較した、読書調査結果の一部を紹介する。

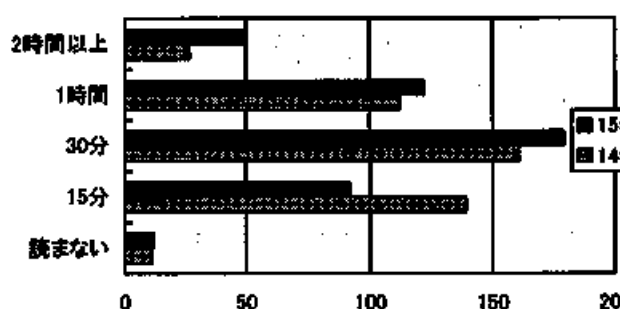
ア 本を読むのが好きですか。



イ 1週間に読む日数。



ウ 1日に読む時間。



(考察)

- ・本を読むのが好きな児童が調査前より増え

ている。15年度は、「いいえ」から「はい」と好転した児童が15%ほど増加している。

・休日のみ読書をしていた児童が、週に3日以上読むようになってきた。

・1日に読む時間が朝読書の時間帯のみだった児童が、30分以上読めるようになった。

(4) 町民全体への啓発活動

① 波田ケーブルテレビを利用した啓発活動

- ・地域全体へ読書関係行事の紹介
- ・読書活動推進会議より活動報告

② 波田町教育フェスティバルにおける読書活動の事例発表及び講演会

平成15年度波田町教育フェスティバル

『読書活動を盛んにして心を育てよう』

【小学生】・読書感想文・本の帯を作ろう

・ポスターによる本の紹介・作家と作品及び感想

【中学生】・読書意欲を高めるために

- ・3年生の取組に学び更に上を目指す
- ・読書活動を支えて(司書教諭)

【高校生】・朗読(梓川高校放送部)

「流れる星は生きている」藤原てい作

【おとな】波田町読書活動推進会議の活動報告

【講演】飯田市立上郷図書館 館長 下沢先生

演題「一緒に楽しもう本の世界を」



読書を通して考える力、豊かな感性、思いやりの心などをはぐくんでほしいという願いを込めて、町ぐるみで子どもの読書活動の推進を図るために実施し、大変好評であった。

子どもたちの日ごろの読書への取組の発表や、読み聞かせの重要性などの講演に、220名以上の参加者は充実した時を過ごすことができた。

“ブックタウン波田”を目指す取組の着実な一歩となったと思われる。

4. 今後の課題等

・子どもたちの人間形成に大きな影響を与える質の高い内容の本に出会えるように、中学生向けの推薦図書リストを整備する。

・保護者の読書にかかわる姿勢が子どもに影響を与えることから、保護者自身の積極的な取組を支援するための学習会や啓発に力を入れる。

・「家庭教育講座」等を利用して、子どもの読書の必要性と、そのために、子どもをTVやゲームなどのメディアから解放することの大切さを訴える啓発を継続する。

・町立図書館を地域の読書活動の拠点として、図書館の専門職員が核となり、「ファーストブック」をはじめ、読み聞かせや読書に関する講演会等を随時開催し、家庭・地域・学校の連携を図るネットワークの構築を進めていく。

今まで、それぞれの立場での読書活動の推進であったものが、2年間の読書活動推進事業の研究成果として、学校・家庭・地域が相互に連携して活動できるようになってきた効果が大きい。

児童生徒はもちろん、保護者の読書への関心が高まり、町全体の読書に対する姿勢や気風が向上してきているように思われる。

今後、「読書の喜び・楽しみを味わえるようにする」「読みたいと思う本と出会えるようにする」環境の整備・充実を図り、読書活動を継続することにより、子どもたちの生活に読書が浸透し、豊かな心と生きる力を身につけた子どもたちの育成に努めたい。

長野県教育委員会

推進地域名	諏訪市
-------	-----

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

推進地域である、中洲・湖南地区は、諏訪市の西側に位置する。御柱で有名な諏訪大社上社を中心に、古くからの住民が住んでおり、住民同士のつながりも強い。しかし最近ではもとは田畑だったところにどんどん住宅やアパートが建てられており、人の出入りも激しくなっている。市役所や市の中心部からはちょっと遠くなるが、諏訪インターチェンジがあるため、大型店や企業なども多い。

読書関係の施設としては、市立の図書館からは離れているが、中洲地区に、岩波書店の本がほぼすべてそろっている諏訪市立信州風樹文庫という小さな図書館があり、子ども向けの図書室も備えている。

(2) 推進協力校の概要

	学 校 名	児童・生徒数	学級数
1	諏訪市立中洲小学校	602	21
2	諏訪市立湖南小学校	375	15
3	諏訪市立諏訪南中学校	434	14

① 中洲小学校

諏訪市内で一番大きい小学校である。急激に人口が増えている地区にあるため、クラス数も徐々に増えつつあり、校舎の増築も行われた。読書に関しては、昨年度から、読書ボランティアの活動開始と他校に先駆けての学校司書の専任での配置により、環境が整えられつつある。また、隣接する信州風樹文庫には、学校帰りに寄る子どもも多い。

② 湖南小学校

諏訪市の西の端にある小学校で、規模は中洲小よりも小さい。昨年度より、朝の読書、読み聞かせボランティアの活動が始まった。子どもが自分一人で行ける場所に図書館・書店などの読書関係施設がない。

③ 諏訪南中学校

創立18年目の、諏訪市で一番新しい学校である。朝の読書は平成15年度から始め、定着している。中洲小の近くに位置し、中洲小の卒業生はすべてここに進学する。

(3) 協力機関等

① 諏訪市立信州風樹文庫

岩波書店から出版される昭和22年以降の全図書を所蔵する日本で唯一の図書館である。岩波書店創業者、岩波茂雄氏が中洲地区の出身であったという縁で、昭和22年、地元の青年たちの良書に接し勉強したいという熱意に込め、岩波書店が全出版物の寄贈を約束し、今に至っている。本の貸出だけではなく、様々な講座、読書会等が行われている。

また、隣接する中洲公民館にあった図書室を、風樹文庫新築の際に移転し、「おはなし広場」として運営している。岩波書店以外の児童書も多数所蔵しており、定期的におはなし会等も開催されている。

② デイサービスセンター西山の里「なかよし広場」

建物の中にある、多世代交流室「なかよし広場」において、定期的におはなし会などがボランティアによって開催されている。なかよし広場は、小さな子どもから高齢者まで利用できる施設で、遊具・おもちゃなどがあり、主に小さな子連れの親子や、小学生などが放課後等に利用している。

2. 実践研究の概要

① 読書ボランティアの養成講座の開催(学校、家庭、地域社会を対象に)

- ・読み聞かせやブックトーク、紙芝居などの実践的な講座を開催し、ボランティアや教育現場で活用してもらう。

- ・平成15年度は全6回講座を計画した。

② 読書ボランティアの学校での受入

- ・学校側での受入体制を整えてもらい、定期的

にボランティアが入れる環境を作る。

- ③ 読書ボランティアの地域での活動
 - ・風樹文庫やなかよし広場、各地区の公民館等でのおはなし会を支援する。
- ④ 学校での取組（学校図書館の整備、図書館教育の充実）
 - ・司書教諭と司書を中心に、朝の読書の推進、図書館利用の呼びかけ、図書館の環境整備等を行う。
- ⑤ 読書に関する現状調査
 - ・3校全員にアンケートを実施し、読書に関する意識の変化を見る。
 - ・各校の図書館利用の統計

3. 実践研究の内容及び成果

(1) 読書ボランティアの養成講座の開催

- ① 具体的な取組及び取組の留意点
 - ・「子どもと本をつなぐ」をテーマに、なぜ読み聞かせが必要か、読み聞かせの留意点は何か、など理論や心構えをふまえた上で実践的な講座を計画した。読み聞かせのほかにも、おはなし会などでよく行われる、パネルシアター、ブックトーク、紙芝居の講座を個別に設け、明日からでもすぐに使えるような内容を目指した。

8/28	おはなし会を開こう 参加者による、朝の読書の時間を想定したおはなし会です。
11/16	紙芝居講座～楽しさは今も昔も～ 講師（右手和子先生）による紙芝居の実演と、実技指導です。

◎ 成果等

- ・6講座で延べ160名が参加した（1講座平均26人）。
- ・実際に学校などで読み聞かせのボランティアをしている方が積極的に参加してくれた。他にも教員、学校図書館司書、公共図書館司書などが参加した。参加者同士のつながりもでき、情報交換など交流の輪が広がっている。
- ・受講者の声から
 - 「自分の活動が、これでいいかなと思うことが多かったが、今回の講座では勇気が持てた」
 - 「いろいろ自分の知らない新しい本など知る事ができ、よかった。又、勉強できる機会を作って欲しい」
 - 「読み聞かせてもらおうと楽しい、ということを原点に頑張っていきたい」
 - 「実際に翌日紙芝居をやってみた。すぐに実践できて嬉しかった」など

開催日	講座名／内容説明
6/18	読み聞かせ、ここがポイント 読み聞かせとは？ 読み聞かせの留意点は？絵本の選び方は？
7/3	実際に絵本を読んでみましょう。 お互いに読みあうことで、自信も技術も高まります。
7/17	楽しくパネルシアター 講師によるパネルシアターの実演と、実技指導です。
7/31	ブックトークで広がる本の世界 小学校高学年～中学生を対象にしたブックトークをお楽しみ下さい。

(2) 読書ボランティアの学校での受入

① 中洲小学校

- ・ボランティアは平成14年から新しい体制で発足し、現在26名の会員がいる。年間を通して、週に2回の朝読書の時間に、毎回4人がクラスに入るようになっている。
- ・スケジュールの取りまとめは司書が行っている。保護者がほとんどということもあるが、数を重ねるごとに教職員や子どもたちとも親しくなってきた。

- ・読書旬間にはPTA役員と協力して、おはなし会を開催している。他に学校独自の地域公開講座でも、読み聞かせ講座の手伝いをしてもらっている。

② 湖南小学校

- ・ボランティアの発足は今年度から。朝読書の時間に月に1度クラスに入ってもらっている。今年度は全8回の活動をした。会員は現在26人。
- ・月1度の活動のほかに、発足会、情報交換会、3月にはおつかれさま会として、会員同士の交流や研修の場を設けている。
- ・スケジュールなどの連絡は司書教諭が行っている。

③ 諏訪南中学校

- ・ボランティアの活動は行っていない。

◎ 成果等

司書や司書教諭、ボランティアと、読み聞かせの回数が昨年よりも増えている。回数だけでなく、いろいろな人が入ることで、選ぶ本もバラエティに富むというよさもある。また、ボランティアは保護者が中心なので、家庭での読書にもつながる。

(3) 読書ボランティアの地域での活動

① 信州風樹文庫「おはなし広場」

- ・毎月ではないが、おはなし広場ではボランティアによる読み聞かせの会が行われている。今年度は7回行った。対象は中洲小の小学生で、年度始めに学校に案内チラシを配っている。参加人数は数人の時もあれば、50人ほど集まるときもある。
- ・おはなし広場として図書館の購入なども行っている。
- ・他に「子どもの本の読書会」もほぼ毎月行われている。(会員のみ)

② デイサービスセンター西山の里「なかよし広場」

- ・月に1～2回程度、読み聞かせ、紙芝居、ペープサートなどがボランティア(2サークル)により行われている。
- ・諏訪市図書館の司書によるおはなし会も開催。

③ 湖南地区の公民館での活動

- ・田辺読み聞かせの会によるおはなし会
田辺地区公民館にて、8月、12月の2回開催。
- ・熊さんの会によるおはなし会
大熊地区公民館にて、土曜日に不定期で開催。

④ 湖南小ボランティア有志によるおはなし会

- ・「おつきゆきえさん絵本の会」を開催
講師を招き、小学校低学年・高学年の部は西山の里のなかよし広場にて、大人の部は湖南公民館で行った。有料にもかかわらず大勢の参加があった。
- ・「大人のための絵本の時間」を開催
湖南小にて行った。

◎ 成果等

湖南地区では学区内でのおはなし会が盛んに行われるようになった。読み聞かせ講座にも多数の参加があり、それをきっかけにサークル同士の交流も生まれた。講座で情報交換をして、お互いのおはなし会を訪れ、輪が広がっている。

(4) 学校での取組(読み聞かせボランティアのほかに)

① 中洲小学校

- ・司書が専任になったことで、朝の読書や、各クラス週に1回の「図書館の時間」での読み聞かせの機会が増えた。
- ・今年度より、本のリクエストを開始した。自校だけでなく、他校や市立図書館からも予約して借りられるため、児童の読書の要求にこたえることができた。

※ リクエスト集計 (提供できたもののみ)

申込件数	自校図書	他校図書	市図書館
865	802	52	11

・クラス単位の読書活動を行った(司書の支援)

1年	パネルシアター「たぬきのいとぐるま」の製作、発表
2年	大型紙芝居「いつもちこくのおとこのこ」の製作、参観日や終業式での上演
4年	姉妹学級(2年)と仲よし読書 (パートナーの子に絵本を読んであげる)
5年	中洲タイム(総合学習)で、中洲保育園との交流(絵本・紙芝居・遊び) 事前に司書から読み聞かせ・紙芝居の実技指導を受け練習。 1年生にも披露。

- ・図書委員会での活動では、委員会のグループ活動の一つとして「おはなし」を取り入れた。絵本の読み聞かせと紙芝居を発表した。年4回は集会室で行い、毎回50~70人が参加した。読書旬間中には、体育館で全校を前に、ペープサートと大型紙芝居の上演をした。限られた時間で練習・リハーサルを行ったが、本番ではしっかり表現でき、参加者に喜んでもらった。絵本や紙芝居の選択は、司書が候補作品を選び、その中から配役を委員が決めた。終了後委員からはもっとやりたいという声が多かった。

② 湖南小学校

- ・司書が専任になり、司書教諭も動ける体制になったので、読み聞かせや利用指導の機会が増え、図書館の時間も充実してきた。
- ・職員読み聞かせ講習会として、読書アドバイザーの講師をお迎えして研修を行った。教職員とボランティアが対象。年度の早い時期(6月)に行うことで、その後の活動に役立った。

- ・児童会ひまわりっこ集会(地域開放講座)の一環として、読み聞かせコーナーを開催。保護者有志と地域の方(読み聞かせボランティアサークル)による読み聞かせを行った。
- ・低・中・高学年別のおはなしのへやを開催。講師は上郷図書館長下沢洋子さん。
- ・地元の昔話の語り「飯田美智子さんおはなし会」の開催。
- ・学社融合公開授業として、戦争をテーマに司書教諭の戦争に関する本のブックトーク、続けてボランティアによる戦争体験談、さらに戦時中の食事を再現して食べる、という授業を行い、地域に公開した。
- ・湖南小に隣接する諏訪西中学校1学年による読み聞かせ訪問。中学生が国語の授業の一環として、読み聞かせを行った。事前に講師を招いて研修をした後、グループごとに小学校全クラスを訪問。1時間のプログラムを行った。
- ・PTA図書部による大型紙芝居の製作、上演。冬の読書旬間中に行った。

③ 諏訪南中学校

- ・司書は半日勤務だが専任になり、司書教諭も動ける体制になったので、利用指導など図書館教育に力を入れることができた。
- ・図書館利用指導の授業⇒司書教諭が空き時間を使い、「図書館オリエンテーション(貸出返却方法・十進分類法図書の配架)」、「情報のあつめ方(検索ゲーム)」、「ブックトーク(総合的な学習の時間や特別活動に合わせて)」等を行った。
- ・朝読書の啓発⇒一昨年度から始めているが、改めて、「朝読書通信」などで朝読書の意義を職員と生徒に知らせた。また、マンネリ化を防ぐために、短いブックトークを行った。司書教諭と司書で学年を分担し、同じテーマ・同じ原稿で、同じ種類の本を紹介した。

- ・本の紹介活動⇒ 図書館の中に本の紹介コーナーを設け、様々なテーマで本を紹介した。学校の本だけでなく、諏訪市の他校の図書館や市立図書館からも借りて集めている(市内学校図書館ネットワークを利用)。本は図書館通信を配布して紹介している。生徒がよく見ており、教員にも好評だった。

5月	調べ学習に使える本
7月	絵本 日本語版と英語版
9月	夢を与えてくれる本
10月	国語教科書関連図書
10月	性教育の本
11月	職業調べの本
11月	福祉、人権に関わる本
12月	修学旅行の本
2月	芥川賞、直木賞関連作家の本

- ・保護者への学校図書館の本の貸し出し⇒ 専門的な事柄が分かりやすく読みやすく書かれている本や、思春期の子どもたちの気持ちや描かれている本が多い中学校図書館の利点を生かして、保護者への本の貸出を始めた。特に「性教育」などは、親も正確な知識がなく、また子どもとどのような話題で話をしていけばいいのか悩んでいることが多いので、学校図書館の本が役に立つのではないと思われる。方法は、参観日を中心に貸出・返却を行い、普段でも生徒を通したり、司書がいれば貸出を可能とした。まだたくさん利用はないが、PRを更にする事で広めていきたい。
- ・職員研修を夏休み中に行った。自校図書館を知り、調べ学習で付けるべき力について、実際に先生方に調べ学習をして実感してもらった。これ以降、むやみに「図書館へ行って調べて来なさい」という先生方が減り、生徒にテーマを絞って調べる事柄をはっきりさせてから図書館を利用させる先生が増えた。

・読書会の開催

「おつきゆきえさんによる『宮澤賢治朗読会』」 1学年+保護者

「アリス館 後路編集長による公開授業」

1年3組 (子どもの本研究会主催)

関連した本を借りる生徒もおり、物語の世界に浸ることや、科学絵本など物語以外の本の面白さが伝わったように思われる。

◎ 成果等

学校によって差はあるが、司書教諭と司書により、小学校では、ボランティアの協力での読み聞かせや授業、中学校では調べ学習を中心に図書館に親しむという方向で、様々な活動を行った。これらは今のところ、児童・生徒及び教職員に好意的に受け入れられており、来年度以降も続けられ定着するように思われる。

4. 今後の課題等

- ・著しい成果は現れなかったが、これからの活動の基盤はできたと見える。
- ・読み聞かせボランティアの定着により、学校や地域での読書活動をさらに広めていきたい。特に中学での読み聞かせの機会を少しずつでも作って行きたい。
- ・学校では、司書が専任で入り、司書教諭も助けたので、生徒の要望に以前よりも対応することができるようになった。今後は、さらに綿密に読書指導や利用指導を行い、本や図書館に親しむようにしていきたい。
- ・今回、学校・地域・家庭の三者が連携する、という条件があったが、家庭への働きかけが不十分であったように思う。その点を、今後どうするかが課題である。

長野県教育委員会

推進地域名 箕輪町

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

箕輪町は、南アルプスと中央アルプスに抱かれた長野県伊那谷北部に位置する田園工業として発展している町である。昭和30年に三町村が合併して「箕輪町」が発足し、人口は増加の一途をたどり平成9年10月には2万5千人を超えた。近年、首都圏を中心とした先進開発型企業の進出が活発となり、産業分野の先端技術が集結し、ハイテクタウンへと変貌している。

今後に向け、農商工の調和と住む人々が主役の町づくりを基本に、夢とロマンあふれる未来型環境の整備を創造している町である。

(2) 推進協力校の概要

	学 校 名	児童・生徒数	学級数
1	箕輪町立箕輪中部小学校	666	21
2	箕輪町立箕輪北小学校	391	12
3	箕輪町立箕輪南小学校	93	6
4	箕輪町立箕輪東小学校	189	6
5	箕輪町立箕輪西小学校	121	6
6	箕輪町立箕輪中学校	794	21

(3) 協力機関等

- ・箕輪町立図書館
- ・箕輪町子どもセンター

2. 実践研究の概要

(1) 実態調査からの推進計画の作成と見直し

協力校の小2、小5、中2の児童生徒と保護者への実態調査から、読書の習慣化と親子読書の定着が課題と分かり、特にその2点を推進の柱として活動を展開した。

その結果、2年目の同じ調査で児童生徒の読書の習慣化には向上が見られた。反面大人への啓発にはまだ時間がかかることが課題として残された。

(2) 推進協力校を中心とした実践

推進協力校では、「読書の習慣化」「親子読書の普及」という課題を受け、各校の実態に基づいて実践を進めた。

回数は異なるが、「朝の読書の時間」がすべての学校で位置付けられ、読書の習慣化には向上が見られた。また「親子読書カード」等も工夫され、特に小学校において読み聞かせの良さが実感できたという声が多く寄せられた。

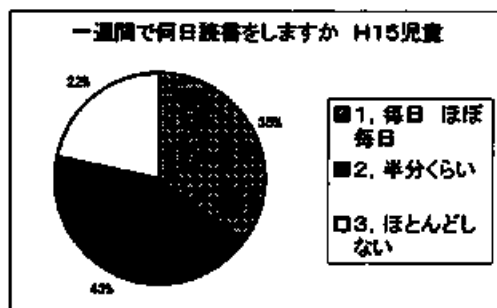
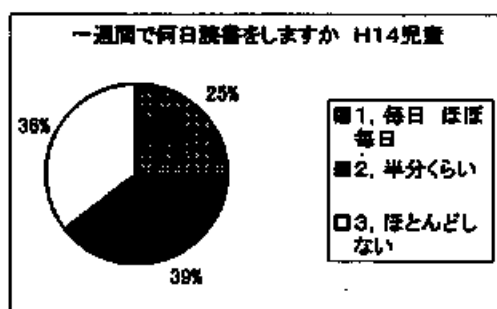
(3) 協力校・関係機関・地域と連携した実践

町の移動図書館「ドリーム号」、地域のボランティアによる学校での読み聞かせ、未就学児の子育て学級や集団検診時の読み聞かせなど、学校、地域社会、家庭の連携による取組が実践され、特に保育園入園前の幼児への読み聞かせは、若い母親への啓発になった。

3. 実践研究の内容及び成果

(1) 実態調査から

下のグラフのように二年間の実践から読書習慣が定着してきたことがうかがえる。



ほとんど読書をしない子が減ってきたことが、この取組の成果であろう。読書時間や、読みきった本の冊数などの調査でも、ほぼ同じ傾

向が見られる。

(2) 推進協力校を中心とした実践

ア 朝の10分間読書

推進協力校の内3校は毎日、その他の3校も週1～2回、朝の10分間読書を実践している。各校とも、次の4点を踏まえて取り組んでいる。

- ・10分間だけ読む＝時間厳守
- ・好きな本を選ぶ＝読みたい本を選ぶ段階から大切な読書指導
- ・教員も一緒に＝雰囲気づくり
- ・感想文や記録を求めない＝じっくり本に親しむ機会とする。



< 朝の読書 (箕輪西小) >

全校全職員が本に集中する時間を持つことで一日の落ち着いた学習の始まりにつながるという担任の声が多い。

イ 家庭読書へのよびかけと実践

箕輪中部小学校では、14年度から毎週土曜日を「家庭読書の日」と位置付け、家族と一緒に20分間本に親しむことを呼びかけた。家の人に本を読んでもらったり、逆に家の人に読んであげたりと家族ぐるみで本に親しむ機会となっている。箕輪南小学校では、一年生入学直後から家の方に絵本の読み聞かせをお願いし、子どもに読んだ本を記入させ、カードが終わるたびに、司書の先生の手作りの賞状を渡していった。1年時に読書習慣を形成することが本好きな子どもを育てていくと、家の方にも好評である。

ウ 子どもが運営する読書の日

箕輪南小学校では、毎月23日ころを「読書の日」として、図書委員が企画し運営している。『お話の部屋』は、図書委員2名と職員1名

が、毎月のテーマにあわせて、休み時間に、本の読み聞かせを行っている。



< 「おはなしの部屋」読み聞かせ (箕輪南小) >

『この本読んで』は、図書委員がお昼のテレビ放送で、新着図書やテーマに沿った図書の紹介を行っており、子どもたちもとても楽しみにしている。

(3) 協力校・関係機関・地域と連携した実践

ア 読み聞かせボランティア

箕輪西小学校では、町の読み聞かせボランティア「せせらぎ会」の皆さんに来ていただき、低、中、高学年に分かれて、本の読み聞かせや紙芝居をしていただいている。また、保護者の有志が、町図書館の協力を得て、文庫活動を行っている。そのメンバーにより、毎年「お話広場」が行われる。本の読み聞かせ、詩の群読、劇、パネルシアターなど趣向を凝らした内容で、児童は心待ちにしている。



< 保護者有志による劇の発表 (箕輪西小) >

4. 今後の課題等

この二年間の取組で確実に子どもは本好きになっている。ただし、「親子読書」等では、家庭間の対応の差が大きく、子どもから家庭や地域も含めた読書活動の推進には更に啓発活動が必要である。

滋賀県教育委員会

推進地域名 草津市

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

草津市の人口は114,136人（平成16年3月1日現在）である。今年度、市立渋川小学校の新設によって13小学校（児童数6,655人）、6中学校（生徒数2,887人）となり、今後も増加の傾向を示している。各小学校区は自治会単位に通学区域になっており、学区ごとに学校と地域と家庭が連携・融合して子どもの健全育成を進め、大人と子どもが学び合う「地域協働合校」事業を展開するなど、生涯学習社会づくりを進めている。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒	学級数
1	草津市立志津南小学校	150	8
2	草津市立南笠東小学校	511	18
3	草津市立笠縫東小学校	604	22
4	草津市立玉川中学校	391	12

① 志津南小学校

小規模校のよさを生かして、地域との連携を密に教育課程を編成している。授業では読み聞かせを多く取り入れ、朝の10分間を「マイブックタイム」と名付け読書を行っている。読書ボランティアとの授業づくりも熱心である。

② 南笠東小学校

自治会が4年前に組織され、地域活動が活発に行われている。学区をビデオで紹介したり民話を掘り起こしたりすることで地域の活性化に取り組む自治会と連携し、民話を紙芝居にしたり、老人クラブと交流したりするなど、地域の教材を生かした取組を展開している。

③ 笠縫東小学校

今年度第63回全国美術教育展文部科学大臣賞を受賞した。8度目になるこの受賞は、春秋の全校をあげた作品制作の結果である。そのうちの1回は物語を絵にする学習を行っており、日ごろから進めてきた読書活動をこう

した学習に幅広く発展させる取組も行っている。

④ 玉川中学校

朝の会で読書を始めて2年、生徒の読書活動が活発になってきた。図書委員会を通じて、全校生徒の読書の啓発を行っている。「いきいきと学び合い、きたえ合う、心豊かな生徒の育成」を実現すべく研究実践を進めている。

(3) 協力機関等

- ・草津市立図書館・南草津図書館
- ・草津市PTA連絡協議会
- ・草津市お話し研究会

週1回、図書館での読み聞かせ
市内の学校での読み聞かせ活動

2. 実践研究の概要

(1) 読書に関する現状調査

ア 学校図書館の利用状況や読書に関する意識調査を実施し、課題と方策を明らかにする。

(2) 学校、家庭、地域社会が連携した取組

ア 学校の読書を家庭でも続ける方策を探る。
イ PTAを中心にした図書館ボランティアや読み聞かせボランティアの活動の充実を図る。

(3) 市立図書館との連携

ア 草津市立図書館と学校との連携の在り方を研究する。
イ 草津市お話し研究会の協力を得、豊かな読書活動を組み入れた授業づくりを進める。



<草津市お話し研究会／南笠東小学校での授業>

(4) 読書活動推進会議の開催（年間3回）

ア 事業の概要説明（第1回）を受け、各校の読書活動の推進状況について交流したり、草津市立図書館との連携等について協議する。
イ 学校図書館におけるコンピュータ活用について各校の実践を報告し合う。

(5) 研究協議会の開催

推進協力校（4校）及び推進地域（草津市教育委員会）の取組報告を行う。指定授業の内容にも触れた研究協議では他地域における情報も得られ、これを契機に、学年・学級で読書に対する興味や関心を一層高めることができた。

3. 実践研究の内容及び成果

(1) 具体的な取組及び取組の留意点

ア 各校の取組

(ア) 志津南小学校

- ・市立図書館の貸出制度を活用して学級文庫を充実させ、オープンスペースを利用した読書コーナーを設置した。
- ・地域ボランティアによるお話し会を開催し、国語の授業にもボランティアが参画した（地域と連携した読書活動の展開により、情操をはぐくむことをねらいとした）。
- ・上学年の児童が、下学年の児童に読み聞かせを行っている。
- ・地区公民館に子どもたちが集まり、本を読んだり本の情報を得ることができるよう、自治会館のボランティアとの連携を図り、図書コーナーを設置した。



<公民館の子ども図書コーナー／志津南小学校>

(イ) 南笠東小学校

- ・ワークスペースを活用し、子どもの身近なところに学習につながる本を設置した。
- ・国語の時間に、市立図書館「お話し研究会」によるブックトークや読み聞かせを行った。
- ・保護者ボランティアが学校図書館の運営に参画し、地域や保護者と連携した読書活動を推進している。
- ・学校から読書活動に関する発信を行い、家庭や地域への啓発を図った。授業参観日に

親子読書を行い、学校と家庭との連携を図った。

- ・中部地区学校図書館活用フォーラム分科会会場校として授業公開を行った。



<保護者ボランティアによる読み聞かせ／南笠東小学校>

(ロ) 笠縫東小学校

- ・市立図書館の貸出制度を活用して学級文庫の充実を図った。
- ・毎朝5分間、読み聞かせを行った。
- ・読書週間を設定し、下学年への本の紹介、幼稚園への読み聞かせを行った。
- ・読書カードに絵を書く取組、お話を絵にする取組を毎年行っている。そのことが夢のある絵につながり、数々の受賞に結び付いた。
- ・読書が教科学習に反映されるよう工夫した。

(ハ) 玉川中学校

- ・朝の読書を（BTTタイム）と名付け、クラシックの音楽を聴きながら毎日読書からスタートする習慣が定着した。
- ・図書委員会がアンケートを実施したり本の感想の紹介を行ったりすることで朝の読書をサポートしている。
- ・家庭科や総合的な学習の時間で紙芝居作り、保育園での読み聞かせを行うなど、教科等の学習へと、読書活動が広がりを見せられている。
- ・地域ボランティアが学校図書館の充実のため図書委員とともに図書の整備を行っている。

イ 取組の留意点

- 学校と家庭における読書活動につながりをもたせる。
- PTAを中心にした図書館ボランティアや読み聞かせボランティア等の活動を支援し、学校と地域社会が連携する。

- 市が進める子どもと大人の学びあい事業「地域協働合校」の趣旨を生かした取組を各校の年間指導計画に取り入れ、読書活動の充実に努める。
- 市立図書館との連携を深める。単元構成等、内容のある活動になるように工夫を凝らした。

(2) 成果等

ア 読書に関する現状調査

5月と1月に読書に関するアンケート調査を行い、読書に対する思い、学校図書館の利用、全校読書の定着等について比較した。

		5月 (%)	1月 (%)
① あなたは、読書が好きですか。	とても好き	29.1	33.5
	まあまあ好き	53.8	51.0
	あまり好きでない	12.1	11.6
	ぜんぜん好きでない	5.0	3.9
② あなたは、週にどれくらい図書館に行きますか。	毎日(5回以上)	1.7	2.2
	2~3回	10.8	19.5
	1~2回	19.8	15.0
	たまに	37.5	40.0
③ あなたは、本を読み聞かせてもらうのが好きですか。	とても好き	28.6	29.5
	まあまあ好き	34.9	35.6
	あまり好きでない	28.1	26.0
	ぜんぜん好きでない	13.4	10.6
④ あなたは、はげみタイムの全校読書が好きですか。	とても好き	33.0	35.4
	まあまあ好き	42.3	41.9
	あまり好きでない	17.8	11.8
	ぜんぜん好きでない	6.9	9.8

この結果から、読書が「とても好き」と答えた子どもが4%増え、図書室に「ほとんど行かない」子どもが7%余り減少するなど、読書活動推進の効果が表れているとみることができる。

また、「読み聞かせをしてもらうのがとても好き」な子どもが約6%増えているが、推進協力校からの報告の中に「読み聞かせをしてもらう楽しさを知った子どもたちが、今度は下学年や就学前の子どもたちに知らせようとする活動が生まれていった」というものがあり、子どもが実際に変容していったことが

うかがえる。推進協力校の報告には、他に次のような声があった。

- ・いつも本をそばに置いて時間をみつけて本を読む姿が見られるようになった。
- ・親子読書等を通して、学校と家庭の読書がつながるようになった。
- ・国語の学習等で、読書で培った力が発揮されるようになった。
- ・人の話がしっかり聞けるようになった。

イ 学校、家庭、地域社会が連携した取組

読書活動充実月間を設けて家庭と学校の読書活動を結ぶ取組を進めた学校では、親子で読書に取り組むなど、家庭における読書活動が広がる素地が作られつつある。また、読書の好きな保護者や地域の方々がボランティアとして学校図書館の運営に参画していただき、家庭や地域の側から読書活動に関する様々な工夫が示されるなど、児童生徒の学習にもよい影響を与えている。



<児童によるページサート/登壇東小学校>

4. 今後の課題等

これからも、学校、家庭、地域社会の連携をさらに進めるために、次の取組を継続・発展させていきたい。

- ・地区公民館における読書啓発……地区公民館を活用した読書活動の啓発と推進を行う。
- ・地域の読書ボランティアとの連携……学校の読書活動を地域にも広げ、地域の読書環境を整えていく。
- ・幼小中の連携……保護者とともに、読書好きの子どもを長いスパンで育成していく。
- ・中学校区における読書活動の充実……中学校区の中にある幼稚園、各学校、公民館、ボランティア等が連携を図り、読書活動を広域に推進する方策を探っていく。

推進地域名	園部町
-------	-----

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

推進地域は、市街地から少し離れた地域で、推進協力校の周辺には田畑が広がっている。生徒数も減少傾向にあり、全校児童数が100名にも達していない。

その反面、地域との結び付きは強く、読書活動においては、「学校」「家庭」「地域社会」「行政」が連携して、読書指導員の配置、公共図書館の職員やお話ボランティアなどによる読み聞かせ等の取組を実施しており、年々、読書に対する関心が大変高まってきている。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	園部町立川辺小学校	59	6
2	園部町立摩気小学校	98	7
3	園部町立西本梅小学校	75	7

① 川辺小学校

保護者やボランティアにより、低・高学年に分かれて読み聞かせが行われ、児童が読書に関心を示すようになってきた。

また、読書の推進策として、毎月テーマを決めて、本をロビーに提示し、本に目を向ける環境整備も行っている。

② 摩気小学校

朝朗読やボランティア等による読み聞かせにより読書に関心を持たせている。

また、学校図書館の環境整備や、授業での図書室利用により、図書室を身近に感じられる環境整備も行っている。

③ 西本梅小学校

環境を整えることができてきた。しかし、読書に関する関心が高まっているものの、

まだ、目を離すと、読書から遠ざかっていく児童がいるのも現実で、継続的な指導を続けている。

(3) 協力機関等

園部中央図書館

2. 実践研究の概要

① 読書活動推進に関する取組

読書活動の推進として、週1回、朝学習の時間に全校児童が読書をする「朝読書」を実施。また月1回、低学年は放課後に、高学年は総合的な学習の時間に、「読み聞かせ」と「自由読書」を実施し、夏季休業中なども図書室を開放し、読書活動の推進を図った。

蔵書や本の貸出手続きをシステム化することで、図書の検索、借りた図書の傾向等が把握できるようになった。



さらに読書活動を推進するため、週1回の朝読書をできれば毎日、月1回の読み聞かせを月2回に増やすことで、ただ単に読書をするのではなく、読書を通じて「自分」を見付けられるようにしたい。

また、他校学校図書館や公立図書館の蔵書についても検索できるようにし、必要な時に必要な図書を手に入れられる環境を整えたい。

② 学校・家庭・地域社会が連携した取組

図書館に購入する図書を、児童と保護者、そして教員が一緒になって選書することで、本に興味を持ってもらう取組を実施。また、PTAや地域のボランティアと提携して、ブックトークや大型紙芝居等も行った。



今後は、学校、家庭、地域社会がどのような形で連携すれば読書活動の推進が図れるか検討し、よりよい方向を見付けたい。

③ 読書指導員・読み聞かせボランティアの派遣

読み聞かせボランティアの派遣により、読書への関心を促進した。また、読書指導員の派遣により、読みたい図書、調べ学習に必要な図書を速やかに見付けられる環境が整備された。

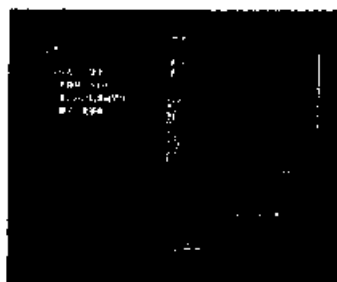


今後は、読書指導員の配置をより一層充実することにより、読書や図書そのものの相談も行えるようにしたい。

3. 実践研究の内容及び成果

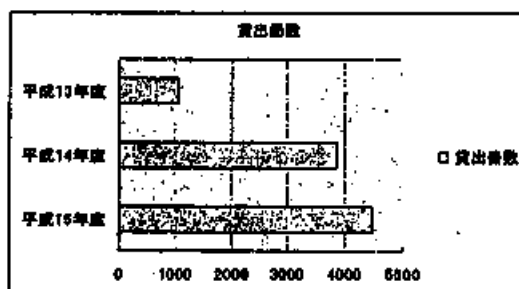
① 実践校3校による連携した活動の実施

実践校による読書活動に関する研修会を実施し、図書の貸出し冊数や、読書指導員の配置

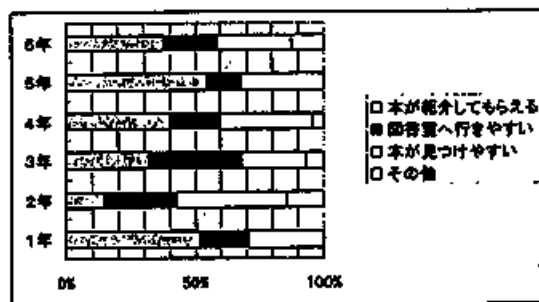


に係る効果について調査するほか、児童の読書意欲や状況について取りまとめた。

結果、図書の貸出し冊数は、事業実施前の平成13年度の4倍を超えており、読書活動の推進が図られていることが分かる。



また、読書指導員の配置については、よかったとする意見が多く、その内訳は次のとおりとなった。



実際、読書指導員の配置により全校児童の42%が、以前より本を読むようになったと答えている。

② 講演会の実施により読書活動の大切さを認識

常葉学園大学助教授 村上淳子先生による講演「本ではくむ生
きる力」を聞いた。

講演の中で、「読書活動を推進するには、図書室が充実していることが大切である。つまり、調べ学習に利用される図書が充実しており、話ができる「人」が図書館にいたることが理想である。」と語られた。



また、ブックトークのポイントとして、「心をこめて読むこと」「間をとって読むこと」が大切で、教育としては、子どもに落ち着きを持たせ、聞く力（集中力）を付けることをしなければならないと話された。

4. 今後の課題等

読書活動が、ようやく定着しようとしている時期であり、読書嫌いな児童も、これらの活動により少しずつではあるが、関心を持ち始めている。

今後は、いかに読書活動に関するこれらの事業を継続するかが重要である。また、読書活動を通じての他学年、他校児童と交流が行える場づくりや内容の充実が必要である。併せて、公立図書館や家庭、地域社会との連携強化も重要である。

京都府教育委員会

推進地域名	京都市
-------	-----

あなたは、この1か月に何冊、本を読みましたか。(マンガやアニメを除く)

1. 推進地域の概要

(1) 地域・協力校の概要

山科盆地の北東部に位置し、古くからの農村地帯ではあるが、最近では転居者も多く、宅地化が進んでいる。

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	京都市立大宅小学校	894	27
2	京都市立大宅中学校	430	13

(2) 協力機関等

- ・京都市山科図書館
- ・大宅小学校PTA
- ・大宅中学校PTA

2. 実践研究の概要

- ① 読書に関する実態を把握するために実態調査のアンケートを実施した。結果、児童・生徒の読書量が不足している実態が判明した。ただし、平成13年度と15年度との調査を比較すると、1か月間に本を一冊も読まなかった生徒数は年々減少しており、中でも15年度は前年に比べ、26.8ポイント減少した。
- ② 「読書の楽しさ」を児童・生徒に理解させるために、読書講演会を実施した。
- ③ 地域図書館との連携については、山科図書館の館長を招き、図書館の利用法や役割について講演会を開催した。
- ④ 小・中学校とも朝の10分間を使い、朝読書を実施している。その一環として、中学校の生徒が小学校の1年生と育成学級の児童に本の読み聞かせを行った。

	0冊	1冊	2冊	3冊以上	無回答
平成13年度	73.0%	8.8%	5.7%	12.0%	0.3%
平成14年度	61.0%	18.0%	6.8%	13.0%	0.5%
平成15年度	34.2%	29.8%	15.3%	19.6%	1.0%

(読書アンケートより)

3. 実践研究の内容及び成果

① 具体的な取組及び取組の留意点

- ・児童・生徒の読書に対する関心や、本を読んだ冊数、学校図書館の利用状況を調査した。
- ・読書に関心を向けさせるために、図書館や掲示板等において図書に関する掲示物を掲示し、学校図書館便りを定期的に児童・生徒に発行した。
- ・中学校において山科図書館の館長を招き、図書館の利用法や役割について講演会を開催した。また、中学校の図書委員が山科図書館を訪問し、その活動について話をお聞きした。
- ・学校の文化祭の中で、ブックトーク等を行った。

② 成果

- ・調査結果から、読書量に極端な差はあるが、児童・生徒の読書に対する関心は確実に向上している。
- ・取組の当初の読み聞かせから自由読書に移行しても、児童・生徒は熱心に読書に取り組めるようになった。

4. 今後の課題等

- ① 児童・生徒の読書活動を習慣化させ、自発的な読書活動を促すためには、学校での読書指導や読書環境を充実させることが重要であり、引続き、朝読書や読み聞かせ等の取組を継続していく。
- ② 地域図書館の利用についても、図書館の広報活動等を通じて、地理的条件を補うために、移動図書館等も考慮に入れた広い視野で、今後一層の利用を促進していく。
- ③ 親子読書や読み聞かせ会等の取組について、今後、家族のつながりや地域との交流を深めることができる取組となるよう、充実させていく。また、早急な結果を求めるだけでなく、現在の児童・生徒が将来親となったときに、わが子に読書のすばらしさを伝えることができるような、人生をより深く生きる力を身に付けるための読書活動を生涯学習からの視点も踏まえ、一層推進していく。

豊中市教育委員会

推進地域名	豊中市
-------	-----

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

昭和 11 年に豊中市制がスタートして以来、本市は今年で 70 周年を迎える。本市は、東西 6 km、南北 10.3 km と南北に広がる面積 36.6 km² 人口約 39 万人の大阪都市圏の典型的な近郊住宅都市である。

市内には小学校 41 校、中学校 18 校合わせて 59 校があり、推進協力校として小学校 2 校、中学校 1 校を指定するとともに、全ての公立小中学校で児童生徒の読書活動の効果的な取組を推進している。

平成 15 年度には、小中学校 47 校（平成 14 年度 40 校）に市独自で学校図書館司書を配置、残りの 12 校についても司書資格を有する者を非常勤職員として配置し、市内全校における学校図書館教育の充実を図っている。また、本市教育委員会が司書教諭発令を行い、学校図書館司書等との連携を軸にした学校図書館教育を進めている。

今年度、公共図書館 1 館が新たに開館し、全 9 館による図書検索システムが起動している。各学校からの公共図書館へのリクエストや公共図書館相互の物流（資料運搬）システム、さらには公共図書館と学校図書館を結ぶ物流システムも新たに 1 コース増やし連日稼働させるなど、児童生徒や市民に対する読書環境の向上に努めている。さらに、学校図書館の蔵書補充として公共図書館から主に絵本・読み物の長期間貸出（1 年間 200 冊）や、短期貸出（1 か月 100 冊）を効果的に行っている。

また、昨年度に引き続き、豊中市立小中学校における学校図書館教育の充実と、本市教育の発展に寄与することを目的に、小中学校長、公共図書館、学校図書館教育担当者（司書教諭）、学校図書館司書、教育委員会事務局の代表で構成する「学校図書館教育推進会議」を開催して

いる。

(2) 推進協力校の概要

	学 校 名	児童・生徒数	学級数
1	豊中市立東豊台小学校	454	15(1)
2	豊中市立新田南小学校	706	21(1)
3	豊中市立第十六中学校	527	18(3)

① 東豊台小学校

市で 33 番目の小学校として昭和 49 年に開校した。

平成 7 年度に学校図書館専任嘱託職員が配置され今年度で 9 年目を迎える。

学校教育の軸として学校図書館が位置付いており、朝の時間や図書の時間では、保護者や教職員が児童に読み聞かせを行う等、読書活動の充実を図っている。

さらに、各教科はもとより、総合的な学習の時間においては身近にある学校図書館が、学習センターの役割、機能を果たしている。

② 新田南小学校

平成 6 年度、学校図書館専任嘱託職員を配置。以来 10 年間、学校図書館の運営整備、利用指導、読書指導等について実践研究を積み重ねている。

研究テーマも「楽しく利用できる学校図書館」から「学習活動と結びついた学校図書館をめざして」へ、そして最近では情報センターを目指した広がりと深まりを見せている。また、平成 13 年度からは、学校図書館専任嘱託職員を「総合的な学習の時間」研究推進委員会に加え、各教科等の学習と学校図書館教育との関連やねらいを明確にし、その研究成果を各学校に情報提供するなど本市学校図書館教育の先進校として各学校の範となっている。

③ 第十六中学校

平成 9 年度に学校図書館専任嘱託職員を配置。朝の読書の時間を週 1 回設定し、全校一斉に 10 分間の読書を実施するとともに学期 1 回の読書推進月間を設けている。また、学校図書館、並びに学級文庫の充実を図るなど、読書環境を整

え、生徒に読書活動をととして幅広い人間性を
 培うことを目指した図書館教育の推進を行って
 いる。

(3) 協力機関等

- ・豊中市立公共図書館 9 館
- ・豊中市教育センター
- ・豊中市小中学校学校図書館教育推進会議
- ・教育委員会事務局
- ・小中学校長会

2. 実践研究の概要

① 第 1 回豊中市読書活動推進会議を実施

1 年次の研究の成果と課題を整理し、本年度
 の具体的な取組を検討する。

推進協力校における平成 14 年度実施「読書に
 関わる調査結果」の考察を行う。

② 第 2 回豊中市読書活動推進会議を実施

推進協力校における平成 15 年度「読書に関わ
 る調査」の実施に向けた調査内容と考察につ
 いて検討。また、調査結果の反映の方法につ
 いて学校図書館教育の充実面と家庭、地域との連携
 面から検討する。

③ 学校図書館推進会議（4 回実施）

平成 14 年度の取組（経過）に基づき平成 15
 年度の学校図書館教育の推進に向けた研修、学
 校図書館の環境整備等の充実を図るための取組
 について検討する。

④ 学校図書館司書連絡会（毎月 1 回実施）と学
 校図書館司書研修会（年 6 回）

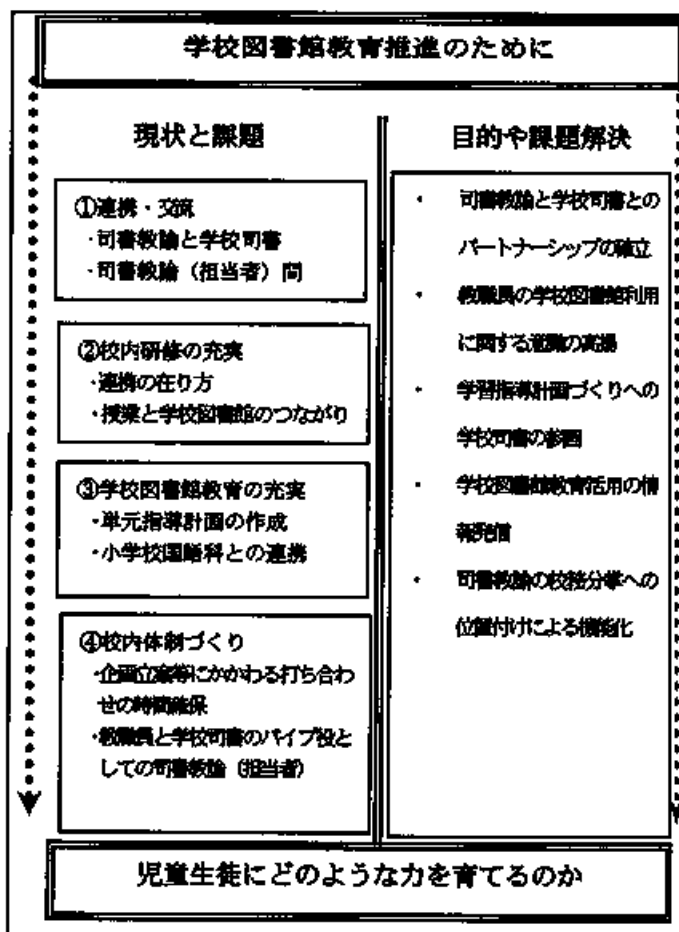
日常業務の標準化及び効率化等を目指し、情
 報交換や資料作成等を行う。また、その専門性
 を向上させるための研修を行う場を実施してい
 る。

⑤ 教職員対象の研修会を実施

学校図書館教育推進に向けての研修会「学び
 をゆたかにする学校図書館－司書教諭（学校図
 書館教育担当者）と学校司書の連携－」、「いま
 学校図書館教育に求められているもの」をテー
 マにした学校図書館教育研修会を行う。さらに、
 他の市から「学校図書館教育の推進を図るため

の学校体制づくり」について実践報告を受け、
 各学校における図書館教育の実態に基づいた
 分科会協議を実施する。

⑥ 学校図書館教育充実のための方策についての例
 示



3. 実践研究の内容及び成果

① 学識経験者（大谷女子大学 現：京都産業大
 学 西川信廣教授）の指導による学校図書館の
 あるべき姿についての検討、研究

・研修計画

司書教諭と学校司書の連携

学校図書館の果たす役割

② 研究協力校における学校図書館教育の現状と
 課題の共通理解

①、②についての協議、研究の結果を「学校
 図書館教育推進のために」の例示として各学校
 に配布する。

本推進会議は、子どもを読書好きにする方策として①学校教育での取組、②家庭との連携の2つを考えた。

学校教育が行う取組としては、現在行っている朝の読書活動、図書の時間、読み聞かせ等をより充実させるとともに、学校図書館を活用した調べ学習の充実等があると考えている。

家庭との連携については、保護者啓発を読書環境づくりの重要な要素の1つと考え、次のようなアンケートを実施し、研究を進めた。

【設問】本や読書のことでお子さんと話し合われる(話題になる)ことがありますか。

(単位：%)

3年	とても好き	まあ好きなほう	あまり好きでない	きらい
よくある	38.1	13.6	8.3	0
ときどきある	57.1	65.9	45.8	55.6
あまりない	4.8	20.5	41.7	11.1
ない	0	0	4.2	33.3

5年	とても好き	まあ好きなほう	あまり好きでない	きらい
よくある	35.9	5.3	0	0
ときどきある	48.7	65.8	42.1	44.4
あまりない	10.3	27.6	52.6	33.3
ない	5.1	1.3	5.3	22.2

中1	とても好き	まあ好きなほう	あまり好きでない	きらい
よくある	50.0	14.9	2.7	0
ときどきある	37.5	53.2	35.1	23.1
あまりない	6.3	25.5	56.8	53.6
ない	6.3	6.4	5.4	23.1

この表から、保護者が子どもに読書や本の話題について話し合うことが、子どもが読書好きになる有効な手段の一つであると推察される。例えば、3年生の読書好きの子どもについては、保護者が読書の話題を提供していると答えた割合が高く、5年生、中学1年生についてもそのような傾向にある。一方、あまり本を読まない

子や本を読むことを嫌う傾向がある子どもについては、保護者と子どもが読書について話し合っていない傾向を示している。

近年、子どもの読書離れが進んでいる中、1日の読書量も少なくなっているといわれているが、本市では下記のアンケート結果から家庭での読書の時間が約30分得られていることが分かった。これは、学校での各教科をはじめとする総合的な学習の時間における資料活用等を通じた読書量の増加もあったことが考えられる。

また、家庭での保護者の読書時間も約30分を占めることから保護者による読書環境づくりが大きく関係してくると思われる。

【設問】あなたは、1日に何時間くらい本を読みますか。

3年生保護者 (単位：%)

	とても好き	まあ好きなほう	あまり好きでない	きらい
0分	10.0	18.2	25.0	55.6
30分以内	60.0	68.2	58.3	33.3
1時間	30.0	13.6	12.5	11.1
2時間	0	0	4.2	0
3時間以上	0	0	0	0

5年生保護者

	とても好き	まあ好きなほう	あまり好きでない	きらい
0分	12.8	29.3	24.3	33.3
30分以内	79.5	50.7	59.5	55.6
1時間	7.7	16.0	13.5	11.1
2時間	0	4.0	2.7	0
3時間以上	0	0	0	0

中1保護者

	とても好き	まあ好きなほう	あまり好きでない	きらい
0分	13.3	29.8	38.9	38.5
30分以内	66.7	57.4	47.2	46.2
1時間	13.3	8.5	5.6	7.7
2時間	6.7	4.3	8.3	7.7
3時間以上	0	0	0	0

児童・生徒

(単位：%)

	3年	5年	中1
0分	10.0	14.5	19.5
30分以内	59.0	52.5	52.0
1時間	18.5	18.4	18.0
2時間	6.5	10.0	6.5
3時間以上	5.0	2.5	2.5

子どもが読書について興味関心を持つためには、当然のこととはいえ、保護者が子どもに本についての話題を提供することが、重要な要素であると考えた。そこで、本推進会議としては、読書環境づくりの一環として保護者啓発を重要な要素と考え、学校図書館教育推進会議と協力、連携し、「学校図書館教育推進のために」の例示に情報発信の重要性を位置付けた。

4. 今後の課題

- ① 読書効果の分析
- ② 各学校における司書と可書教諭の連携の在り方
- ③ 学校図書館を利用した授業についての教員の意識改革
- ④ 保護者啓発
- ⑤ 市内情報システム（蔵書管理システム）のネットワーク化
- ⑥ 学校可書の全校配置
- ⑦ 公共と学校間等の市内資料運搬システムの充実

【参 考】

年度	実施時期	計画事項			摘 要
		①会議等実施	②研修会等	③調査等	
平成十五年	7月 3日	第1回学校図書館教育館推進会議			出席者 23名
	7月14日		学校図書館教育研修会		参加者 101名
	10月30日	第2回学校図書館教育館推進会議			出席者 21名
	11月 4日	第1回豊中市読書活動推進会議			出席者 8名
	11月27日	第3回学校図書館教育館推進会議			出席者 21名
	12月 5日		学校図書館教育研修会		参加者 90名
	1月16日		学校図書館教育研修会		参加者 106名
	1月23日	第2回豊中市読書活動推進会議			出席者 6名
	2月26日	第4回学校図書館教育館推進会議			出席者 19名
	2月 1日 ～13日			アンケート実施	推進協力校3校
	2月23日 ～25日			アンケート集計	作業員 1名
	3月 8日 ～15日			アンケート集約分析	事務局 7名

大阪府教育委員会

推進地域名	寝屋川市
-------	------

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

地域は、山の手の住宅街の寝屋川市立東小学校区及び寝屋川市駅前を校区にもち、店も多く、官庁街を抱える中央小学校区である。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童数	学級数
1	寝屋川市立東小学校	686	21
2	寝屋川市立中央小学校	626	20

両校とも読書活動に取り組み、総合的な学習の時間の取組として、図書室を利用したり、地域にある公立図書館とも連携し活動している。

(3) 協力機関等

- ・東図書館
- ・東小PTA
- ・中央小PTA

2. 実践研究の概要

- ① 読書に関する現状調査
- ② 校内での読書活動推進に関する指導体制の充実
- ③ 各学校と地域の図書館とが更に連携を深め、読書活動の機会の充実
- ④ 学校・家庭・地域社会が連携した取組

3. 実践研究の内容及び成果

(1) 読書に関する現状の把握

昨年度と比較するため、平成14年度においては、推進協力校の小学校5年生(207人)の児童、平成15年度においては、小学校6年生(110人)の児童を対象に読書に関するアンケート調査を実施した。

① 月に何冊ぐらい本を読みますか。

読書冊数	0冊	1~2冊	3~5冊
平成14年度	7%	25%	59%
平成15年度	7%	47%	32%
	6~9冊	10冊以上	
平成14年度	7%	2%	
平成15年度	7%	7%	

② 月に何日ぐらい本を読みますか。

読書日数	毎日	時々	たまに
平成14年度	5%	45%	50%
平成15年度	11%	33%	56%

③ 本を読むことは好きですか。

好きらしい	たいへん好き	わりあい好き	あまり好きでない
平成14年度	16%	53%	29%
平成15年度	17%	52%	23%
	きらい		
平成14年度	2%		
平成15年度	8%		

④ 図書館(公立図書館など)を利用しますか

読書日数	毎日	時々	たまに
平成14年度	5%	45%	50%
平成15年度	11%	33%	56%

- ・この調査で、5年生から6年生になると月に本を10冊以上読む児童が3倍になっているが、2冊以下の児童も半数を超えている。
- ・毎日読書する児童が倍増しているが、たまに読

むと答えている児童も増えている。

- ・70%ぐらいの児童が、本を読むのが好きと答えており、昨年度とあまり変わらない。
- ・図書館を時々利用している児童は昨年と比べ増えている。
- ・これらの結果から、学年が上がると、本をたくさん、毎日読む児童の割合は増えるが、反対に本に興味を示さない児童も増えるなど読書に対する意識が2分化されてきている。これは、様々な取組の成果として、読書に関心をもつ児童が多くなってきている一方でテレビやゲームなど他のことに興味に移ったり、日々の生活の中で多様な活動が増えてきたりして、本に興味を示さなくなる児童もいることを示している。

(2) 校内での読書活動推進に関する指導体制の充実

- ・「司書教諭」を中心に、授業に読書活動を取り入れている。その時間に、読書指導やお話の会、紙しばい等を実施し、読書や聞き取り等に対する児童の興味・関心を高めるよう努めた。
- ・「総合的な学習の時間」等で調べ学習を行う際、



「司書教諭」の適切なアドバイスを調べ学習が進み、調査、まとめ、発表の充実へとつなげて

いくことができた。

- ・放課後、読書ボランティアの方に定期的に来校していただき、「お話の会」を開催している。

学校だよりやPTA総会等様々な機会を利用し、



児童や保護者に周知し、参加する児童・保護者も増えてきている。

- ・新しい本や好きな本の紹介を図書室だより等で啓発している。
- ・全教職員による環境整備、十分類のラベル帖、書棚の分類表示など学習コーナーの整備を行っている。
- ・児童集会やロング休憩時での大型紙芝居、学校図書館での図書委員による読み聞かせを行っている。
- ・これらの活動を通して、読書に対する興味、関心が高まり、お話の会や、紙芝居などに参加したり、学校図書館や公共図書館を訪れる児童が増えてきている。また、本を毎日たくさん読む児童も多くなり、読書活動の活性化が少しずつ進んでいる。

(3) 各学校と地域の図書館との連携を更に深め、読書活動の機会を充実

- ・「総合的な学習の時間」等で校区探検を行った。その際、地域の図書館の仕事や利用の仕方、施設の内容等を図書館を訪問して調査した。そのことを通して、図書館をよく理解するとともに、親しみを感じ、よく利用したり、図書館について様々なところで広報するようになった。
- ・「総合的な学習の時間」等で様々なことを調べるため地域の図書館を利用した。そこでは、本だけでなく、コンピュータ等も利用し調べ学

習に大変役立った。

(4) 学校・家庭・地域社会が連携した取組

図書室を地域の幼児から高齢者まで一緒に利用してもらい、読書活動への興味・関心を高めてもらうとともに、交流の場として利用してもらうため、1年目は土曜日に2年目はお話の会の後の水曜日に学校図書館を地域に開放した。学校だよりや地域の懇談会等様々な機会を利用し、広報活動に努めた。もっと参加を増やすためにも、魅力のある取組や利用しやすい時間や曜日の検討をすることが必要である。

(5) 読書講演会

2月14日(土)に地域の方、保護者・児童、教職員対象の読者講演会を開催した。講師は漫画師のちゃらんぼらん・大西 浩仁氏で、「絵を見て子どもの心の中をのぞく～絵と本の楽しさ～」という演題で講演をしてもらった。この中で、絵と本とのかかわり、絵本から本へのつながりなど、本の楽しさを語っていただき、今後の読書活動に役立つものとなった。

4. 今後の課題等

- ・読書に対して様々な取組を行っているが、学年が上がるにつれて読書量が少なくなっている。平成15年度中央小学校が大規模改修により図書室の利用が少なかったことも影響しているかもしれない。来年度はもっと読書の機会を多くし、読書にほとんど興味を示さない児童を減らすことが課題である。
- ・ボランティアの方にお話の会を行ってもらっているが、これを児童や保護者だけではなく、地域に周知を図り、地域の幼児から高齢者まで多くの方々に参加してもらうような工夫をするこ

とが課題である。

- ・地域で児童や保護者を始め、地域の方々がお互いに連携を深めることができるように、土曜日や水曜日に学校図書館を開放したが、参加者を増やすためにも、魅力のある取組、地域の方々が見つけやすく、児童とも交流を図りやすい曜日、時間帯を検討することが課題である。



- ・授業に読書活動を取り入れているが、その充実に努めていく。
- ・地域の図書館との交流を学校として図ってきたが、まだまだ一部にしか広がっておらず、その広がりの充実に努める。また、それぞれの児童や保護者に図書館の良さを周知し、図書館に対する興味・関心を高め、自ら図書館へ出向いて、読書活動や調べ学習等を行う児童を増やすことが課題である。

堺市教育委員会

推進地域名	堺市
-------	----

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

堺市では、平成10年度から14年度にわたって「特色ある学校園づくり推進事業」を実施し、「学校図書館教育」推進学校を設定し、学校図書館教育を進めてきた。また、6支所13の堺市立の図書館（分館含む）があり、連絡会や団体貸出、「子ども読書の日」のおでかけお話し会などを通して連携を深めてきている。初等教育研究会・中等教育研究会には、学校図書館部会があり、授業研究や講演を中心として各校の読書教育の推進を図っている。また、司書教諭講座や「読書フォーラム」を開き、学校と市立図書館や地域との連携を示してきた。

平成16年3月には「堺市子ども読書推進計画～夢をはぐくむ・堺っ子読書活動～」が策定された。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	堺市立湊小学校	143	7
2	堺市立津久野小学校	361	13
3	堺市立大浜中学校	634	20

① 湊小学校

明治18年に創設され、100年以上の伝統をもち、学校教育に対する地域の期待も大きい。湊小では、「総合的な学習の時間」の試行時期から「読書力」の定着を学校目標に設定し、本格的に読書教育に力を注いできた。

② 津久野小学校

津久野小は、平成10年度から12年度まで堺市教育委員会の「特色ある学校園推進モデル事業」の指定を受け、新図書館の設立や玄関のオープンスペース化（読書のコーナー設置）、データベースによる蔵書管理、移動図書

館（堺市立図書館）の活用等に力を入れてきた。

③ 大浜中学校

大浜中学校は、湊小学校校区であり、やはり地域と密着した学校であり、本事業を受けたことを契機に、朝の読書や話芸家の招聘など興味関心を高めるための工夫を凝らしてきた。

(3) 協力機関等

堺市立中央図書館・堺市立鳳図書館

2. 実践研究の概要

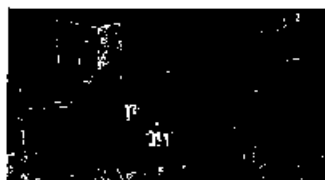
① 読書に関する状況調査の実施

(平成14・15年度)

☆読書量・読書傾向・学校図書館・市立図書館の利活用・読書と生活との関係など

② 学校における読書活動の取組

<湊小の様子>



☆「朝の読書」

湊小学校・津久野小は、全校一斉実施
大浜中学校は、1年生と3年生で実施



☆職員室前に設置された「学年文庫」(57期生) 休憩時間を利用して読書 (平成14年度)

☆平成14年
話芸家、ひかりさんによる語り聞かせ
宮沢賢治「虞十公園林」
に聞き入る生徒



・4.23「子ども読書の日」に司書による「ブックトーク」 (漢小 平成14年度)

短期臨時講師 (堺市からの派遣) による新聞を利用したの読書指導



④ 学校図書館ボランティアの活躍



読み聞かせボランティア「ぶくぶく」を平成14年に結成 月1回の昼休みの読み聞かせを実施
元民放アナウンサーの保護者を中心に活動 (漢小)

☆コンピュータによる
蔵書管理・貸し出し
(津久野小)
平成15年に100%達成



③ 学校と市立図書館との連携



・図書館司書による訪問お話し会
(漢小) (平成15年度)

⑤ その他

(平成15年度・漢小)

中部地区学校図書館活用フォーラムにおいてポスターセッション



- ・図書館見学の実施
- ・司書による学校図書館運営に関するアドバイス

・移動図書館「ひまわり」の活用
地域の人との交流がなされている (津久野小)



3. 実践研究の内容及び成果

① 主な成果 読書調査結果から
—2年間の比較— (小学校)

項目	平成14年度	平成15年度
読書が好き	47.1%	50.0%
いつ読むか		
学校の「朝の読書タイム」	60.8%	89.2%
休みの日	36.7%	42.2%
感銘した本もある	48.5%	49.1%

読み聞かせを してもらった	79.6%	96.5%
公共の図書館に1か月 1回以上行く	49.5%	57.7%
学校図書館に1か月 1回以上行く	76.3%	83.3%
月1冊以上本 を読む	82.2%	95.3%

② 「夢をはぐくむ 堺っ子読書フォーラム」 の開催



産経新聞掲載
(平成16年2月21日)

当日は、漢小学校的実践発表、大谷女子大学の塩見昇教授をコーディネーターにしたパネルディスカッション、堺市の学校における現状と課題など、読書教育について盛んに発表がなされた。参加者は約150人。教職員や学校図書館関係者、図書館職員、読み聞かせボランティアなどが参加した。

③ 「朝の読書」の成果

- ・心を落ち着かせて学習に臨むことができ、特に雨の日などはその効果が見られる。

- ・静かな1日のスタートが切れ、学習への心構えができる。
- ・読書習慣が身に付き、読書量が増えた。

④ 読書量の増加

5,300冊から11,000冊に増加
(津久野小)

⑤ 大浜中学校 一生徒の意見—

「読書について感じていること・思っていること・読書によって自分が変わったと思うこと」

本を読んでいるとリラックスできる。
人とかかわり方など色々なことを学べる。
いっぱい読んだら、続けて読むようになった。
他のことにも目が向き、集中できるようになる。
本を読むことによって考えが変わった。
自分と同じ立場の本があるとうれしい。
書いた作家の考えが出るのが本だから、新しい考えを得ることができる。
想像力がついた。
学校の読書タイムが始まったことで、回数が増えた。
本と友達になれる。
読みたい本をもっと増やしてほしい。

<平成15年12月調べ 1学年の調査結果>

4. 今後の課題等

- ① 本事業の実践校をモデルとして、全校が学校図書館教育推進の取組を行うこと。
- ② 「読書フォーラム」の継続。
- ③ 「堺市子ども読書推進計画～夢をはぐくむ堺っ子読書活動～」にのっとった、学校図書館教育の推進。
- ④ 家庭教育における読書活動の推進。
- ⑤ 市立図書館・ボランティアとの更なる連携。

大阪府教育委員会

推進地域名 和 泉 市

した読書教育・学校図書館教育をすすめるための研究を行った。

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

本地域では様々な面で子どもたちの非常に厳しい生活実態がある。一方、そのような厳しい状況を乗り越えるためにも以前から地域と連携した教育活動が盛んで、そこから幸小学校発の読書教育運動が始まり、保育園、幼稚園、さらには保護者や地域と連携した読書活動へと広がった。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒	学級数
1	和泉市立富秋中学校	321	12
2	和泉市立幸小学校	300	14
3	和泉市立池上小学校	336	15

① 富秋中学校

地域や小学校の読書教育を引き継ぎ、1年を通じた「朝の読書」に取り組んでいる。

② 幸小学校

より子どもたちが使いやすい図書館運営の研修。また、オープンスペースに学年ごとの図書コーナーを設け、親子家庭読書期間も年一回設定し、地域の読書運動を推進してきた。

③ 池上小学校

小学校6年生による1年生への読み聞かせなどを積極的に行い、今年度は「いずみブックフェスティバル」の会場として、保護者による読み聞かせなどが行われた。

(3) 協力機関等

和泉市立人権文化センター・「にじのとしょかん」

2. 実践研究の概要

地域や保育園、幼稚園、小学校の連携でおこなってきた読書教育運動のスタートから10年以上がたち、その中で育ってきた中学生のアンケート結果などをもとに新たなる学校現場が連携



＜富秋中学校「朝の読書タイム」＞



＜先進校（東大阪市立意岐部中学校）視察＞

3. 実践研究の内容及び成果

① 具体的な取組

- (1) 小中学校の読書教育、図書館教育担当者交流
- (2) 中学校での「朝の読書タイム」の導入
- (3) アンケートによる中学生の読書状況の調査
- (4) 生涯学習としての地域の「読み聞かせサークル」と学校との連携
- (5) 地域図書館の「にじのとしょかん」の貸出データ分析による地域の読書状況の把握
- (6) 学校図書館を支えている和泉市独自の「有償司書ボランティア」の交流会や研修会の実施
- (7) 司書教諭配置及び運営に関する意見交換
- (8) 「いずみブックフェスティバル」への協力
- (9) 「学校図書館活用フォーラム」で実践報告

② 成果

(1) 子どもたちの「読書力・読書環境」及び「学力」についてデータをとり、それを分析することから課題が見えてきて、その課題に対する取組を構築できるのではないかと考え、アンケートを実施し、学力診断テストとの相関などを分析してきた。

分析した結果、予想どおり「ニコブラクダ」の状態であることが分かった。上位のコブの層の子どもにはどのような取組をしても伸びていく要素があり、下位のコブの層の子どもに対しては、より丁寧なかかわりやアプローチが必要であることが分かった。

(2) 「朝の読書」実施前のアンケートの結果から

・厳しい家庭の読書環境

地域の子どもの家庭での「新聞購読率」は低く、かなりの家庭では新聞などで社会のニュースに触れることなく日常生活を過ごしているということになる。これは社会の情報がなくても生活できる狭い範囲で暮らしているといえる。

・1日の読書時間が0分が半数以上

小学校1年から地域読書運動の中で育ててきたはずの子どもの読書量の現状に驚き、「小学校での読書状況」では、71.1%が「図書の時間」が好きであったと答えたのだが、残念ながらその内容としては「読書が好き」という答えは18.5%と少なく、「その他」が74.1%であった。

それでも「図書の時間が好きではない」のうち、「読書が嫌い」は0%であり、「本がない」という解答が90.0%であった。これは子どもが読みたくなる本や環境を整えるなどの取組を行えば「読書が好き」になる可能性は多いにあるのではと考えられた。



〈中学校での絵本の読み聞かせ〉

(3) 「朝の読書」実施後のアンケート結果から(平成13年度と平成14年度のアンケートの比較)(平成14年度に「朝の読書タイム」スタート)結果として読書量などの増加があった。

・図書室の利用

「しない」	21.1% → 7.1% (-14.0%)
「時々」	65.3% → 80.8% (+15.5%)
「よく行く」	13.7% → 12.1% (-1.6%)

・図書室で借りた本の冊数

「0冊」	43.2% → 14.1% (-29.0%)
「1～10冊」	24.2% → 64.6% (+40.4%)
「11～50冊」	6.3% → 18.2% (+11.9%)
「51～100冊」	1.1% → 1.0% (-0.1%)
「100冊以上」	0.0% → 3.0% (+3.0%)

・1日の読書時間

「0分」	47.4% → 18.2% (-29.2%)
「約10分」	24.2% → 64.6% (+40.4%)
「約30分」	15.8% → 12.1% (-3.7%)
「約1時間」	4.2% → 4.0% (-0.2%)
「1時間以上」	6.3% → 1.0% (-5.3%)

(4) 富秋中学校図書室の貸出冊数の変化

平成13年度・年間貸出冊数

1665冊

平成14年度・年間貸出冊数

2476冊 (前年度比+811冊)

平成15年度・年間貸出冊数

2270冊 (前年度比-206冊)

- (5) 富秋中学校・幸小学校・池上小学校の読書教育担当教諭と司書ボランティアによる学期に1回の交流会の実施
- (6) 「朝の読書」の和泉市への広がり

4. 今後の課題等

- (1) 地域でつくってきた読書教育運動を活性化させるための工夫と各学校現場での読書教育や図書館教育の更なる充実が必要。
- (2) 学校図書館教育の広がりから生まれた「いずみブックフェスティバル」は地域の読書運動として発展してきた。それを引き継ぎながら、より地域に根ざすとともに、市内全体に広がりを持つ読書活動の一つとして育てていきたい。
- (3) 小中の違いを明らかにしたうえで、どのようにしたら小中が連携した読書教育や図書館教育ができるかを話し合う場が必要。
- (4) 地域図書館としての「にじのとしょかん」の積極的な利用を進めていきたい。
- (5) 中学校の読書離れを食い止め、朝の静かな始まりを目指す意味でスタートした「朝の読書」は、その意味では2年を経過し、一定の成果を上げたが、読まない子に対する指導方法など、更なる充実のためには新しい工夫や今一度、職員の共通理解が必要。
- (6) 学校現場での読書教育や学校図書館教育の充実のためには
 - ・校務分掌での読書教育担当者や司書教諭のきちんとした位置付けや仕事内容の確認が必要。
 - ・和泉市独自の「有償司書ボランティア」が存在することで各学校図書館運営を支えていることとその仕事内容についても教職員全員で共通理解することが必要。
 - ・小学校での「図書の日」や中学校での各教科にかかわる読書教育の在り方などの研究実践することも重要。

・小学校では児童会活動、中学校では生徒会活動と連携しての読書教育や学校図書館運営についての研究実践することも重要。

- (7) 学校現場での読書教育や学校図書館教育を理解し、協力していただくための保護者へのアプローチが必要。

具体的には保護者自身が読書を楽しむような取組から子どもと一緒に読書を楽しめるような雰囲気づくりを行い、保護者が学校図書館運営などを手伝ってもらえるような仕組みづくりが必要。

- (8) 学校図書館を学校だけのものにするのではなく、地域に開かれたもの（地域の方々の図書の貸し出し利用など）にするための工夫が必要であり、そのことが最終的には学校教育としての読書教育への理解や協力につながる。
- (9) 図書館を読書や本とつながる場だけでなく、情報発信や学校としては調べ学習の場などとしても利用しようとするならば、コンピューターの設置やインターネットへの接続などのハード面での更なる充実が必要。
- (10) 上記の課題を克服するスタートとして、現状の読書教育や読書状況、学校図書館を巡る問題点などをきちんと把握し、分析したうえで具体的方策を示し、実践していくための組織づくりが最重要課題。



＜「朝の読書」に向けた本の紹介＞

研究指定後も上記の課題を継続して克服していくことを関係者の間で確認できたことが大きな成果であり、その中で読書から一番遠い子どもたちに読書の楽しさを知らせていきたい。

推進地域名	三木市
-------	-----

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

兵庫県南東部にある三木市細川町は、農村部に位置し、三世同居で教育熱心な家庭が多い。大半の児童は、落ち着いた環境で暮らししており素直で純朴である。2校とも郊外にある小規模校で家庭の協力が無いと図書館や書店に行きにくい。そのため、児童にとって学校や公民館の図書室が本と触れ合う大切な場所となっている。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	三木市立豊地小学校	98	7
2	三木市立瑞穂小学校	48	5

① 三木市立豊地小学校

児童は、全校縦割り班で高学年が中心になって植物の栽培や掃除など授業以外のほとんどの活動を行っている。図書室の平成14年度末蔵書数は4,225冊である。昨年度から近隣公立図書館から団体貸出制度を利用し、延べ千冊以上の本を毎年借りている。

② 三木市立瑞穂小学校

吹抜けの図書室兼ホールは集会等にもよく利用している。

群読タイム等では縦割り班の高学年が中心となって詩を決め、練習をしている。一年間で各班2～3編の詩を暗記、発表する。低学年児童も家庭でも詩を唱え、暗誦している。



〈6年生を中心に群読の練習〉

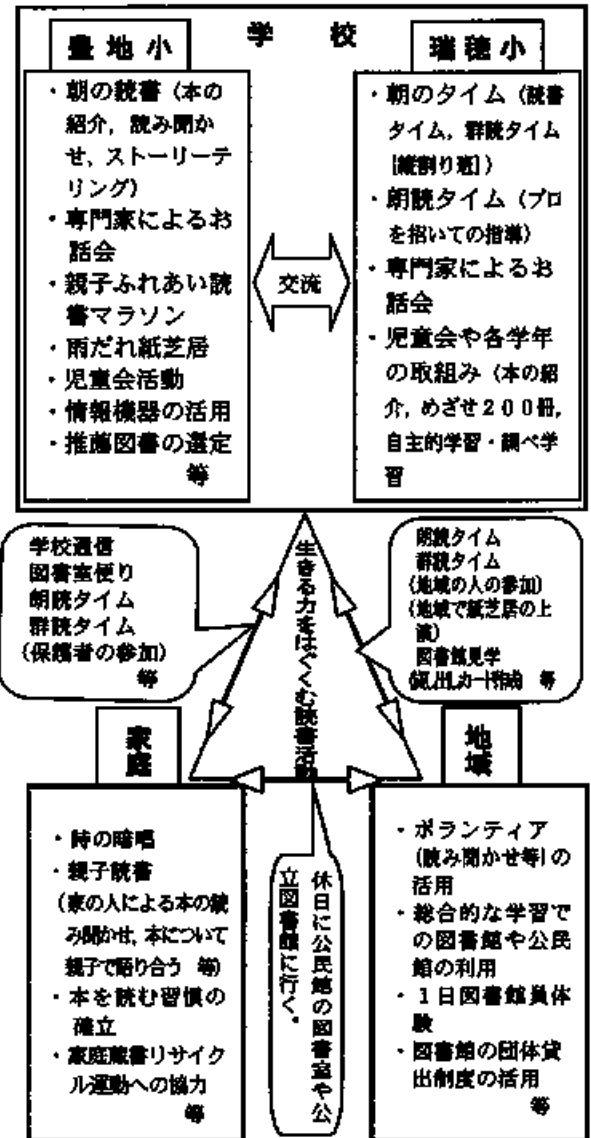
(3) 協力機関等

三木市立図書館、三木市立細川町公民館、各小学校PTA、ボランティアグループ等と連携・協力して事業をすすめている。

2. 実践研究の概要

(1) 研究の内容

協力校(2校)、地域、家庭の三者が連携・協力して、取り組んでいる。



(2) 成果

読書好きの児童が増え、自主的に図書室を利用し、本をリクエストするようになった。また、家庭では本の話題が多くなり、休日に保護者と図書館や公民館等に行く児童が増えて、地域との連携が深まった。

(3) 今後の課題

家庭や地域と更に連携して地域全体で読書活動をますます盛り上げ、一人でも多くの児童を読書好きに育てていきたい。

3. 実践研究の内容及び成果

(1) 具体的な取組

① 家庭や地域との連携強化

家庭や地域が大変協力的である。家庭では、音読練習や朗読タイムや群読タイムの発表前の練習時に、音読カードに一言を記入し児童を励ましている。また、発表会には、家庭や地域の人々の参加があり、児童にとって大きな励みとなっている。

読んだ本をもとに紙芝居を作り、地域の幼稚園や保育園、デイサービスセンター等に行き地域とも交流することができた。

ア 親子読書

「親子ふれあい読書マラソン」では親子で本を読んで語り合ったり、互いに一口感想を書いたりした。そして読んだ本の冊数やページ数を記録していった結果、家庭での読書に関する話題が増えた。

イ 朝の読書

朝の15分間、各学年の年間計画を基に実施。自分で選んだ本を読む以外に、担任や担当教諭による読み聞かせやブックトーク

(本の紹介)

を行った。

また、年に数回地域ボランティアによる読み聞かせ、ストーリーテ



＜ボランティアによるお話し＞

リングやブックトークを実施した。自分で本を読み始めるのが苦手な児童も本に親しむきっかけづくりとなり、児童の読書の幅がより広がった。

ウ 朗読タイム

(年間5回)

学年ごとに、詩などの朗読発表を行った。その感想を伝



＜朗読発表＞

え合う中で学ぶものは大きい。発表学年は

どんな感想が出てくるか楽しみにし、聞き手も問題意識を持って聞くという相互作用の中で伝え合う力も高められてきた。

2年前から通信等で保護者の参観を依頼し、意見交換もでき児童の励みとなっている。朗読のプロによる直接指導もあり児童は創意工夫して朗読するようになってきた。

② 専門家によるお話し

ア 紙芝居

身振り手振りを交え絶妙な話術とベテランの表現力や



＜巧みな話芸による紙芝居＞

伝達力に、児童は引き込まれ熱中した。

読み手と聞き手のやり取りの面白さや楽しさを味わうことができた。それ以来、「紙芝居をやってみたい。」と言う児童がたくさん出てきた。

イ ストーリーテリング

児童は声と身振り手振り、時にはパペットという人形を使っての



＜ストーリーテリング＞

話や詩の語りに、目を輝かせて聞き入った。また「ことばあそび」では、語り手と一緒に声を出すことによってストーリーの世界に引き込まれた。

ウ 絵本原画スライドと生読りの会

効果音を交えた、役になりきった楽しい語りであった。表現の面白さや絵の素



＜絵本原画スライドと生読りの会＞

晴らしさを感じ、幼稚園児と保護者、推進協力校2校の全校生が画面と話に食い入る

ようにして聞くことができた。

③ 雨だれ紙芝居

雨の昼休みに
学校図書館で児童
会が中心になり「雨だれ紙芝居」
を行っている。



聞いてもらった <児童による雨だれ紙芝居>
成就感とほめてもらった満足感からやる気が
増し、ますます練習して、読むのが更に上手
になってきた。

④ 推薦図書や読後の本の紹介

どんな本を読
んだか、何が面
白かったかを伝
え合うことによ
り、表現力が高
まり、一人一人
の読書の幅が広がり、本に対する興味がより
深まった。



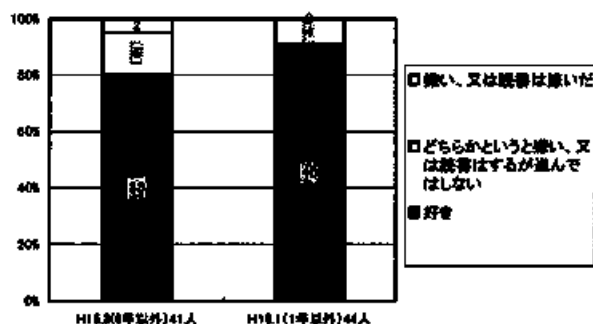
<おすすめの本の紹介>

(2) 成果

① 読書が好きという児童の増加

読書が好きな児童が増え、去年度と今年度の
10月に実施した、読書マラソン（一か月
間）の結果では、全学年における一人あたりの
読書平均は10冊から15冊に増えた。

アンケート 読書は好きなことの一つですか(増殖小)



② 家庭と地域の連携の強化

本の話題が多くなり、親子のふれあいが増
えた。また、休日に保護者と図書館や公民館
等に行く児童が増え、家庭と地域との連携が
深まった。

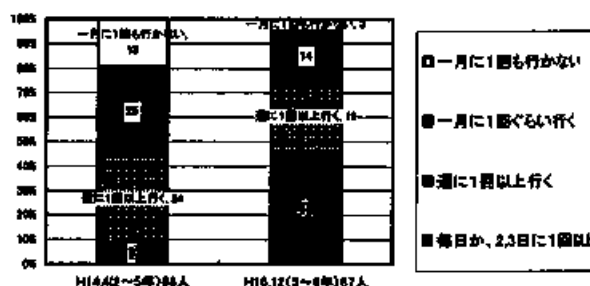
保護者の感想から

・普段は忙しくて親子でふれあうことがない
のですが、最近は毎週日曜日に子どもに
「三木市の図書館に連れて行って」と言わ
れます。連れて行くと、何冊かの本を宝物
のようにして持って帰ってきます。

③ 読書の時間を継続的に確保することにより、
静かに本を読む習慣が身に付き、毎日の記
録用紙に一口感想をすすんで書く児童が増
えてきた。

④ 学校図書館利用度の増加

アンケート 図書室へどれくらい行きますか(豊地小)



⑤ 児童が自主的に紙芝居や本の読み聞かせを
行うようになった。

⑥ 読書によって、読む力や集中力が身に付き、
授業以外での読書時間が増え、本を媒介にし
て友だちや親と話す機会も増えてきた。

読書実態調査 (H15年12月) より

- ・ 知らなかったことがわかり、言葉を覚え、読める漢字
が増えた。
- ・ 本の世界で想像するのが楽しくなり、想像力がアップ
した。
- ・ みんなにおもしろい本について話をできるようになっ
た。友達と話すことが増えた。
- ・ ぱっとすることがなくなり、早く本が読みたいから
家での行動が早くなった。
- ・ 人々の暮らしや苦しみやがんばりなどについてよくわ
かり、悲しいことなどがわかるようになった。

4. 今後の課題等

取組により読書好きの児童は増えたが、読書
があまり好きでない児童もいる。彼らに読書の
楽しみをもっと知らせ、読書が好きな児童に育
てたい。

また、学校図書館の更なる充実を図り、家庭
との連携をより強化して読書習慣を確立してい
きたい。さらに、市内学校間の読書に関する情
報交換及び共有化を図り、読書活動を充実させ
ていきたい。

和歌山県教育委員会

推進地域名	みなべがわむら 南部川村
-------	-----------------

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

人口6,729人、日本一の南高梅と日本一の備長炭の村、梅と健康の村づくりを推進している。

平成16年10月1日付けで、隣接の南部町と合併し新町「みなべ町」となる。

本村には公立図書館はないが、中央公民館図書室に平成8年度から図書館司書を設置し、村民の読書活動の推進を展開している。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	南部川村立上南部小学校	323	14
2	南部川村立上南部中学校	172	8
3	南部川村立高城小学校	85	7
4	南部川村立高城中学校	58	3
5	南部川村立清川小学校	82	7
6	南部川村立清川中学校	48	3

① 上南部小学校

- ・エコスクール（太陽光発電装置）
- ・イングリッシュパワーアップ事業県指定校
- ・6年生が1年生に紙芝居の読み聞かせ

② 上南部中学校

- ・学力向上フロンティア事業指定校
- ・イングリッシュパワーアップ事業県指定校
- ・生徒会図書委員が蔵書データ入力に貢献

③ 高城小学校

- ・学力向上フロンティア事業指定校
- ・中央公民館図書各学級文庫への定期的な集団貸出を実施

④ 高城中学校

- ・平成12年度読書活動優秀実践校
- ・学校推薦図書50冊の選定
- ・ブックトークで読書の楽しさを広げよう（生徒班別トーク）

⑤ 清川小学校

- ・木造校舎、木造体育館、木製児童用机・イス（潤いのある木の教育環境部門賞施設）
- ・多目的ホールが図書館

⑥ 清川中学校

- ・生徒図書選定委員が教員と共に大型書店を訪問して選書し購入
- ・大型絵本「スイミー」の英語での読み聞かせ



<図書委員のデータ入力>

(3) 協力機関等

- 中央公民館：村民の生涯学習、図書活動
- 地区公民館2館：地区住民の生涯学習、図書活動
- 保育所3か所：幼児の教育、絵本の読み聞かせ
- 私立幼稚園1園：児童の教育、絵本の読み聞かせ

2. 実践研究の概要

(1) 読書に関する調査

ア 図書アンケート調査

- ・推進協力校全小中学校6校で、平成14年度においては児童生徒及び保護者を対象に、平成15年度は児童生徒を対象に読書に関するアンケート調査を実施した。
- ・その結果、本を読むのが好きと答えた児童生徒は約70%、あまり好きでない、きらいと答えた児童生徒は約30%など、児童生徒の読書に関する現状把握ができた。又、保護者による子どもの家庭での読書状況の把握や保護者の読書に関する意識調査ができた。又、2年間の取組の成果が分かった。

- ◎ 2年間の取組後でも、本の嫌いな子ども、家庭において1冊も読まない子ども、学校での読書の時間が楽しくないと答えている子

どもたちに、読書の喜びや楽しさをどう植え付けるか、生きていく上で読書がいかに大切かをどのように分からせるか、学校での読書環境の整備、家庭での保護者と共に行う読書活動をいかにすべきか等、今後の取組方法が課題である。

イ 学校図書館等の活用

- ・全学校の学校図書館を利用した授業を促進した。
- ・全校一斉の読書活動（10分間読書）は毎日行っているのは中学校の3校、ほとんど毎日が小学校の2校、週1回が1校となっている。また、学校図書館を利用した授業は、平成14年度では少なかったが、15年度では大幅に増えた。

◎ 学校図書館を利用しやすい環境に改善することや、「10分間読書」の取組での本の提供の仕方、「調べ学習」等での資料の充実、司書教諭や学校図書館司書などの人的配置が課題である。

(2) 学校・家庭・地域社会、関係協力機関団体が連携した取組

ア 読書活動の推進

- ・図書サポーターの活用授業実践、小さな手づくり絵本の募集と、絵本作家の寸評を添付した展示会、絵本づくり講習会、大型手づくり絵本の製作と展示会、絵本の読み聞かせの実施、ブックトークモデル授業の実施、国語の教科書にある本の蔵書リスト表の作成と配布、読書講演会などを実施した。
- ・読書に対する関心を高め、落ち着いた学校生活や学習習慣を定着させることができた。

◎ 図書サポーターの学校でのボランティア活動をいかに生かすか、そのための時間を生み出すための工夫、ブックトークの実践法を、教職員にマスターしてもらうための手立てが課題である。

イ 梅の里9館ネットワーク図書館

- ・情報ネットワークシステム整備事業により、

全小中学校の図書館（6校）と公民館図書室（3室）とをインターネットで結び、相互に情報交換が出来るようにした。

◎ 公民館図書室、学校図書館の9館の中で、お互いに蔵書の検索、貸出予約等が行える予定であるが、各公民館図書室、各学校図書館での蔵書データの登録に時間を要することが課題である。

3. 実践研究の内容及び成果

(1) 読書に関する調査

- ・平成14年10月に全小中学校の全児童（491人）生徒（272人）及びその児童、生徒の保護者（小389人、中220人、回収率約80%）を対象に読書に関する現状を把握するため、読書アンケート調査を実施した。
- ・さらに、15年7月と16年2月にブックトーク授業や読書活動の2年間の取組の成果を検証するため、読書アンケート調査を実施した。

◎ 児童、生徒の読書に関するアンケート

ア 本の好き嫌いについて

	小学校		中学校	
	14/10	16/2	14/10	16/2
たいへん好き	26%	35%	28%	32%
どちらかというと好き	41%	38%	44%	45%
あまり好き出ない	25%	23%	23%	19%
きらい	8%	4%	5%	4%

イ 読書量について（マンガを除く）

	小学校		中学校	
	14/10	16/2	14/10	16/2
1か月に10冊以上	22%	21%	14%	7%
" 5~9冊	25%	22%	24%	15%
" 1~4冊	43%	43%	51%	70%
" 0冊	10%	14%	11%	8%

ウ 学校での読書時間（10分間読書等）について

	小学校		中学校	
	14/10	16/2	14/10	16/2
楽しい	82%	76%	87%	73%
楽しくない	18%	24%	13%	27%

エ 学校図書館での借り出し利用について

	小学生		中学校	
	14/10	16/2	14/10	16/2
毎月 10冊以上	3%	10%	3%	6%
" 5~9冊	8%	13%	8%	8%
" 1~4冊	53%	47%	56%	62%
" 0冊	36%	30%	32%	24%

オ 学校外での読書

	小学校		中学校	
	14/10	16/2	14/10	16/2
ほとんど毎日読む	17%	23%	13%	19%
ときどき読む	41%	50%	33%	49%
ほとんど読まない	29%	19%	31%	22%
ぜんぜん読まない	13%	8%	24%	10%

◎ ブックトークモデル授業の効果(15年7月)

ア ブックトークは楽しかったか

	小学校	中学校
とても楽しかった	47%	14%
楽しかった	46%	70%
つまらなかった	7%	16%

イ 読んでみたい本はあったか

	小学校	中学校
何冊もあった	37%	13%
1冊はあった	47%	49%
なかった	16%	38%

ウ 今までより本を読むようになったか。

	小学校	中学校
なった	44%	22%
変わらない	56%	78%

エ 本を読んだり読んでもらったり、お話を聞くのが好きか

	小学校	中学校
大好き	45%	18%
好き	41%	54%
好きでない	14%	28%

・以上の調査から学校別の取組状況、担任教員の取組姿勢によって児童、生徒に与える影響が端的に現れていると感じた。

・2年間の取組により、本が好きになった子どもや学校外で読書する子どもが増えたこと、ブックトークモデル授業により、今までより本を読むようになった子どもが多数おり、読書に対する興味関心が少しずつであるが、高まったことは大変うれしい。

・1か月に10冊以上読んでいる子どもが、小学校では約20%、中学校では約10%あるが、手軽に読めて内容的にもあえて読むに足りない本を10冊読むのか、手軽に読める絵本だが、内容的には非常に深いものを10冊読むのか、古典を何度も貸出更新手続きをして、1か月も2か月もかけて1冊読むのかなどの諸条件による質の違いがあり、冊数にあまりこだわらない方がよいかもしれない。

◎ 学校の読書の時間が楽しいという比率が70%から80%あることは、「自分の好きな本を読む。感想を強制されない」という条件があるからだと考えられる。

・しかし、楽しくないという子どもが20%近くいるし、本があまり好きでない、嫌いという子が約30%いる。また、学校以外で1か月に1冊も読まない、ほとんど読まない子どもがかなり多い。これらは今後の課題としなければならない。

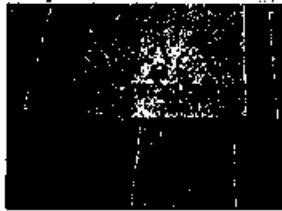
② 学校、家庭、地域社会、関係協力機関団体が連携した取組(読書活動の推進)

ア 図書サポーターの活用授業実践

・各小学校や保育所からの要請により、大型絵本や絵本の読み聞かせを実施した。又、各公民館でも「えほんのじかん」や「おはなしで遊ぼう(物語体験ワークショップ)」「利用者のみなさんが選んだおすすめの本」「この本おもしろいよ~ヤングアダルトの本」の紹介や展示などを行った。

イ 手づくり絵本の募集と講習会、展示の実施

・小さな手づくり絵本の募集と、作品個々に絵本作家の寸評を加え、各学校、各公民館での展示会を実施した。



＜手づくり絵本の展示＞

＜絵本作家の寸評＞

・手づくり絵本製作の講習会を実施した。

ウ 大型手づくり絵本の製作とオリジナル絵本の募集

・子どもと本の会（スイミーの会、プレッシュェルの会、ぐりとぐらの会）では、大型手づくり絵本を製作しお話の会を行った。

・「貸し出し用のオリジナルの絵本を図書室で貸し出します」を募集中で、小学校高学年以上、中学生にチャレンジを呼びかけている。現在6点保管し、利用している。

エ ブックトークモデル授業の実施

・大阪府熊取町で20年以上ブックトーク活動を続けている、ひつじ文庫の森崎シズ子さんや秋本美津さんを招いて、平成14年度は全小中学校の小学校3年生以上を対象に15講座、平成15年度は、全学年、全クラスで36講座実施した。又、各学校で講師を囲んでの懇談会を行った。



＜ブックトークのモデル授業＞

・ブックトーク授業を終わって1か月後、児童生徒、教員へのアンケート調査を実施した。

オ 国語の教科書にある本の蔵書リスト表の作成配布

・平成14年度から、新しく採用された国語の教科書に出てくる、推薦図書のリスト表を作成し、各学校に配布し活用をはかった。

カ 著名講師による読書講演会の実施

・平成14年度は、芥川賞作家の池澤夏樹さん、

テーマ「物語という別世界」の講演会を実施した。

・平成15年度は、ノンフィクション作家の澤地久枝さん、テーマ「昭和・歴史の子の証言」の講演会を実施した。

キ 読書フェスターの実施

・読書に関心を持ってもらうため、広く学校、家庭、地域、周辺市町村にも知らせ「国際アンデルセン賞、オナーリスト受賞図書展」と「童謡とわらべうた」の会を実施した。

4. 今後の課題等

・本が好きでない子ども、1か月に1冊も読まない子どもたちをいかに読書に関心をもたせるかが重要課題である。

・生きる力をはぐくむ読書活動推進のためには、家庭での読書習慣化、親子読書活動をいかに普及するかが課題である。

・子どもたちに本に興味をもたせるには、子どもの多様なレファレンスに対応できるように学校図書館にやさしく適切な読書指導をしてくれる司書が必要である。「人のいる学校図書館」の早期実現を図りたいと思うが、財政難の時代、非常に困難である。保護者の協力や読書ボランティアの支援などが図れればと考えている。

・本好きの子どもを育てるためには、小さいころから本に親しませることが大切である。村内の保育所で中央公民館の司書が毎週「巡回絵本の読み聞かせ」に取り組み、成果を上げている。今後はさらに、乳幼児の時から「言葉の獲得」や「親子の絆」を深めるためにも、絵本の楽しさや、大切さを普及させる「ブックスタート事業」を充実させていくことが大切と考えている。

・2年間の研究成果を踏まえ、平成16年度以降においても学校図書館を利用した授業研究や、子どもの読書活動の推進を図っていききたいと考えている。

岡山県教育委員会

推進地域名	御津郡加茂川町
-------	---------

1. 推進地域の概要

(1) 加茂川町は、岡山県の真ん中に位置する農業を中心とした中山間地域であり、「ハートオブおかやま」をキャッチフレーズとして、まごころあふれる町づくりを展開している。人口6,100人で3小学校と1中学校がある。町立図書館はない。少子高齢化の渦中にあるが、地域で子どもを育てていこうとする意識が極めて高く、学校教育への理解と協力が得やすい。県の3大祭「加茂大祭」は特に有名である。

(2) 推進協力校

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	加茂伊立津賀小学校	67	7
2	加茂伊立円城小学校	86	7
3	加茂伊立御北小学校	73	7
4	加茂伊立加茂川中学校	166	7

① 津賀小学校：平成2年に統合。学区は備前・備中文化の交流地域である。

② 円城小学校：昭和55年に統合。風光明媚な円城ふるさと村の一角に位置する。

③ 御北小学校：平成元年に統合。山間の田園地帯にある。

④ 加茂川中学校：昭和61年に統合。加茂大祭が行われる加茂総社宮に隣接する。

※ 加茂川町には吉備高原都市学校組合立吉備高原小学校も所在するため、研究の一部にかかわっている。

(3) 協力機関等

加茂川町子ども読書推進委員会、加茂川町PTA連合会、総合福祉センター及び講座生とボランティア、おはなしや、町栄養改善協議会

2. 実践研究の概要

(1) 読書アンケートの実施

幼稚園の保護者、小学校の児童と保護者、中学校1・2年生と教員、地域の人を対象に

アンケートを実施し、読書活動の実態を把握し、課題及び改善点を明確にするとともに、実践の成果をとらえるようにした。同時に、アンケートを実施することにより、児童生徒自身が自らの生活を振り返り、少しでも読書への関心が高まるようにした。

(2) ブックガイド「おすすめのベスト100」

推進委員会が独自に本を選定し、ブックガイド「おすすめのベスト100」を作成した。「見せ語り編（幼稚園児が対象）・小学校低学年編」「小学校中・高学年編」「中学校編」に分けて作成し、全戸に配布することにより、特に小学校低学年の児童の本を読むきっかけづくりにつながった。

(3) 「加茂川町読書環境子ども調査隊」の派遣

小学校5年生～中学校2年生を対象に、町内及び近隣の町立図書館等を訪問した。それぞれの図書館の特徴や魅力を紹介する記事を作成し、各学校で巡回展示したり、読書まつりでも掲示したりすることにより、利用する施設の幅が広がってきた。

(4) 読書まつりの開催

学校・家庭・地域が連携して、できるだけ多くの親と子が楽しく読書に親しむことができるように町総合福祉センター全館を活用し、読書まつりを開催した。2年連続で開催し、他機関と連携しながら様々な企画を入れて実施したことにより、2年次は町としての盛り上がりを見せ、親子ともに読書への関心が高まった。

3. 実践研究の内容及び成果

(1) ブックガイド「おすすめのベスト100」

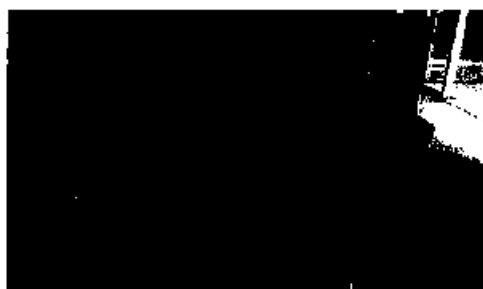
◇ 平成15年7月15日配布

◇ 成果と課題

① ブックガイドを参考に授業の中で児童生徒に紹介することで、本への関心が高まっている。ブックガイドの活用状況は、「活用する、あるいは活用したい」割合が、幼・小学校低学年55%、中・高学年27%、中学生19%であ

り、年齢が小さいほど、本を選ぶ参考にし、読書へのきっかけ作りにつながっているが、学年が上がるにつれて、活用されにくい状況にある。機会あるごとに意識付け、日常生活の中でも利用し、本を紹介していくことが大切である。また、リストだけではイメージがわからないので、図書だよりで表紙、ストーリーを掲載するなどの工夫が必要である。

- ② 児童生徒がリストを見ながら本を選び、読んだら〇を付けることで、読書への関心が高まりつつある。



<小学校・図書室での展示>

- (2) 「加茂川町読書環境子ども調査隊」の派遣

◇ 平成15年8月6日実施

◇ 成果と課題

- ① 児童生徒が近隣の町立図書館等について自主的に調査をし、取りまとめた結果を各学校に巡回し、読書まつりで掲示した。「調べる～まとめる～発表する」といった一連の学習活動を行うことにより、「学習」「読書」「情報」の各スペースをもつ図書館の機能が理解できた。

- ② 小学校での聞き取り調査によると、調査隊に参加したことで、本やCDを積極的に借りに行くようになったり、他の友達を誘ったりするなど、利用の輪が広がってきている。



<賀陽ロマン高原会館図書室状況>

- (3) 読書まつりの開催

◇ 平成16年2月21日(土) 13:00~16:30

◇ 内容

ブラックシアター、影絵、本の紹介、講話、影絵と人形を使った語り、大型紙芝居、中学生による絵本の見せ語り、ブックリサイクル、おすすめの本「ベスト100」の紹介、本の貸し出しと販売、福祉センター講座生による手作りおもちゃとおやつサービス、お茶席ほか

◇ 成果と課題

- ① PRが浸透し、各種団体の協力もあり、予想を上回る参加者があった(H14:390人、H15:420人)。プログラム内容を増やし、体験型のものを取り入れたこと、中学生の見せ語りをしたことで、保護者の56%が次回も是非参加したいと希望した。また、この取組を通して、読書への関心が高まったと考える保護者が53%で、意識に変化なしの32%を大きく上回っており、親と子の意識を高める上で有効であった。
- ② タイムスケジュールを再考し、園児や小学生の児童と保護者に飽きないようなプログラム内容にする。小学校上学年と中学生が興味を持ち、積極的に参加できるよう工夫する。



<中学生の見せ語り状況>



<メイン会場での一場面>



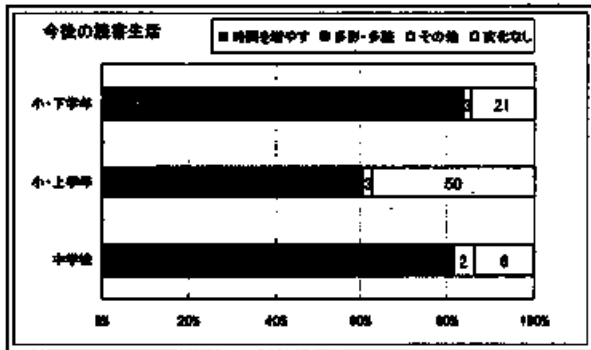
〈ロビー展示コーナーの状況〉

4. 今後の課題等

取組についてのアンケート結果から次のような成果と課題が考えられる。

- (1) グラフから、どの学年とも、今後もっといろいろな種類の本を多く読みたいと考えていることが分かる。これは、ブックリスト、読書まつり等で多彩なジャンルの本を様々な方法でふれあう機会を多く設定した成果であると考えられる。本町のような過疎地域にあっては、豊かな読書生活を構築する上で、多くの本にふれあう機会を継続して実施することが、特に大切である。

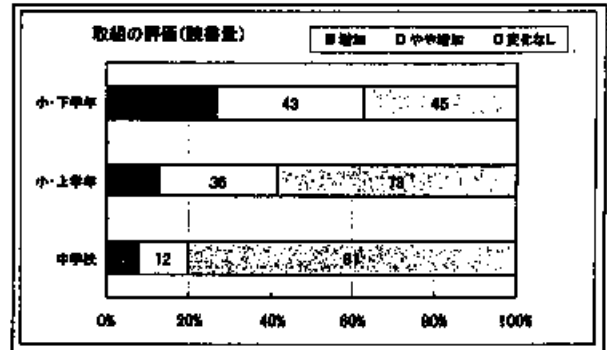
(グラフ1)



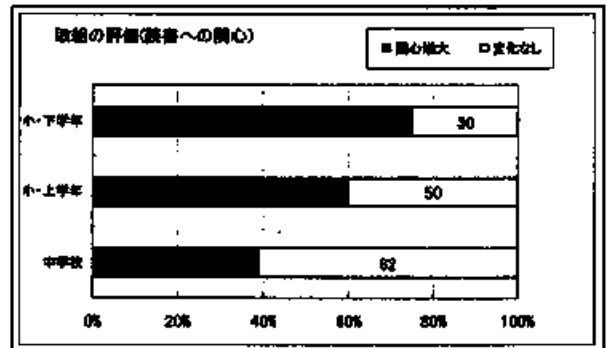
- (2) 取組の成果をグラフ1・2の児童生徒の読書量と読書への関心でみると、ある程度の成果があったと考えられる。学年別に見ると、下半年ほどその効果が認められ、内容的に楽しそうなことに興味を示すという低学年児童の発達段階の特徴に合致した取組であったといえる。しかし、イベント的な取組だけでは、中学生の読書離れを改善することは難しい。本町の読書アンケート結果によると、読書離れの要因としてテレビ視聴の時間との関連

と、学年が上がるほどよく読むグループと読まないグループとに二分化されていることが指摘されている。「朝読書」や学習との関連を図りながら読書環境の充実を図るとともに、生活習慣との相関を明らかにした実践を継続していくことが今後の課題である。

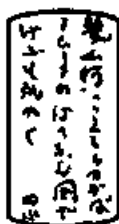
(グラフ2)



(グラフ3)



- (3) 以前から活動していたボランティア団体「おはなしや」との連携を図りながら、伝統的に地域ぐるみで取り組もうとする町のよさを生かした実践は、地域住民の共感を得た。「町村合併後も、ぜひこの地域で同じ取組を継続して欲しい」という要望も高い。今後も地域の教育力を生かした取組を継続し、児童生徒の生きる力をはぐくんでいきたい。
- (4) 町立の図書館が無く不便さを感じているが、現在ある各施設の図書機能の充実を図るとともに出来るだけ広く町民に周知を図り、周辺施設の良さを伝え、利用促進につなげる必要がある。



1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

岡山県哲西町は、県の北西部に位置し、広島県東城町と接している。人口は、3,250人。主な産業は農林業で、県内でも有数の米どころとして知られている。町内には、「西の尾瀬」と呼ばれ、湿性植物の宝庫である「鯉が窟湿原」があり、自然環境にも恵まれている。また、明治40年、歌人若山牧水が訪れ、そのときに詠んだ有名な「幾山河こえさりゆかば…」の歌は、今も哲西町に歌碑として残り、人々に親しまれているだけでなく、100年という年月を経て、町の文化として根付いている。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	哲西町立哲西中学校	84	4
2	哲西町立矢神小学校	82	7
3	哲西町立野馳小学校	84	7
4	哲西町立哲西幼児学園	71	4

① 哲西中学校

ボランティア活動を通じた読書交流

② 矢神小学校

家庭、地域との連携を通じた読書活動

③ 野馳小学校

民話を中心とした読書の取組

④ 哲西幼児学園

民話劇の発表や親子の読み聞かせ

(3) 協力機関等

○ 哲西町立図書館

図書館は、開放的な雰囲気のあるオープンスペースで、映画会やお話し会・図書館まつりの行事や「おすすめの本」の紹介を行っている。

また、学校でインターネットを使って図書館の検索ができる。

2. 実践研究の概要

哲西町では、中心テーマを「読書好きの子どもを育てよう」とし、各学校・園を中心に、家庭や地域、町立図書館などの公共施設との連携を図りながら実践を進めてきた。特に、次の3点について、重点的に取り組んだ。

◎読書交流を通じた各学校・園の連携

◎民話を通じた取組

◎家庭、地域との連携

アンケートによる実態調査を行い、その都度検討を重ね、実態に即した実践を行った。

3. 実践研究の内容及び成果

《読書交流を通じた各学校・園の連携》

(1) 具体的な取組及び取組の留意点

○ 中学生による読み聞かせ

・幼児学園を訪問し、園児が興味をもつような手作りの紙芝居やパネルシアターを工夫した。

・母校の小学校を訪問して、読み聞かせや自分が小学生だったころの「おすすめの本」を紹介する活動を通して交流を図った。

○ 二つの小学校での読書交流

・「心の虹カード」でお薦めの本を紹介しあう活動を通して交流を深めた。

○ 小学生と園児との読書交流

・生活科と関連させ、楽しい活動となるように留意して読み聞かせを行った。



(2) 成果

・中学校の読み聞かせの実践では、園児や児童が、目を輝かせ、食い入るように聞いている姿が印象的だった。要望にこたえて何度も読み返す場面も見られ、生徒自身が読書の楽しさを学ぶ体験となった

- ・町立図書館の司書の助言をもとに、交流する学年にふさわしい図書を選択し、読書を通しての温かい交流ができた。
- ・『心の虹カード』の取組は、他校の児童からの返事がもらえるということで、とても喜んで取り組んだ。紹介してもらった本への興味が高まった。

《民話を通じた取組》

(3) 具体的な取組及び取組の留意点

哲西町が生んだ「日本一の民話の語り部」賀島飛左さんは、哲西町に伝わる600話以上の民話を覚え、子どもたちに語り継いできた。77歳の時には、町の無形文化財にも選ばれた。哲西町では、民話を伝承し、地域文化や郷土愛をはぐくんでいくために、毎年「民話の集い」を開催している。各小学校、幼児学園では、「民話の集い」に参加し、発表の場としている。

○ 賀島クラブの活動

- ・賀島飛左さんの民話の楽しさを伝えるために、登場人物の動きや音声を工夫した紙芝居風アニメを作成して、ビデオに収録した。
- ・1小学校では、民話集会を開き、アニメの上映や民話の本の紹介などを通して、民話に親しむ活動を行った。

○ 民話劇の取組

- ・児童、園児が、お話の楽しさが伝わるような民話劇に取り組んだ。



(4) 成果

- ・各学校・園がそれぞれの特徴を生かして民

話劇や民話のアニメに取り組んでいる。それぞれの作品は、とても温かみがある、ほのぼのとしたものであり、見ている人もお話の世界に浸ることができる作品である。このように、民話を地域の財産として、町全体で民話に関する活動を行い、「民話の集い」などで発表し、交流することにより、子どもたちの中にも地域の民話を語り継ごうとする意識が生まれてきている。

- ・民話に親しむ活動を通して、お話の楽しさを感じ取り、読書への意欲へとつながった。

《家庭、地域との連携》

(5) 具体的な取組及び取組の留意点

○ 家庭読書—ほのぼののタイム—

- ・学期に1回（6月、10月、2月）と夏期休業中に親子読書を行い、読書を通じたふれあいを深めた。
- ・PTA広報紙や学級便りを通して、情報交流を図った。

○ 図書館開放—親子読書会—

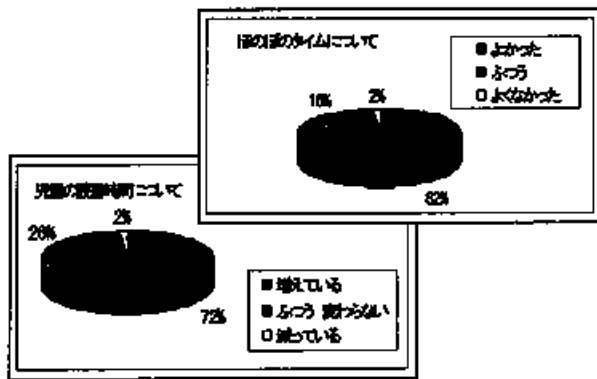
- ・読書ボランティアや読書コーディネーターの効果的な活用を行った。
- ・保護者との連携を図りながら、活動を工夫した。

○ 町立図書館との連携

- ・各半年の学習内容や児童の読書傾向に沿った図書の選択、貸出（きらめき文庫）を行った。

(6) 成果

- ・家庭読書では、時間や回数などの取組方法を各家庭で話し合い継続して取組を行った結果、次表のように読書意欲の高まりがみられた。また、家庭読書を通して「親子のふれ合いをもつことができた。」「子どもと一緒に読書の楽しさを味わうことができた。」「ゆっくり本を読む機会ができた。」など、読書生活の広がりがみられた。

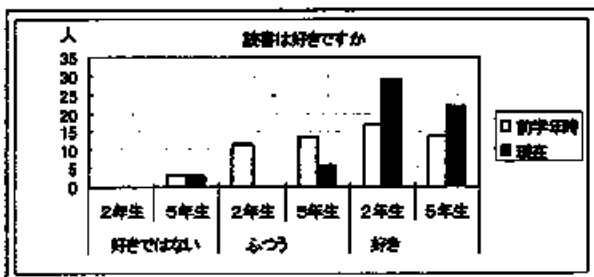


- ・図書館開放日の読書会では、PTA愛育会と連携を図り、地域ボランティアや読書コーディネーターの読み聞かせ、大型紙芝居、ブックトーク、工作などの活動を工夫して行った。その結果、関心が高まり、初回は13名の参加だったものが、第5回目には35名の参加となった。
- ・毎月、町立図書館より各学級に10冊ずつ貸出を行った。図書館司書の的確な助言もあり、様々な分野の本を読む機会が増えた。

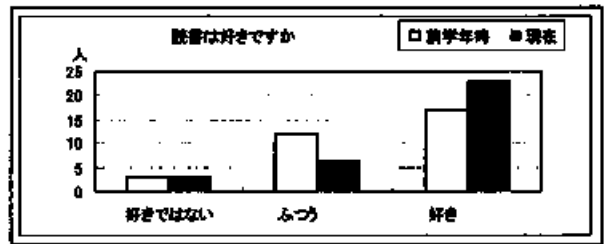
《実態調査から》

- ・昨年度から、小学校、中学校で統一した実態調査を行い同じ児童生徒の2年間の変容をまとめた。特にここでは低学年から2年生、高学年から5年生、中学校3年生の結果をあげた。どちらの学年も読書好きな児童が増え、読書量も5冊以上読んでいる児童が増えた。中学校3年生については、読書が好きという生徒が増えたにもかかわらず、多読の生徒は減っている。それは、部活動、受験等様々な理由により、読書の時間が確保しにくいためであると考えられる。

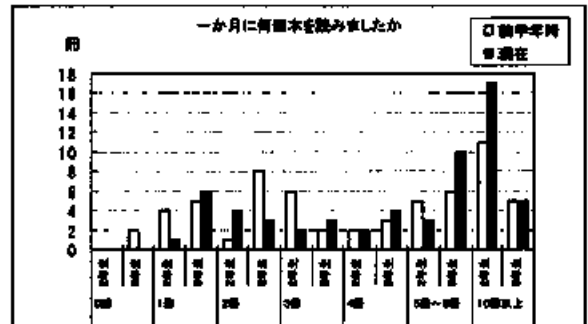
★小学校2年生・5年生



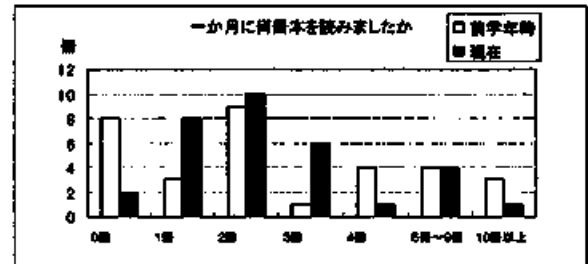
★中学校3年生



★小学校2年生・5年生



★中学校3年生



4. 今後の課題等

- ・児童、生徒の読書傾向を把握したり、学習に必要な図書を選択を行ったりして計画的な図書の購入に努め、学校図書館や学級文庫等身近な読書環境を更に整備充実させる。
- ・児童、生徒の読書意欲には個人差があるため、機会を捉えた支援の工夫を図る。
- ・家庭読書の充実、読書ボランティアや町立図書館との連携を更に工夫しながら、様々な読書体験の充実を図る。
- ・日常的に読書の時間が確保できるよう、活動の在り方や読書方法を検討していく。
- ・民話等、地域文化のよさにふれる機会を更に増やし、民話を通じた読書活動を活性化させる。

広島県教育委員会

推進地域名	福山市
-------	-----

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

福山市新市町は、市の北西部に位置し、面積 53.1 km²、人口約 22,000 人である。昭和 34 年町村合併促進法により、新市町、戸手村、網引村、常金丸村、藤尾村が合併して新市町として発足し、平成 15 年 2 月 3 日に福山市と合併し、福山市新市町となった。

現在、新市町内には小学校が 4 校、中学校が 2 校、県立高等学校が 2 校、生涯学習の場として市公民館が 4 館ある。

本事業の推進協力校は、新市中央中学校をはじめこの中学校を学区とする戸手小学校、新市小学校、網引小学校である。学校においては、昨年度から図書を整備に一層力を入れ、これに伴い学校及び地域における図書館教育の推進を図ってきた。学校では、子どもの読書量が増え、読書に対する関心と意欲が高まっており、地域では、本を媒体とした活動が行われるとともに読み聞かせの会等のボランティア活動団体が生まれ、それぞれに活動している。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	福山市立新市中央中学校	497	13
2	福山市立網引小学校	358	12
3	福山市立新市小学校	320	12
4	福山市立戸手小学校	358	13

① 福山市立新市中央中学校

- ・ P T A 役員を中心として土曜日の午前中、図書室を開放し、本に親しめる体制をとってきた。また、地域の小学生に対して、中学生が読み聞かせをする機会をもつことを実践した。
- ・ 読み聞かせグループを導入した。
- ・ 学級文庫をローテーションした。
- ・ 図書だよりを発行した。

② 福山市立網引小学校

- ・ 読書感想文の呼びかけ、標語づくりに参加した。
- ・ 課題図書を中心に購入したり、各学年の教科に関連のある本、総合学習の本などを取り入れた。
- ・ 図書委員会の活動として、本の整理、分類などみんなが読みやすい図書室を工夫した。

③ 福山市立新市小学校

- ・ 地域の「読み聞かせボランティア」の方が、毎週火曜日と金曜日に担当を決めて来校され、各学年とも、月 1 回の割合で「朝の読書タイム」の時に読み聞かせを行っている。
- ・ 新市町読書感想文、標語コンクールに取り組み、応募した。
- ・ コミュニティールームでの「本の読み聞かせサークル」の活動を行った。

④ 福山市立戸手小学校

- ・ 読書活動推進会議による読書感想文、標語コンクールに全校児童が出品した。
- ・ ボランティアによる読み聞かせを行った。
- ・ 保護者による読み聞かせを行った。
- ・ 保育所との交流を 1 年生が行い、保育所の子へ読み聞かせを行った。

(3) 協力機関等

青少年の健全育成を願い、青少年育成の推進を図る「地域で子どもを見守るネットワーク」、児童の読書に関する推進を図る「読み聞かせグループ」、図書館教育を推進し、新市町民の文化と教育の向上及び生涯学習の推進に寄与する施設として図書館が充実され、より多くの方が利用し、特に児童生徒の読書に関する推進を図る「図書ボランティア」の協力を得ながら推進してきた。

2. 実践研究の概要

- ① 読書環境の整備・充実。図書室の活性化。
- ② 読書意欲の高揚、読書の習慣化などが図られる読書活動の推進。
- ③ 自主的・自発的な学習や課題追求学習を支える読書教育の推進。

- ④ 関係学校、関係公民館図書室及び家庭、地域との連携。
- ⑤ 「朝読書」等読書をする時間の確保。
- ⑥ 保護者の読書への意識の向上及び読書ボランティアの育成。

3. 実践研究の内容及び成果



<読み聞かせの会>

① 具体的な取組及び取組の留意点

ア 読書環境の整備

- ・学級文庫等を設置し、いつでも本を手にすることができる読書環境づくりに取り組んだ。
- ・学校図書館において本の配置などを考慮し楽しく、利用しやすい雰囲気づくりになるように工夫した。
- ・学校図書館の整備、充実を図った。
- ・関係学校、関係公民館図書室との連携を図った。

イ 読書意欲の高揚

- ・図書委員会による読書活動の充実、促進を図った。
- ・「読み聞かせ」を推進した。
- ・「新市町読書感想文、標語コンクール」の実施及び入賞作品の発表をした。

ウ 読書活動の支援、啓発

- ・学校図書館を開放した。
- ・読書ボランティアを発掘、育成した。
- ・「図書室だより」を児童生徒等に配布するとともに、町内各公民館にも設置した。
- ・PTAや読書グループにより読書活動を支援した。

- ・ミニコミ紙に図書ボランティア養成講座等の記事を掲載し、読書活動の啓発を支援した。

エ 研究・研修会の開催

- ・「読書講演会」を開催した。
- ・「図書ボランティア養成講座」を開催した。
- ・「新市町読書活動推進会議」を開催した。

② 成果

- ・「読み聞かせ」でお話を聞くことを楽しみにし、児童生徒の本に対する興味が高まった。
- ・「朝読」を定期的に設定することにより、学習態度等に落ち着きを感じられるようになった。
- ・「新市町図書室だより」を発行することにより、保護者の読書活動への関心が高まり、家庭での読書や読み聞かせを実践する人が増え、読書ボランティアも誕生し、学校での「読み聞かせ」ができた。また、地域の小学生に対して中学生が「読み聞かせ」をすることもできた。
- ・町内の児童生徒を対象に開催した「新市町読書感想文、標語コンクール」の作品募集をしたことにより、本を読む刺激になり、読書に対する興味、関心が高まった。また、作品を「新市町図書室だより」に掲載することにより、友だちの作品を知ることができた。
- ・おすすめの本コーナーを設置したり、本の貸し出し等について図書委員会活動が活発になってきた。

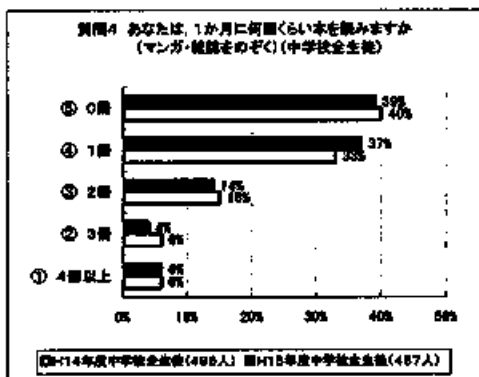
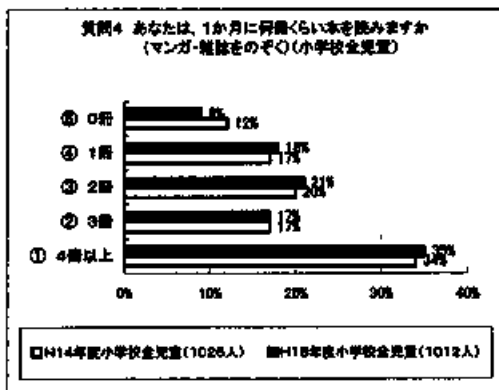
4. 今後の課題等

① アンケート結果から

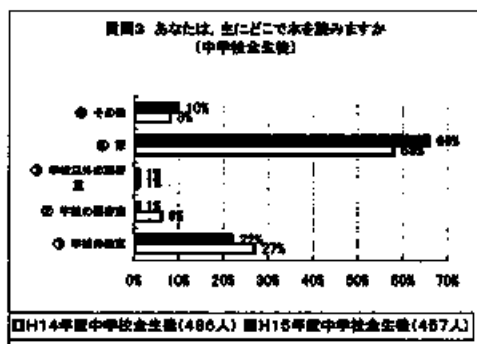
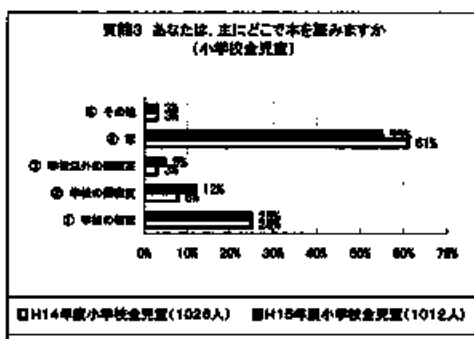
ア どのくらい本を読んでいるか

次のグラフのとおり、「一か月に読む冊数」が「1冊～3冊」の小学生は56%（前年度54%）、中学生は55%（前年度54%）である。

また、「一か月に読む冊数」が「4冊以上」の小学生は35%（前年度34%）、中学生は6%（前年度6%）であることから、学年が進むにつれて「本を読まなくなる」と「本を読む」とに分かれていくようである。



のである。そうすることで、読む時間や冊数が増加し、本の内容なども選択できるようになるだろうと考えられる。



イ どこで本を読んでいるか

次のグラフのとおり、「本を読む場所」が「学校の教室」の小学生は25%(昨年度25%)、中学生は22%(前年度27%)であり、「学校の図書室」の小学生12%(前年度8%)、中学生1%(前年度6%)を大きく上回っている。このことは、朝読等で身近に学級文庫等があり、わざわざ図書室に行かなくても本を読むことができるということが予想される。しかし、小学生において「本を読む場所」として「学校の図書室」を挙げる者が前年度8%から今年度12%と増えていることから、魅力ある図書室づくりが着実にできていると言える。

また、「本を読む場所」が「家」の小学生は55%(前年度61%)、中学生は66%(前年度58%)であり、家庭での読書環境づくりの大切さ、すなわち意識的な家庭での働きかけの重要性が分かる。家族での読書タイム、読み聞かせ等読書環境づくりをすることで、少しでも読書をする時間をもつようにしたいも

② 全体を通して

- ・子どもの読みたい本や調べ学習に必要な本を増やし、購入希望を取りまとめ、学校図書室や学級文庫等身近な読書環境を更に整備、充実させる必要がある。
- ・図書館教育を推進していく上で、学校での系統だった読書指導、すなわち系統性をもった細かい年間計画が必要である。
- ・子ども一人一人の読書意欲に個人差があるため、読書に消極的な子どもへの働きかけの工夫、方策を考える必要がある。
- ・読書による人間形成を促すためには、家庭での読書の習慣化、活性化を図ることが必要である。本を通して親子の心の交流やより深い感動体験をさせる取組を継続していく必要がある。
- ・子どもが本に親しみ、読書意欲を更に向上させるために、保護者や図書ボランティアの協力や支援など学校、家庭、地域が一体となった指導や活動を継続的に展開し、さらに強化する必要がある。

広島県教育委員会

推進地域名	甲山町
-------	-----

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

甲山町は、広島県中部の丘陵性台地の東部に位置し、総面積99.79km²、人口約7,100人の町である。本町のまちづくりは、「住んで良かった」「住み続けたい」と思える町、そして「ふるさと」として愛着をもつことができる、誇れる町を創造することを目指している。また、人がいきいきと輝くまちづくりを教育・文化における基本目標に掲げている。

中山間地域である甲山町には甲山、宇津戸、中央、伊尾、東の5つの小学校があり、町の西部に中学校1校、生涯学習の場として町内に5地区の公民館がある。また、教育委員会事務所に隣接して図書館と史跡今高野山境内に大田庄歴史館もある。

本事業の該当区域は世帯数2,371世帯、人口7,031人、児童数258人である。平成2年度に町立図書館を設置した。学校においては、平成5年度から「学校図書館図書標準」により図書の整備を行い、学校及び地域における図書館教育の推進を図ってきた。それと相伴って、平成2年度以降、子どもの読書量も増え、読書習慣が身に付き、読書に対する関心と意欲が高まってきた。また、地域では、本を媒体としたコミュニティ活動が盛んに行われるとともに、読書会や読み聞かせの会等の自主的なグループやボランティア活動団体が生まれ、それぞれに活動が活性化している。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	甲山町立東小学校	41	5
2	甲山町立甲山中学校	206	6

① 東小学校

「確かな学力と豊かな心をそなえた活気のある子どもの育成」を教育目標に掲げ、求める学校像の一つの柱として「朝の読書タイムをはじめ読書活動を推進する」ことを設定し、(1)読書環境の整備 (2)保護者・地域及び関係機関との連携を柱に、読書量の向上等に成果を上げている。本事業2年次は、子どもが読書しやすい家庭環境づくりに努め、甲山中学校とともに親子読書の推進を重点的に進めている。

② 甲山中学校

事業1年次は、生徒の読書意欲の向上を主目標に掲げ、毎朝の読書活動の推進、読書地域ボランティアとの連携、図書の配架等の図書室環境整備に主に取り組んできた。

2年次は、教育補助員の採用により図書室の整備・充実を一層進めることができ、成果として、図書室の学習センターとしての機能化を図ることができ、多様な学習活動を実現している。

(3) 協力機関等

市町村名	甲山町	地域の範囲	甲山町全域
推進協力校	甲山町立東小学校 甲山町立甲山中学校		
協力機関名	東小学校PTA 甲山中学校PTA 読み聞かせの会 図書館協議会		

2. 実践研究の概要

児童・生徒の読書意欲の向上と読書習慣の形成のために、学校、家庭・地域の充実した取組及び連携の在り方を研究する。

○ 研究の内容

- ・児童・生徒の読書意欲向上のための学校の読書環境整備の在り方について
- ・児童・生徒の読書習慣形成のための学校と家庭・地域との連携の在り方について

○ 成果

- ・小学生においては、学校の充実した取組が、児童の読書意欲の向上及び保護者の意識改革（親子読書の実施）へと直結した。

- ・推進協力校の成果を、甲山町内の小・中学校へ還元することができた。

○ 課題

- ・中学校の2年次の取組が生徒の読書意欲の喚起につながらなかったこと。
- ・個に応じた読書指導を実施すること。

3. 実践研究の内容及び成果

【小・中学校共通】

- ・朝の読書タイムを設置し、年間を通じて実施した。

【東小学校】

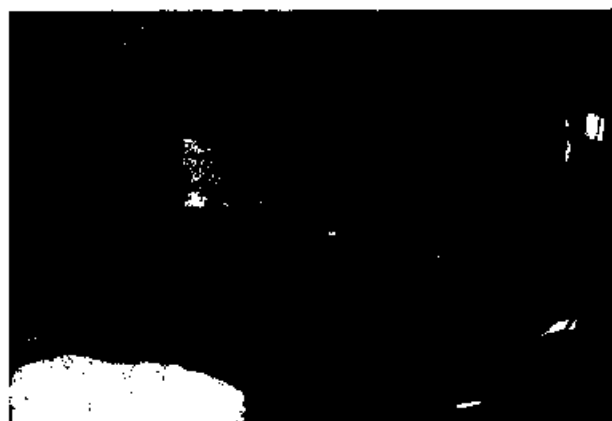
- ・公立図書館との連携による、全児童の貸出カードの作成の結果、公立図書館の活用状況数が増加した。

→アンケート調査「読む本を手に入れる先」によると、「図書室・公立図書館」が平成14年度21%→平成15年度51%に増加。

- ・保護者による読み聞かせグループの発足と学校での読み聞かせ及び教職員による本の読み聞かせの実施を通じて、読み聞かせを楽しむ児童が増加した。

→アンケート調査「本の読み聞かせは好きか」によると、「大好き」が平成14年度30%→70%に増加。

- ・読書参観日等を通して、保護者に学校の取組を広報した。



＜ 読み聞かせ会の様子（東小学校） ＞

→保護者の意識の高まりが、週末親子読書の

実施つながった。読書朝会に保護者グループが読み聞かせをする時もあり、子どもたちはその日を楽しみにしている。保護者が行うことで連携もとれ、家庭での話題の一つになった。

- ・読書参観日では児童が読んだ本を基に、個々の担当の絵を作成し発表した。参観日ということもあり、保護者も読書にふれる機会となった。

→保護者へのアンケート調査「読書参観日について」

「読書参観日についてどう思いますか。」

- ・これまでにないよい取組である。（85%）



＜ 読書参観日での児童の発表 ＞

【中学校】

- ・学校図書館運営が活発かつ機能的になった。

→毎日、昼休憩に学校図書館を開館し、本の貸し出し等が実施できた。夏季休業中は、日時を決めて貸し出し業務が実施できた。

→アンケート調査「読む本を手に入れる先」によると、学校図書館・公立図書館が平成14年度12%→平成15年度27%に増加。

- ・教科・総合的な学習の時間等での学校図書館の活用が位置付き、本の帯づくり、献立づくり、歴史新聞づくり等、多様な学習活動を実施した。

→学校図書館の活用状況は、国語6学年、社会1学年、美術1学年、家庭科2学年、総合的な学習の時間7学年の実績となった（数字は年間の延べ学年数）。

・学級文庫を設置した。→学級文庫 200 冊，図書室 400 冊の増加。

・地域読書ボランティアと連携した。
→継続的に読み聞かせを実施することができた。

・読書講演会の実施

保護者，教職員，地域住民を対象とした読書講演会を開催した。講演後の質疑応答では，作家からのお勧め本や本の読み方など，読み聞かせや読書を進める上での活発な意見交流がなされた。



< 読書講演会の様子 >

4. 今後の課題等

【小学校】

○ 個に応じた指導・助言の実施

・学校図書館の利用状況調査によると，学校図書館を利用する児童の傾向が，よく利用する児童とそうでない児童と二層化しているので，個に応じた指導の工夫が必要となっている。

○ 読書環境整備の推進

・計画的な図書購入を進めること。

(学校図書館図書標準の達成状況 78.4%

平成 15 年 9 月時)

【中学校】

○ 個に応じた指導・助言の充実

・「学校図書館の利用状況」について，アンケート結果から，学校図書館をほとんど利用しない生徒が半数近くみられた。

・「本を読むことが好きか」について，アンケ

ート結果から，「あまり好きではない」が平成 14 年度 21%→平成 15 年度 34%に増加した。
→希望図書の購入等，個に応じた読書指導の充実が必要である。

(学校図書館図書標準の達成状況 151%

平成 15 年 9 月時)

【地域住民の要望】

○ 行政に対して

- ・保育所から小・中学校，高校と一貫した取組を実施すること。
- ・開設時間を延長する等，地域住民の利用を考えた公立図書館を運営すること。

山口県教育委員会

推進地域名	大島町
-------	-----

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

本町は、山口県東南部、瀬戸内海3番目の大きさをもつ屋代島西部に位置し、昭和51年に開通した「大島大橋」により本州とつながっている。

町立の小中学校は小学校4校、中学校3校であるが、いずれも小規模校で読書を柱に子どもの生きる力を育成しようと、本事業に取り組んできた。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童数	学級数
1	大島町立三蒲小学校	47	6
2	大島町立屋代小学校	30	4
3	大島町立明新小学校	124	6
4	大島町立沖浦小学校	28	3
5	大島町立蒲野中学校	23	3
6	大島町立大島中学校	81	3
7	大島町立沖浦中学校	28	3

① 大島町立三蒲小学校

「読書を楽しむ子どもを目指して」のテーマで、全学年の朝の読書、高学年による低学年への読み聞かせ、週一回全校読書に取り組んだ。

読書環境の整備に努め、保護者に向けた啓発活動を月一回の割合で継続している。児童の貸出総数は、2年間で727冊から1,202冊に増加した。

② 大島町立屋代小学校

「出会いの場の設定を仕組む」をテーマに朝の読書の取り組みや全教員による読み聞かせを続けた。特に低学年では「読み聞かせ100冊」を目標にしていたが、読み聞かせた本は195冊となった。

また、上級生から下級生への「お話し宅急便」や絵本づくり、保育園訪問にも取り組むとともに、図書室の雰囲気づくり、本の紹介方法を工夫し、教科との関連を図った図書館

運営に努力した。学校便りにおいて「読書コーナー」を設け、読書活動情報の提供を続けている。

③ 大島町立明新小学校

「広げよう読書の輪と人の輪」をテーマに、週3回全校で朝の読書を実施した。その内、週2回は高学年児童が2名交替で1年生に読み聞かせをしている。

また、委員会による「お薦めの本コーナー」や「図書新聞」の発行を行った。校舎が2棟あることから学校図書館を2か所に設け、夏期休業中も平日はすべて学校図書館を開放した。PTA集会では、親子読書の励めに取り組んだ。読後の読書カードや読書記録をつける児童も増えた。

④ 大島町立沖浦小学校

「子どもたちに読書の楽しさを」ということをテーマに週2回「読書タイム」を設定した。

また、子ども読書まつりを行い、公立図書館長を招き読み聞かせを行うとともに、家族や友だちに向けた読書郵便、上級生から下級生へエプロンシアターも行った。

児童のカルチャー委員会では雨天の昼休みに読み聞かせを実施した。教科の発展としての読み物教材の開発にも取り組んだ。

⑤ 大島町立蒲野中学校

「豊かな心をはぐくむ読書活動の推進」をテーマに平成7年度から朝の読書に取り組み、現在では毎朝20分間行っている。本の紹介活動として、ブックトーク、ストーリーテリング、生徒同士の本の紹介、放送での広報活動などを行った。

平成6年から地域全体へ図書の貸出、図書館便りの配布、平成12年からはPTA図書を設け各家庭を巡回させ親子読書を進めている。敬老の日には高齢者に読書郵便も届けている。

なお、平成13年度に読書活動優秀実践校文部科学大臣賞を受賞している。

⑥ 大島町立大島中学校

「本との出会いを意図的に仕組む」をテーマに朝の読書や読書マラソンの実施、授業におけるアニメーションなどの読書指導、町立図書館との連携による総合的な学習の時間での利用指導に取り組んだ。読書ノートの指導では、2年連続で山口県優秀校賞を受賞している。

月ごとに図書室運営のテーマを決め、本の展示や紹介を委員会活動で取り組み、購入希望図書の集約や年間多読の生徒の表彰などを意欲的に行っている。また、町立図書館に全員が登録し利用方法、レファレンスサービスの学習をした。

さらに、畳敷きの第二図書室を設け読書環境の整備にも取り組んだ。

① 大島町立神浦中学校

「感動を共有することで知る読書の楽しさ」をテーマに、毎日の給食待ち時間を読書タイムにしている。個別の読書ファイルを持たせ意欲付けを図っている。また、町立図書館から2か月に一度生徒の希望テーマにより団体貸出を続けている。

さらに、家庭での親子共通の読書体験の充実を求め、家庭に本の回覧を開始した。国語科では、ブックトークや私の薦める一冊の本の紹介に取り組んでいる。学校便りでの啓発活動推進や、他教科での読書指導も意欲的に進めた。

(3) 協力機関等

① 大島町立大島図書館

日常の業務と主催行事を通して子どもたちの読書活動の推進に取り組んでいる。小学生対象では、館内見学、カウンター業務体験、紙芝居鑑賞などを、中学生には、教科や総合的な学習の時間での貸出、レファレンスサービスを行い、職場体験学習にも協力をしている。

図書館行事としては、エプロンシアターの会、おはなし会、図書館まつりを行っている。また、町内全保護者から求めた「親が子ども

にも薦める一冊の本」のアンケート中で、図書館にある本をリストアップし、展示紹介をした。各学校の求めに応じた団体貸出も、2か月に一度行っている。

本年度、すべての小中学校との連携を組み込んだ年間計画表を作成した。それにより、平素の読書活動や利用指導、出前読み聞かせなどが充実した。

② 保護者地域の取組

保護者や地域との連携は、基本的に各学校で取り組んだ。小学校では読み聞かせのボランティアを行う保護者も増えた。

全町的には「親が子どもに薦める一冊の本」の集約や配布の協力、町PTA研修会で「本を通してふれあう家族」をテーマに児童作家の講演や、家庭の親子読書体験を話し合った「読書フェスタin大島」に参加した。

③ 学校週5日制対応事業「読書のすすめの会」

町内の小学生40数名が参加している。その指導者は、学校の教員やボランティアの方々が、月2回の土曜日に協力している。

④ 児童クラブ（学童保育）における取組

放課後に、児童クラブの指導員が当番制で読み聞かせや本の貸し出しを行った。また、参観日には本の展示、親子読書の読書相談をするなど積極的に活動をしている。

⑤ 町青少年育成町民会議の協力

町青少年健全育成大会アピール文の中で読書の必要性を町民に訴えるとともに、子どもの読書活動推進法に基づいた記念イベントである「読書フェスタin大島」を財政的にバックアップした。

⑥ 町行政

町広報誌の紙面に、読書活動推進委員会の取組、関係機関の取組、各学校の取組、保護者の家庭での取組の記事を、1年半にわたり掲載し続けた。

また、町の教育方針の柱の一つとして読書活動を位置付けリードした。

2. 実践研究の概要

本事業の推進にかかわって、「大島町子どもの読書推進委員会」を教員・保護者・有識者・町教委の19名で立ち上げた。

その会の構成を、①読書指導部会、②読書啓発部会、③学校・公立図書館連携部会、④施設・設備検討部会の4部会構成とし、事務局を町教委とした。

活動方針を次の4項目とし、実践研究をした。

- ① 学校における読書活動の推進
- ② 家庭、地域を含めた啓発活動の推進
- ③ 公立図書館、学校図書館、関係団体との連携推進
- ④ 図書館運営の諸条件の整備・充実

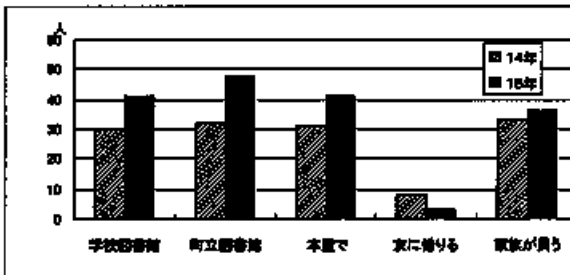
推進委員会を毎月開催し、4部会の情報交換や目標の進捗状況の確認、調査、委員の研修、学校と他機関の連絡調整等を行った。

3. 実践研究の内容及び成果

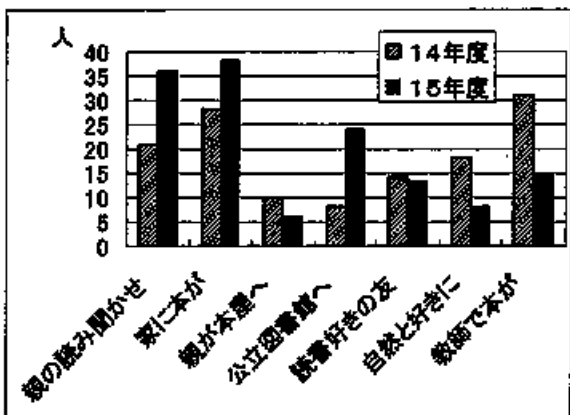
(1) 学校における読書活動について

上述のような取組の結果、子どもの読書への意欲・態度の変化が何点かみられた。

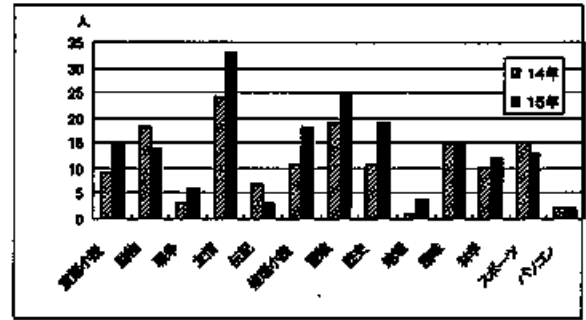
ア 子ども読書行動に変化が生まれた。



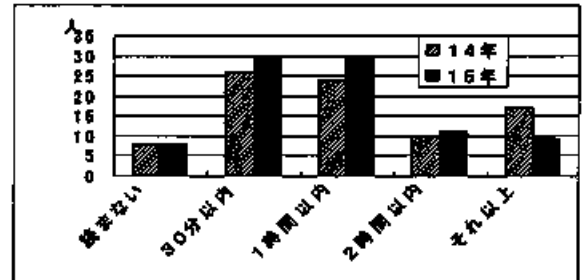
イ 子どもを取り巻く読書環境が変わってきた。



ウ 子どもが選択する本の内容が変わった。



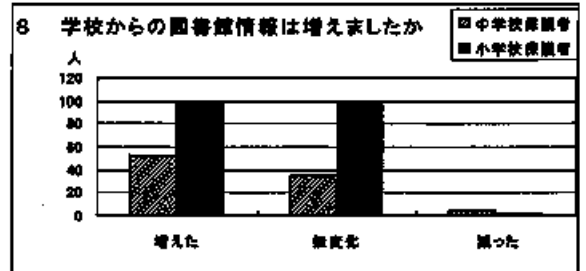
エ 子どもの読書時間が増加した。



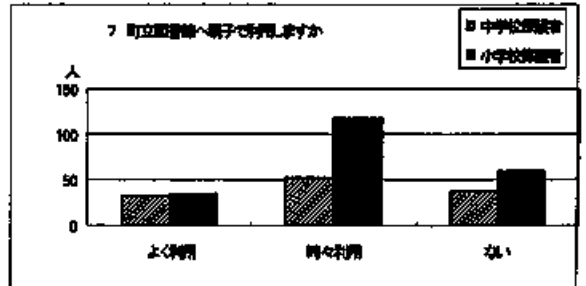
(2) 家庭、地域を含めた啓発活動について

各学校における学校便り、学級便り、図書館便り、町広報紙、読書の勧めリーフレット、PTA研修会など、様々な啓発活動を行った。

ア 保護者の読書情報への関心も増した。

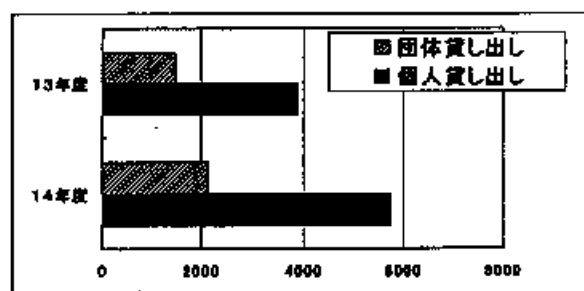


イ 親子の読書活動が前進した。



③ 公立図書館、学校図書館、関係団体との連携について

双方の連携強化により、小中学生の個人・団体の貸出冊数が大幅に増加した。



4. 今後の課題等

学校では、読書への意欲が平素の学習の態度の向上に波及した。公立図書館では、館内の態度や貸出冊数の向上と大きな成果を上げた。

町教委は、平成16年度における本事業推進の予算化を図ったが、この推進活動を定着させるため以下のような課題が挙げられる。

- ① 地域指定終了後の事業推進の組織化
- ② 読書活動推進リーダーの確保と育成
- ③ 読書ボランティア育成等の推進体制
- ④ 図書館相互のネットワーク化と施設充実

1 推進地域の概要

(1) 地域の概要

三加茂町は、人口約10,100人で町内には中学校が1校と小学校が4校ある。各校とも図書館整備されている。おはなしボランティアグループ「どんぐりの会」が活発に活動しており、各学校との連携がとれている。15年度からはブックスタートも実施している。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童生徒数	学級数
1	三加茂町立三庄小学校	198	6
2	三加茂町立西庄小学校	17	3
3	三加茂町立三加茂中学校	366	13

① 三加茂中学校

平成14年に移転新設された町立図書館が学校図書館と同じ場所にある。1階が町立図書館で2階が学校図書館となっており、お互いに連携を深めた活動を行っている。

② 三庄小学校

保護者の読み聞かせグループの活動が活発で児童に読み聞かせを行っている。町立図書館に近く利用も多い。

③ 西庄小学校

小規模校であるが、読書活動に関しては、学校としてまとまりがある活動ができており、町立図書館での団体貸出も多く利用している。

(3) 協力機関等

三加茂町立図書館は、学校図書館に多くの団体貸出をしており、総合的な学習の時間等の資料についても、蔵書数の少ない学校にとっては欠かせない協力機関となっている。

三加茂町読書振興協議会

2 実践研究の概要

(1) 朝の読書時間の充実

朝の読書を継続的に行うことにより本を読む楽しみを知ることができる児童生徒が増えた。中学校は、「みんなで・毎日・好きな本を・ただ読むだけ」を原則に、小学校では、適宜読み聞かせの日も設定して行ってきた。



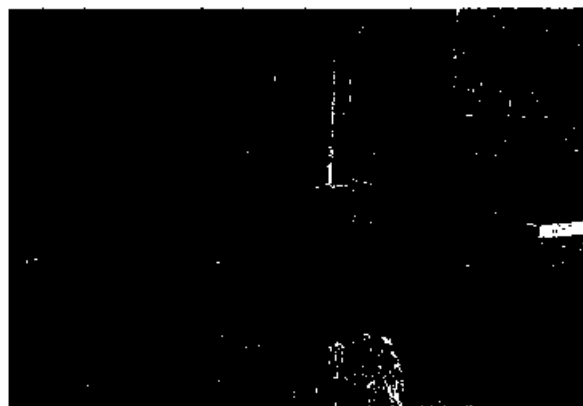
(2) 読書活動推進活動

図書館祭り、町立図書館の見学、読書アンケート等様々な読書活動推進のための活動を行っている。

定期的に図書館だよりを発行し、新刊図書を紹介や読書案内、情報提供を行う。

(3) 読み聞かせ、おはなし会

地域のボランティアグループの協力により行っている。更に充実した活動になるよう環境を整える必要を考えている。



(4) 町立図書館との連携

調べ学習やその他の活動に町立図書館を利用し、連携している。総合的な学習の時間などには、学校図書館にはない本を利用した学習が行われる。

(5) 家庭読書活動の推進

児童生徒の保護者が学校でボランティアの読み聞かせをするなど、家庭で本のことを話す機会が増えた。学校図書館だよりを出すことで、家庭へ子どもたちが好んで読んでいる本等が伝わり、家庭読書活動が活性化されている。

(6) 学校図書館、町立図書館の長期休業中の積極的開放を行う。

3 実践研究の内容及び成果

(1) 具体的な取組の留意点

① 朝の読書は各学校すべて実施している。朝の読書にともない、学級文庫の充実を図ったり生徒の興味関心に応じた図書の購入を行ったり図書館の環境整備に取り組んでいる。

② 三加茂中学校では夏休みに図書委員を中心に本に関するアンケートを実施し、その結果を大判の画用紙にまとめて生徒廊下に掲示した。生徒の関心意欲が高まり、立ち止まって見ている。

③ 三庄小学校では、保護者で結成しているボランティアグループによる読み聞かせを実施している。最初は低学年と中学年の実施だった高学年にも実施した。自分で読むだけでなく、先生が読むのでもなく、保護者が読み聞かせることにより、家庭で読んでもらっている感じがして楽しく喜んで読み聞かせを聞くことができるようになった。西庄小学校では、児童と児童の保護者を対象におはなしボランティアグループの「どんぐりの会」に読み聞かせ会を開催してもらった。子どもたちも食い入るように聞き入っていた。三加茂中学校では、おはなしボランティアグループの代表者を招き、生徒に読書に関する講演会を2回

開催し、好評であった。

④ 町立図書館では、子どもたちに手づくりの絵本を作ってもらい図書館に展示した。中学校の学校図書館の一階が町立図書館になっていることもあり昼休みや放課後や総合学習に活用されている。小学校も少し距離はあるが総合的な学習の時間や団体貸出で利用している。授業で利用することで親しみ、休日に個人や家族で町立図書館の利用が多くなった。

⑤ 三加茂町教育委員会のブックスタートに伴い、町立図書館に赤ちゃん本のコーナーを作った。0歳の時から本に親しむことの大切さが図書館を利用する人に伝わりつつある。

(2) 実践研究の成果

① アンケートより（朝の読書）

※朝の読書によって、生活に落ち着きが見られ、学習面においても集中力が増し、自ら学ぶ姿が見られるようになった。

・「1学期まではあまり本を読まなかったけれど、朝読の時間のおかげでよく本を読んだり買ったりしている。本を読むようになってからいろいろなことを知ることが出来る。朝読の時間はかなりサイコーです。」

（中学1年女子）

・「私は朝読が始まるまでは、本を読むことが面倒で、大嫌いでした。けれど朝の読書の時間が始まって、最初はいやだったけれど、日を重ねて読んでいくうちにとても本を読むことが好きになりました。」

（中学2年女子）

・「朝の読書の時間があつたから本を読むようになった。」

（中学2年男子）

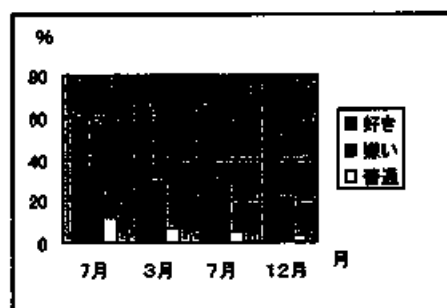
・「朝の読書があつていいと思います。部活などで読書する時間がないので朝なら集中して読めます。それに朝読でいろいろ読むともっと読んでみようと思えてきます。」

（中学2年男子）

② 各校が実施したアンケートの結果より、一部抜粋したものが次のグラフである。研究成

果が如実に表れるものもあった。

※読書が好きですか？（三加茂中学校調べ）



このグラフからも分かるように読書が好きという生徒が徐々に増加し、嫌いな生徒が減少している。普通と答えていた曖昧な生徒も減少しており、何よりの効果である。

※朝の読み聞かせが好きですか？

（三庄小学校調べ）

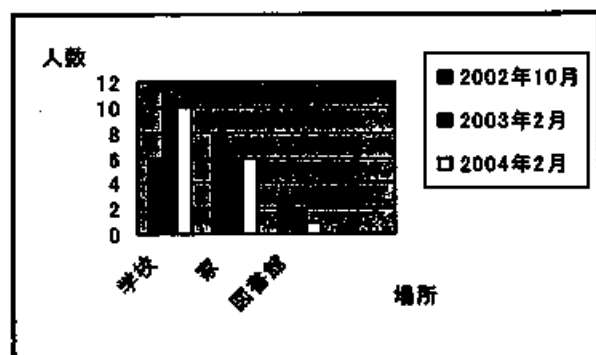


（平成14年度）

（平成15年度）

地域・家庭・学校がボランティア活動を通じて連携され、子どもたちの本に対する興味が増している。また、保護者による読み聞かせによって保護者の方にも本を読む楽しさや大切さが伝わり、家庭で本の話親子でするようになった。

※本はどこで読みますか？（西庄小学校調べ）



左下のグラフから、学校で本を読む割合が大きく増加していることが分かる。それに比べ家庭や図書館で本を読む児童が、やや減っているが、町立図書館で借りて学校で読むという生活が、定着してきたと言える。

- ③ 今年度から、三加茂町が始めたブックスタートの取組は、町立図書館と連携することで効果を上げた。この活動は、来館する子どもたちや地域の人たちへの啓発となり、赤ちゃんの本のコーナーで立ち止まる姿も見られた。生まれたときから生涯を通じての読書の大切さを伝えることができた。

4. 今後の課題等

(1) 読書活動の更なる推進

- ・朝の読書の効果は大きいですが、読書をまだ好きになれない子どもたちのためにも、朝の読書や全校一斉読書を継続させる。
- ・各学校における読書活動行事、図書委員会の活動を更に充実させる。
- ・学校教職員の読書活動や、図書館の活用方法などに関する研修を行う。

(2) 学校・地域・図書館の連携の強化

- ・保護者や、地域ボランティアグループとの連携の方法を今の読み聞かせ以外にも工夫し、様々なかたちで連携する。

(3) 学校、町立図書館の充実

- ・蔵書の量的、質的な充実に努める。
- ・本の紹介、ポスターの掲示など、読書に対する関心が高まる環境整備に努める。
- ・データベース化された図書を更に有効活用できるよう工夫する。

(4) 家庭読書への移行

- ・学校で、時間を設けて本を読んだり、調べ学習の習慣化は図れつつあるが、さらに読書を家庭生活の中に位置付け、生涯学習の視点からの読書習慣を身に付けるような取組を、地域全体で進めていきたい。

福岡県教育委員会

推進地域名	福岡県春日市
-------	--------

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

本市は、福岡都市圏の中央部に位置し、福岡市の南側に隣接している。福岡県内で一番面積の小さな市(14.15km²)であるが、福岡都市圏の住宅地としての性格が強く、現在は108,649人(H15・5・1)で、県下市町村で5番目に人口が多い市である。また、西日本において、2番目に人口密度が高い市である。現在、市内における学校数は、小学校11校、中学校6校、計17校である。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童	学級数
1	春日市立日の出小学校	362	12
2	春日市立春日北小学校	580	20
3	春日市立須玖小学校	603	20
4	春日市立春日西小学校	1,212	37

① 春日市立日の出小学校

「地域を愛し、たくましく生きる子どもの育成」を教育目標として、市内で最も児童数の少ない学校で、1自治区1小学校の利点を生かした地域コミュニティづくりを推進している。

② 春日市立春日北小学校

「生きる力にあふれ、夢に向かってチャレンジし続ける子どもを育てる」を教育目標として、生徒指導の機能を生かした教育活動を展開している。

③ 春日市立須玖小学校

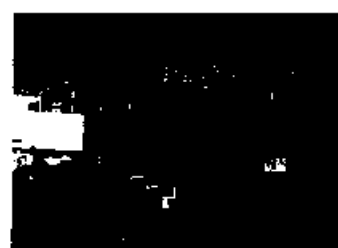
「思いやりの心を持ち、物事を進んで行う子どもの育成」を教育目標として、道徳教育を中心とした心の教育を推進している。

④ 春日市立春日西小学校

「地域のよさを学び、文化創造の担い手として生きる力を身につけた子どもを育てる」ことを教育目標として、県下で最も児童数の多い学校であるという実態を踏まえて、地域との連携・協力を推進している。

(3) 春日市民図書館の概要

平成7年4月、複合文化施設「春日市ふれあい文化センター」が設立された。



〈ふれあい文化センター〉

その中核となる図書館部門として、春日市民図書館が開館した。旧図書室蔵書を基礎として、開館時は、蔵書数約15万冊、雑誌タイトル数約400タイトル、視聴覚資料約5000点でスタートし、その後、年々所蔵資料も質・量ともに充実し(現在では約26万冊の蔵書を有する)、利用者も増加している。

2. 実践研究の概要

読書活動推進の取組を通して、児童の読書力の高まりと読書量の増加に関する調査研究を行うとともに、読書活動が児童に与える影響について明らかにする。

3. 実践研究の内容及び成果

(1) 教育課程における読書活動の設定

① 朝の読書

毎朝15分間、全学年の児童を対象として、児童が興味・関心をも



〈朝の読書を行う児童〉

つ本を選んで、朝の読書を行う。

② 本の読み聞かせ

毎月1回、朝の読書の時間や昼休みの時間を活用して、全学級にお



〈中学生による読み聞かせ〉

いて、PTA役員や保護者をはじめとするはボランティアの方々、近隣の中学生、高学年児童による読み聞かせを行う。

(2) 児童会活動における読書活動の推進

① 日常的な取組

図書委員会によって、各クラスでなるべく多くの読書を行うように呼びかける



〈新刊圖書の紹介〉

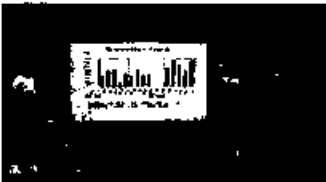
〔「100冊読書」の取組など〕。また、校内のテレビ放送や図書室の各コーナーを利用して、新刊図書やおすすめ本の紹介を行う。さらに、図書室だよりの配布や図書室の環境づくりを行う。

② 読書月間における取組

高学年児童による読み聞かせの実施や、本に関するクイズ（間違い探し・クロスワードパズル等）の作成、本のしおり作成、図書新聞の作成などを行う。

③ 児童集会における取組

図書委員会が、図書館利用の状況や貸し出しベストテンなどの発表を行う。また、図書委員会が中心となって、10～15



〈図書委員会による発表〉



〈異学年交流〉

人程度の縦割りグループをつくらせ、高学年児童による読み聞かせを実施する異年齢交流を行う。

(3) 校務分掌における組織の設置

教務主任、学校司書、司書教諭、各学年の教職員1名等で構成する読書活動推進委員会を設置し、毎学期1～2回程度開催している。具体的な協議内容は、図書室活用の年間計画の作成、児童への読書活動アンケートの作成、地域のボランティアの募集、図書購入リストの作成など読書活動の計画・実践・評価であ

る。

(3) 春日市民図書館との連携

① 児童への本の貸し出し

毎週1回、移動図書館たんぼぼ号を活用して、児童のリクエスト圖書の貸し出しを行う。



〈たんぼぼ号〉

② 学校への団体貸し出し

学年ごとの年間計画を市民図書館へ提出し、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間における学習内容に沿った本をまとめて借用する。また、大型絵本、パネルシアター、エプロンシアター、てぶくろ人形、布絵本など借用する。

(4) 家庭や地域との連携

① 読み聞かせボランティアの活動

保護者や地域住民に対して、読み聞かせボランティアへの参加を広く募集する。



〈読み聞かせボランティア〉

また、ボラン

ティアを各学級に割り当て、年間の活動計画を立てて読み聞かせを実践する。読み聞かせ実施後には、記録簿へ記載を行い、お互いの情報交換を行う。さらに、読み聞かせの学習会として、読み聞かせの様子をお互いに参観したり、読み聞かせ方法や本の選択方法について協議したりする。

② 図書室の地域開放

毎週1回、放課後1時間程度、地域住民に図書室を開放する。ボランティアが推進員として運営し、幼児・小中学生・保護者をはじめ地域住民へ本の貸し出しを行う。また、ボ

ランティアが、幼児や小学生に対して読み聞かせを行う。

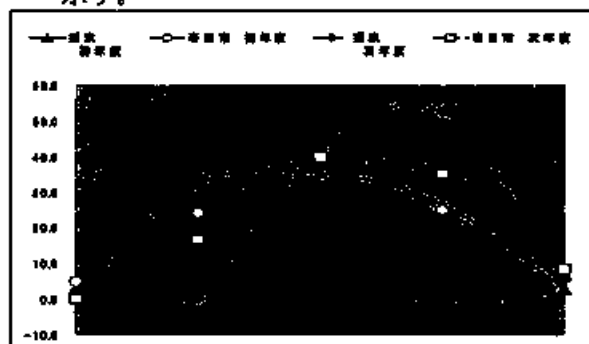


〈ボランティアの読み聞かせ〉

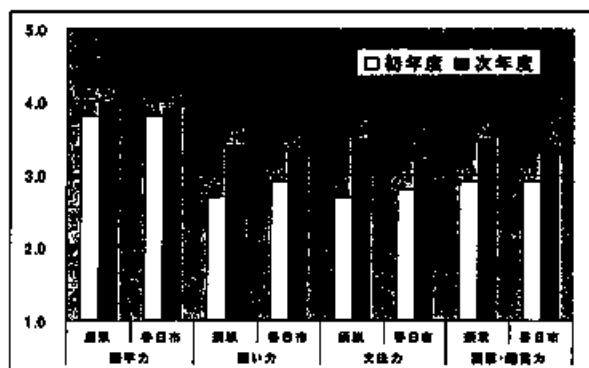
〈実践研究の成果〉

(1) 読書力の高まり

読書力の高まりについて、初年度（H14）に1・3・5年生を対象に、次年度（H15）に2・4・6年生を対象に調査を行った。その結果、すべての協力校で、2・4・6年のいずれの学年においても読書力の伸びが見られた。特に、グラフ1が示すように、小学校4年生の読書力の伸びが顕著だった。グラフ2は、読書力の下位能力である読字力、語彙力、文法力、読解・鑑賞力の4項目における伸びを示す。



〈グラフ1 読書力の高まり（須玖小）〉

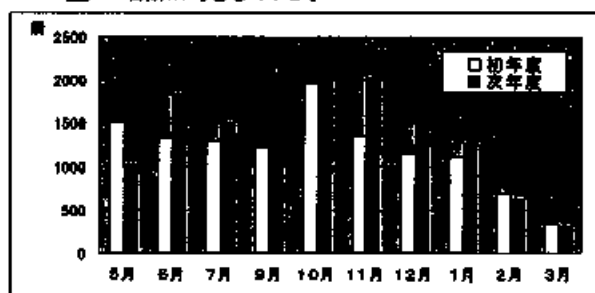


〈グラフ2 下位能力の高まり（須玖小）〉

(2) 読書量の増加

読書量の増加について、全学年の児童を対象として、初年度（H14）と次年度（H15）の図書室の本の貸し出し冊数を月別に調査し

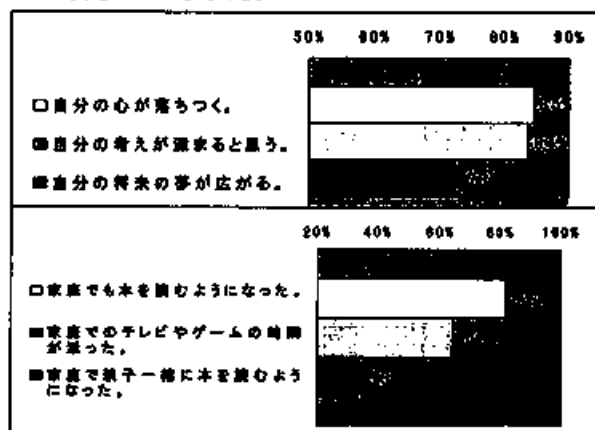
た。その結果、グラフ3が示すように、月別にみれば若干の増減がみられるものの、すべての協力校で年間を通して1.2～1.8倍の読書量の増加が見られる。



〈グラフ3 読書量の増加（須玖小）〉

(3) その他

読書活動の影響について、全学年を対象にして、児童へのアンケートを実施した。その結果、グラフ4が示すように、児童は読書が自分の役に立っていると感じていることや、家庭における過ごし方が変容していることが明らかになった。



〈グラフ4 児童アンケート結果（日の出小）〉

4. 今後の課題等

- ・読書活動を更に充実させるために、年間計画の内容を充実させること。
- ・市民図書館を活用する児童が比較的小さいため、活用を促進すること。
- ・家庭での親子読書が少ないことから、保護者への働きかけを行うこと。
- ・読書量を更に増やすために、児童にとって魅力のある本の選定・購入を行うこと。
- ・司書教諭と学校司書の役割の明確化、連携の強化を行うこと。

熊本県教育委員会

推進地域名	大津町
-------	-----

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

熊本県菊池郡大津町は、熊本市の北東部に位置し、阿蘇への入り口の宿場町として発展してきた町である。ツツジと唐芋を特色に本田技研の進出で自動車関連の町としても発展している。

読書活動推進地域として大津中学校区にある大津幼稚園、陣内幼稚園、大津小学校、大津南小学校、大津中学校の2園・3校を推進協力校に指定した。

読書に関する活動の現状としては、町内の室小学校が平成14年度、大津中学校が平成15年度「読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を「読書の日」に受賞した。町全体としては、小学校の段階から、読書グループ等による読み聞かせやファミリー読書等の取組も盛んに行われており、本に親しむ子どもたちが育っている。特に、今回の協力校である2園・3校においては、朝の一斉読書や保護者や読書ボランティアによる読み聞かせ等が活発に行われている。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	大津町立大津小学校	839	28
2	大津町立大津南小学校	269	11
3	大津町立大津中学校	534	14
4	大津町立大津幼稚園	175	6
5	大津町立陣内幼稚園	69	3

① 大津小学校

蔵書数8,941冊・司書教諭1名・司書補1名

② 大津南小学校

蔵書数5,606冊・図書主任・司書補1名

③ 大津中学校

蔵書数15,622冊・司書教諭1名・司書1名

(3) 協力機関等

・おおづ図書館・県立図書館・町内司書部会

2. 実践研究の概要

(1) 朝の読書活動の推進と充実

- ・朝の読書活動年間計画
- ・朝の読書活動に関する校内研修の実施
- ・読書ボランティア、担任、副担任による読み聞かせ、PTA父親委員会による読み聞かせ
- ・「こども読書の日」に担任及び副担任が読み聞かせ
- ・おおづ図書館及び県立図書館子ども文庫の利用

(2) 読書活動の充実

- ① 授業や教育活動における読書ボランティアやPTAの導入による読み聞かせの実施
 - ② 読書時間の確保
 - ・国語の時間に「図書の時間」を実施
 - ・2,3年生の選択国語に読書コース開設
 - ③ 児童生徒図書委員活動の充実
 - ・全校集会で読書発表会
 - ・校内放送や学級で読書案内
 - ・学級文庫の運営
- #### (3) 調べ学習の充実
- ・調べ学習年間計画の作成
 - ・担任及び教科担任と司書教諭、図書館主任、司書との連携
 - ・公共図書館や町内司書部会との連携

(4) 幼・学校・公共図書館・家庭等との連携

- ・読書活動推進発表会への参加
- ・読書ボランティアやPTAとの連携や交流会
- ・幼稚園訪問及び交流会、家庭読書の実施
- ・PTA文庫の設置及び活用
- ・おおづ図書館移動図書館の利用

- ・保護者による図書の貸出

- ・学校図書館オリエンテーションへの参加

- ・家庭文庫との連携

(5) 読書環境の整備

- ・実態調査と分析による図書館資料等の点検
- ・図書館の整備

3. 実践研究の内容及び成果

(1) 朝の読書について

① 校内研修会で年間を通して「みんなでやる・毎日やる・好きな本でよい・ただ読むだけ」の朝の読書4原則が実現出来るようにはどうしたらいいかを、十分話し合った。その結果次の3点を実践事項とした。

- ・教室で、まず教員自身が子どもたちに読書する姿を見せともに読書をする。
- ・県立図書館やおおづ図書館の本を利用した学級文庫を設置し、子どもたちの身近に本を置き読書意欲の喚起を図る。
- ・図書委員や学級担任が、常に読書が学級の話題にのぼるように配慮する。

(2) 読書活動の充実について

① 読書ボランティアや保護者の導入

- ア 幼稚園では、降園時や毎週水曜日に保護者による読み聞かせを実施。
- イ 学校では、「朝の読書の時間」に年間を通じ週に1、2回全学年で読み聞かせを実施。
- ウ 中学校では、
 - ・6月と10月の読書月間中の1週間全学級で読書ボランティアやPTA父親委員による読み聞かせやブックトークを実施。
 - ・年間を通して毎週水曜日の給食時間に読書ボランティアによる朗読を実施。
 - ・国語の研究授業に読書ボランティアがゲストティチャーとして参加。

(3) 読書時間の確保

- ① 各小・中学校においては、「朝の読書」の時間を年間を通して10分ないし15分確保。
- ② 各小学校では、国語の時間を「図書の時間」とし司書や担任による読み聞かせを実施。
- ③ 大津南小学校では、朝の読書の時間に、高学年が低学年に読み聞かせを実施。
- ④ 中学校では、総合的な時間に「朝の読書」や「ブラックシアターコース」を解したり、選択国語に読書コースを開設したりして、全教職員の共通理解のもと読書する時間と場所の確保を行う。

(4) 児童・生徒図書委員活動の充実

- ・自主的な図書の整理や選書活動を行う。
- ・給食時間に校内放送で朗読や読書クイズ読書案内などを行う。
- ・学級文庫の運営を行う。
- ・各小学校では、全校集会で読書発表会を行う。
- ・陣内幼稚園と大津南小学校、大津中学校と大津幼稚園との読書交流会で定期的に読み聞かせや紙芝居を行う。

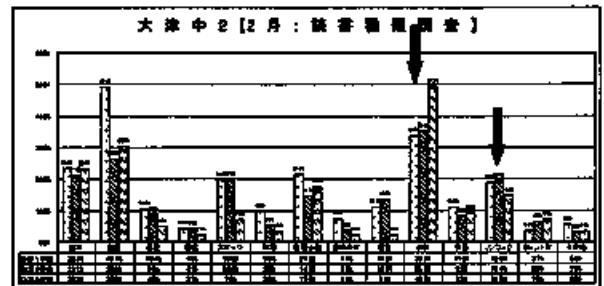
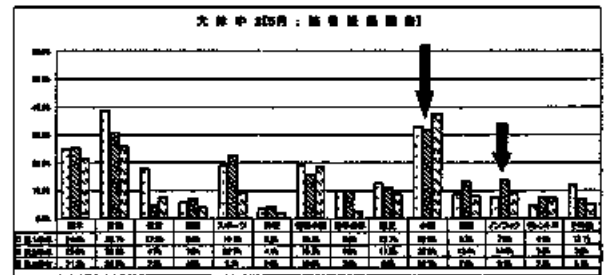
(5) 調べ学習の充実

- ① 各幼稚園においては、園児の「これなあに？」を大切に絵本や図鑑の整備に努める。
- ② 各小・中学校で調べ学習年間計画を作成
- ③ 担任や教科担任と司書及び司書教諭、図書主任との十分な打ち合わせを大切にしながら公共図書館や町内司書部会との連携を深め、必要で役に立つ資料提供を行う。
- ④ 教科担任等は、授業に必要な資料を事前にチェックし、児童・生徒がよりよい情報に接しやすいように資料提示の工夫を司書とともにを行う。

(6) 幼・学校・公共図書館・家庭等との連携

- ① 読書活動推進会議等による協力体制づくり。
- ② 読書ボランティアや各学校の図書館関係者との合同研修会の実施。
 - ・元RKKアナウンサーの斉藤誠一氏を講師に、発音や朗読の合同研修会を行い、よりよい読み聞かせについて研修を行う。
 - ・各園・各小・中学校では、読書ボランティアとの交流会を学期に1回ほど行い、読書活動に対する共通理解を図る。
 - ・各学校での読書ボランティアとの読み聞かせ反省会では、読み聞かせ用の選書や児童生徒についての情報交換を行う。
- ③ 家庭読書の実施。
 - ・大津南小学校においては、年に4回家庭読書週間を設け、家庭読書カードを作成し、そのカードに読んだ本や感想を家族で書き込んでもらい、家庭読書の推進を行っている。

- ・大津中学校においては、年2回家庭読書を実施している。
- ・大津幼稚園においては、毎週水曜日に保護者の図書係による絵本の貸出を行い、親子で選書する喜びから家庭読書へと展開している。
- ・陣内幼稚園では、おおづ図書館の移動図書館車による貸出事務を保護者が手伝っている。図書館への親しみと選書する喜びから、本への関心も高まり、家庭読書への広まりが出てきつつある。



④ 読書環境の整備

- ・各小・中学校においては、読書ボランティアや各園、学校担当者の交流会における情報交換で得たことをもとに、個性豊かな工夫により、親しみやすい読書案内板の作成や子どもがゆっくりくつろげる空間作り及び調べ学習コーナーの設置などを図った。
- ・小・中学校においては、季節に応じた掲示物の作成や、本のテーマ展示を行っている。
- ・大津中学校においては、公共図書館との連携によるブックトラックを活用した調べ学習用図書の出前活用を実施している。

⑤ 成果

- ・全国平均読書冊数より、毎月小学校で5冊中学校で3.5冊多く読んでいる。小中学校とも朝読書の肯定派が圧倒的に多い。本を集中して読むことができ、落ち着いた生活態度や授業態度の児童生徒が多くなった。
- ・本への関心が高まった。大津中学校の場合を例にあげると、1日平均の入館者数が平成12年度は全校生の約30%だったが、平成15年度は約55%に増加している。
- ・読書の質的向上が見られるようになった。5月と10月の読書調査によると、読む本の種類として、特に中学校においては、小説やノンフィクション等が大きく増加している

- ・選書できる場を広げている。学校図書館(約95%)、町図書館(約30%)、書店(約60%)、友達(10%)と借りたり購入したりして読んでいる

- ・読書活動推進の連携が更に強化された。

大津町には家庭文庫や読書グループがある。それを土台としながら、校区を越えた交流が生まれ、人のネットワークが広がってきた。

各組織、施設等との連携により、図書館経営や読書実態等の情報交換もスムーズに行われ、各学校等での環境整備や読書推進の研修、共通理解に役立てることができた。

調べ学習に必要な資料の情報交換や相互貸借がより円滑に行われるようになったため、よい資料を揃えて提供でき、児童・生徒の学習を的確なものにすることができた。

4. 今後の課題等

- ① 教職員が一人一人の子どもたちの個性を知り、一人一人の心を動かし、感性を育てるような本を手渡す人になるよう努力すること。
- ② 読書活動に対する教職員の共通理解の徹底
- ③ 担任や教科担任と司書及び司書教諭等との連携による学び方を学ぶ時間の設定。
- ④ 各図書館等との更なる連携の強化。
- ⑤ 今後施設面でも学校図書館を情報総合センターとして整備していくことが大切。

熊本県教育委員会

推進地域名	芦北町
-------	-----

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

芦北町は、熊本県の南部に位置し、面積200.71平方キロメートル、人口約17,000人、南部に日本三大急流の球磨川、西部に天草諸島を望む芦北海岸は八代海（不知火海）に面し、連なる山々の間を幾筋もの河川が流れ、豊かな水と緑、そして美しい海が自然の幸とやすらぎを与えてくれている。また、うたせ網による漁業、柑橘類の栽培などが盛んで、「観光うたせ船」や「デコボン」などは全国ブランドである。

現在、本町には、小学校12校、中学校4校、県立高等学校、養護学校があるが、高齢化・少子化が進み毎年児童生徒の減少する中、学校再編に取り組んでいる。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	芦北町立佐敷小学校	338	14
2	芦北町立吉尾中学校	27	3

① 佐敷小学校

本町は、国際交流の盛んな町で、佐敷小学校は、本町が取り組む「カンボジアに学校を贈る運動」の募金活動の中で、子どもたちの「自分たちにもできる国際貢献を」を町民に呼びかけ、この学校を贈る運動の原点となる活動を行い、昨年の3月には、「にしぎん国際財団アジア貢献賞」を受賞することができた。

② 吉尾中学校

山間部にある一番規模の小さい中学校で、ホタルの飼育・放流等の環境学習に取り組み、「肥後の水資源愛護賞」を受賞するなど、地域の特色を生かした活動を展開しているほか、少人数ながら部活動等にも活躍を見せている。平成16年度には一番大きい中学校と統合する。

(3) 協力機関等

・芦北町立図書館

・芦北町立社会教育センター

・芦北町立中央公民館

2. 実践研究の概要

生きる力をはぐくむ読書活動推進事業（読書活動推進地域事業）実施への取組について、読書の持つ計り知れない価値を再認識する中、児童生徒の読書活動に関し、学校図書館を含めた学校における学習活動、公共図書館の活用、家庭での働きかけなどを相互に連携させながら学校・家庭・地域社会が一体となった効果的な取組方法について実践的な研究を行い、生きる力をはぐくむ読書活動の一層の推進に資することを方針とする。

計画については、子どもが自主的に読書活動ができるよう、環境の整備を行う計画を広範囲の中で推進するために、読書がのびのびとできる環境づくり、子どもたちが進んで本を読みやすい環境づくり、読書しようという運動の推進に関する基本的な計画で基本計画策定の根拠である「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、施策の総合的かつ計画的な推進を図る。

3. 実践研究の内容及び成果

(1) 授業における取組

ア <佐敷小>一国語科における読書活動を取り入れた授業実践

各学年2単元ずつ登場する読書に関する単元の進め方を研究し、児童の読書への興味・関心を深め、読書活動が日常生活へも広がっていくことを期待して以下のような実践をしている。

一学期の読書に関する単元

学年	内 容	活 動 目 標
1年	こんな本みつけたよ	楽しんで読書をしようとする態度の育成
2年	好きなお話を読もう	
3年	集まれ、世界のお話	幅広く読書しようとする態度の育成
4年	本の世界を広げよう	
5年	読書の楽しさを伝え合おう	読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度の育成
6年	作品と出会う、作者と出会う	

(7) 第1・2学年

- a 単元で必要とされる本を学校図書館で準備。
- b 学校図書館の使い方や本の並べ方についての指導。
- c 読書発表会や友だちへの紹介文による感想交流。

(8) 第3・4学年

- a 確保できない図書について町立図書館から借り入れ。
- b 目的の本の探し方についての指導。
- c 友達に紹介するためのおびやポスターづくり。

(9) 第5・6学年

- a 目的にあった本を選ぶ際のポイントの指導。
- b 児童が意欲を持って読むための学習シートの工夫。
- c 読書発表会や展示物発表による感想交流。



イ <吉尾中>—主体的に学ぶ力の育成

(7) 各教科や総合的な学習の時間における「調べ学習」「問題解決学習」の工夫

調べたい内容を追究する学習とともに、調べ方を学ぶ学習として位置付けた。特に3年生においては、町立図書館司書を招き、課題設定の仕方や図書館を使った学習の仕方について話をしてもらった。



(1) 「読み聞かせ」を取り入れた授業の実施

古尾保育園の協力

選択国語や家庭科の授業では、保育園児への「読み聞かせ」を実施した。(思いやりの心)



(2) 「朝の読書」の推進

ア <佐敷小>—「朝の読書」の原則を確認しながら、次の点に気を付けている。

(7) 前日に読む本を決めておき、「朝の読書」では、時間いっぱい読む。(児童)

(8) 学級文庫に読みたいと思う本があるよう配慮する。(教師)

(9) 国語科等の授業で紹介した本を学級文庫に置いておく。(教師)

イ <吉尾中>—「朝の読書」や「読書週間」の実施

1年生は毎日、2年生は新聞、本いずれかについて毎日、3年生は読書週間の際に「朝の読書」を実施した。「朝の読書4原則」に近いかたちで行っている。(主体的に学ぶ)



(3) 町立図書館との連携

ア <佐敷小>—町立図書館との連携

(7) 団体借入・1学級に30冊(朝の読書に活用)

(8) 授業での連携・国語科や総合的な学習の時間、理科、社会の「調べ学習」等



(例) 学校図書館運営の助言・学校図書館リニューアルに向けて

イ <吉尾中>—町立図書館と連携した資料の充実

各教科における「調べ学習」を一覧表にまとめ、年間計画表を作成した。それをもとに、町立図書館から借りたり、新たに購入したりした。
(主体的に学ぶ)

(4) 学校図書館の整備及び児童会・生徒会・図書委員会の活動

ア <佐敷小>—環境整備部では、子どもたちが「本を借りたくなる学校図書館」「調べ学習がスムーズにできる学校図書館」を目指し、以下のような取組をした。

① 購入本の選定

② 学校図書館のリニューアル

(7) 学校図書館を区分けする

- ・読み物コーナー (畳じき)
- ・調べ学習コーナー

(8) 蔵書を分類しなおし利用しやすいよう配慮

(9) 学校図書館全体を明るく

イ <吉尾中>学校図書館における資料の整備

① 新聞や中学生新聞は、廊下におき、いつでも見られるようにした。パンフレットは内容ごとに分類し、図書館においた。百科事典はポプラディアを購入し、調べたいことの概要を知ること役にたつた。(主体的に学ぶ)

② 生徒会文化部・執行部の活動

生徒文化部は、「図書だより」の発行、「読書週間」の企画、運営などを行った。執行部は、「朝のさわやかタイム」を利用して、全校生徒に読み聞かせを行った。また、公民館の朗読教室の講師を招いて、朗読の指導を受けたことで、いろいろな場面で発表する生徒もいた。

(思いやりの心)



(5) PTA・保護者・地域との連携

ア <佐敷小>—PTAとの連携

・母親部及び図書館ボランティア (読み聞かせ) の活動

・「佐小おやじの会」の活動・学級の本棚づくり

イ <吉尾中>



(7) 地域との連携 読み聞かせボランティアの協力

八代市の「小羊文庫」にお願いしておはなし会を開いていただいた。(思いやりの心)

(8) 保護者との連携 家庭との連携

保護者、職員に向けて、「読書だより」を発行した。(思いやりの心)

(9) 吉尾中学校PTAの取組

子育てについて語り合おうということで発足した「なんさまかたろう会」を母体として、PTAとしての読書活動推進を行った。保護者に対するアンケート調査、読み聞かせの講演会、親子40人ほど集まった「親子ふれあい読書」などを行った。そして、それらの活動をもとに、「親子読書」を計画した。絵本でもいいということ呼びかけたため、本を読むことについて、ほとんどの家庭で実施できた。



(6) その他の取組

ア <佐敷小>-職員組織「資料部」の取組

資料部では、本校の読書活動を取り巻く実態を明確にし、その問題点を探り、その改善へ向けて児童・保護者・教師へのアンケートを実施・分析し、各専門部の研究に生かしていった。

イ <吉尾中>-読書にもとづいた語り合いの重視 町立図書館との連携

「朝の読書4原則」が生かされるためには、語り合いが重要となる。心のふれあいを大切に、生徒、職員、保護者が互いに語り合える雰囲気づくりに努力した。(思いやりの心)

(7) 研究の成果

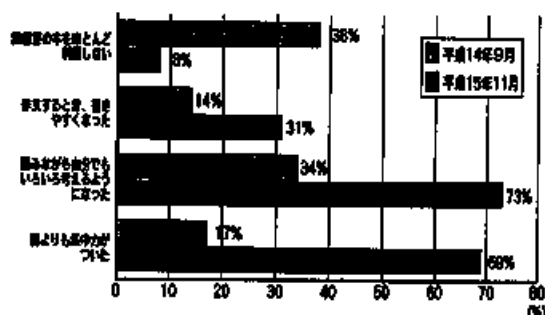
ア <佐敷小>

- (7) 子どもの実態をとらえ、指導計画の工夫をすることにより、これまで関心のなかった分野へも幅が広がった。
- (8) 「調べ学習」の際、自分の探している本が見付けやすくなり、学校図書館でまとめる活動も行えるようになった。
- (9) 夏休みの職員作業で学校図書館を整備したことで、職員一人一人が本校の学校図書館の現状を把握でき、自分の授業に生かすやすくなった。

イ <吉尾中>

- (7) 幅広い資料を使って学習を行おうとする態度を育てることができつつある。
- (8) 社会的な内容に興味を持ち、視野を広げようとする場面が増えてきた。
- (9) 「朝の読書」の実施により、読書に慣れ親しむ生徒が増えた。
- (10) 学校全体が、互いに認め合う雰囲気になりつつあり、和やかになった。

読書アンケート



4. 今後の課題等

ア <佐敷小>

- (7) 子どもたちの読書意欲は高まってきているが、一人一人の読書の質が向上していくような支援が十分とは言えなかったので、今後の課題としたい。
- (8) 「調べ学習」の場として学校図書館が機能し始めたので、今後は、「調べ学習」の進め方、本の活用法、目的にあったまとめ方等、学習内容が充実していくような方向を目指したい。
- (9) 学級担任を兼ねた教師だけでは図書館運営には限界があるので、専門の司書が配置できれば、図書環境面だけでなく、児童の読書推進へ大きく働きかけることができると思う。

イ <吉尾中>

- (7) 「調べ学習」「問題解決学習」の進め方について、更に研究を深める必要がある。
- (8) 教科、道徳、学活などの授業の中で、本を生かしていくための手だてを探りたい。
- (9) 学校図書館が十分に機能するためには、専任の司書がいることが望まれる。
- (10) 読書に慣れ親しむには、幼いときからの環境が重要である。いっそうの幼、保、小、中の連携、家庭や地域との連携が重要である。

鹿児島県教育委員会

推進地域名	始良町
-------	-----

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

始良町では、特色ある学校・特色ある教育の推進のために、各学校が「一校一自慢」に取り組んでいる。とりわけ、読書を中心に据えた学校が多く、読書による心豊かな児童生徒の育成を目指している。学校での読書活動を広げ、家庭地域での読書活動をとおして人と人との交流を広め、思いやりのある町づくりを推進している。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	帖佐小学校	386	13
2	北山小学校	47	5
3	西始良小学校	388	13
4	帖佐中学校	729	20

① 帖佐小学校

年3回の読書旬間や毎週1回の読書タイムを設定するとともに、PTAのお話会や教職員による読み聞かせ等の活動が活発に行われている。

② 北山小学校

子どもが本に親しむ学校図書館運営を主軸に学校・家庭・地域が連携した読書活動を推進している。

③ 西始良小学校

全校読書タイムを位置付け、計画的・継続的に取り組んでいる。保護者や地域の読み聞かせボランティアと連携を図り、指導体制を確立する中で、より開かれた学校づくりを目指している。

④ 帖佐中学校

全校生徒と職員が一緒に朝読書を実施している。学校全体が落ち着いた雰囲気の中で学習活動に入れるようになり、読書活動で培っ

た読みの力が各教科によい影響を与えている。

(3) 協力機関等

始良町立図書館（平成14年度蔵書冊数；128,718冊、年間貸し出し冊数；353,770冊）

《事業例》

- ・読み聞かせや紙芝居、小中学校への出前講座の実施
- ・図書館探検隊の活動の充実（小学校5年生）児童生徒が図書館を訪問して、施設設備や利用法について理解を深めることができた。
- ・研修の充実発展
教員による「地域貢献体験活動」（初任者研修等）

2. 実践研究の概要

- (1) 学校における子どもの読書活動の推進
- (2) 学校、家庭、地域との連携による子どもの読書活動の推進
- (3) 町立図書館との連携による子どもの読書活動の推進

3. 実践研究の成果

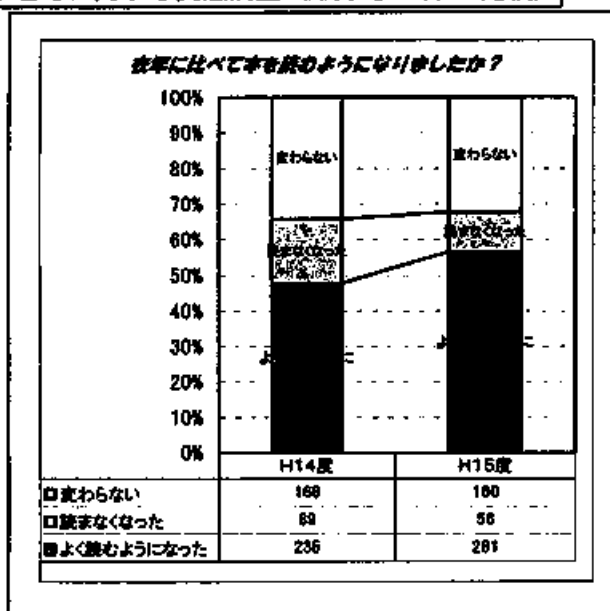
- (1) 学校における子どもの読書活動の推進について

① 読書量の増加への取組

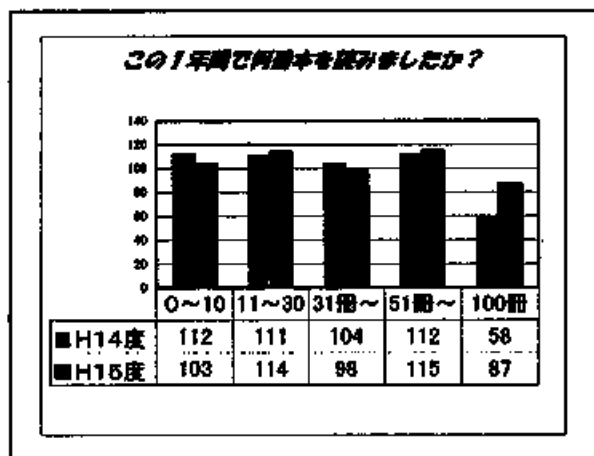
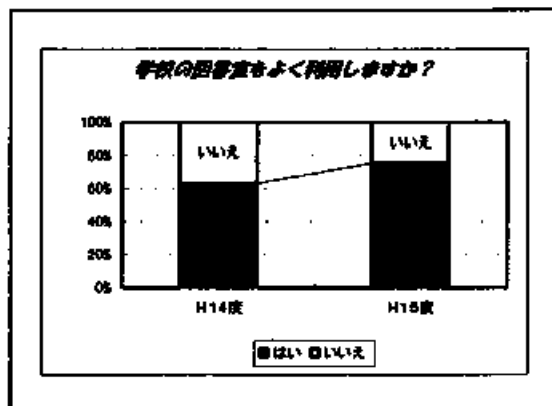
朝や業間の読書活動をすべての学校（町内11校）で実施している。児童生徒の読書意欲が高まるとともに貸出冊数も伸びた。

- ・始業前の読書活動（小学校8校中5校、中学校3校中2校）
- ・業間の読書活動（小学校3校）
- ・放課後の読書活動（中学校1校）
- ・一人当たりの図書貸出冊数
（平成14年度；38.6冊→平成15年度；45.0冊）

子どもに対する実態調査 (H14とH15の比較)



- ・図書館便りの発行 (全校)
- ・「読書の木」「読書登山表」の表示 (北山小、西始良小)
- ・「親子読書カード」の発行 (北山小、西始良小)



③ 授業を通じた研修 (H15. 11. 26 西始良小学校)

平成 15 年度から国語科の研究に取り組んでいる西始良小学校で、読書活動を取り入れた授業の研究を行った。授業の中にボランティアによる読み聞かせや紙芝居なども取り入れ、学校全体として子どもたちの本への関心が高まっている様子も伺われた。推進協力校以外の職員 (小・中学校の読書指導担当や司書補) も 18 名参加し、授業研究会では活発な意見交換ができた。

② 環境整備の取組

学習情報センターとしての学校図書館が、子どもたちにとって、利用しやすい快適なスペースであるよう環境整備に努めた。蔵書の整備、充実を図った。

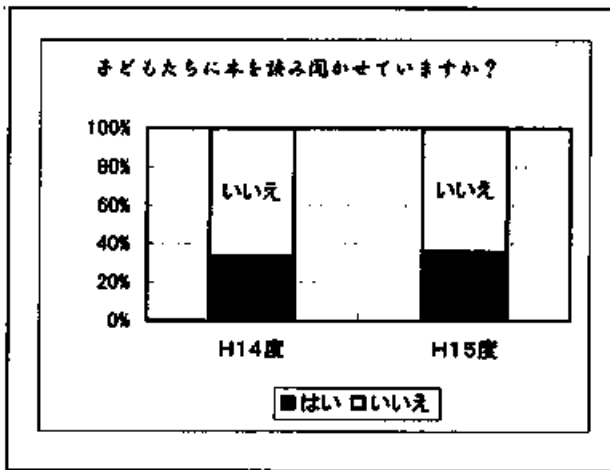
総合的な学習の時間や各教科等の時間に活用する資料も充実してきた。また、全校で図書委員会の子どもの活動が活発に行われており、各学校の特性を生かしたユニークな取組が行われている。各学校の図書館を明るく楽しい雰囲気にする環境づくりのため、司書補や読書指導担当教諭を中心とした全職員による取組が工夫され、図書館に対する職員の意識が高くなり、運営にも積極的に参加している。

(2) 学校、家庭、地域との連携による子どもの読書活動の推進

① 読み聞かせの広がり

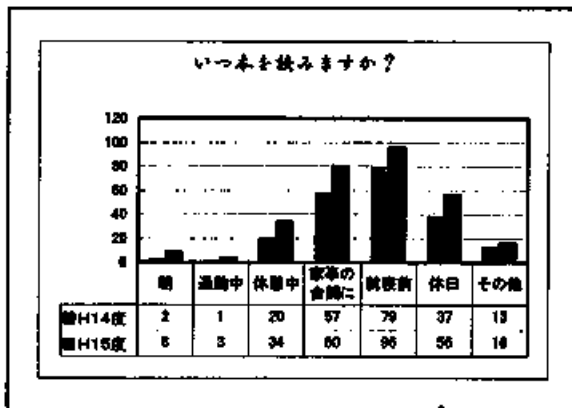
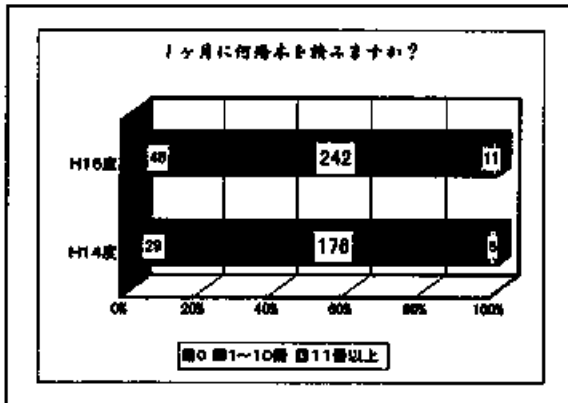
教師や図書委員会の児童生徒による読み聞かせやPTAによる読み聞かせが充実してきた。帖佐小、北山小では、校長・教頭も含めた全職員が子どもによる読み聞かせを実施し、子どもたちの本への関心が高まっている。北山小、西始良小では、親子による読書会、家族読書会、緑陰読書を実施している。

本を読んでもらうことを楽しみにする子どもが増え、読書に対する子どもの興味を喚起することができた。



② 保護者の読書量の増加

家庭教育学級における読書に関する研修会の実施や親子読書会の促進・充実、さらに学校からの図書館便り等の文書を通じた読書に関する啓発活動により、保護者の読書時間も増加した。



(3) 町立図書館との連携について

町立図書館は、読書センターや学習情報センターとしての機能を果たすための重要な役割を担っているが、子どもたちの知的好奇心にこたえるための読書環境の整備とともに、

蔵書も充実してきている。図書館利用の推進とそのための広報活動も盛んに行われている。学校以外でも読書に親しみ、自ら情報を収集活用できる子どもが増えてきている。

① 移動図書館による読書活動の推進

移動図書館「あいあい号」が、各学校・幼稚園はもとより、町内各地域を巡回し(町内35か所を月2回巡回)、子どもたちや家庭・地域の方に図書を提供をしている。子どもたちの本を読む機会が増え、町立図書館の本の学校図書館への貸出は全校に対して行われた。「あいあい号」のH16.2月現在の貸出人数7,861人、貸出冊数19,958冊

② ところを育てる読書研修会の実施(H16.2.21)

推進校4校の活動発表とかごしま県民大学中央センター所長(現:文部科学省初等中等教育局視学官)の田中孝一先生を交えてのシンポジウム(テーマ「広げようところを育てる読書の輪」)を行った。町内外から多くの参加者(149名参加)があり、親子読書やお話ボランティアの活動の在り方について、パネリスト以外からも建設的な意見が出されていた。

4. 今後の課題

- 司書教諭相互の連携と研修の充実を図る。
 - ・町内の司書教諭の研修会の実施
 - ・町立図書館の司書と学校図書館の司書補との合同研修会等の実施
- 幼、小、中の連携を深める。
 - ・小中学生が、幼児に読み聞かせを行う等。(異年齢集団による読み聞かせの取組)
- 学校と保護者、地域との連携を更に強める。
 - ・読み聞かせ等のボランティアグループの活用の促進(特に中学校)
 - ・緑陰読書会等の工夫(例:ラジオ体操後)
- 地域に開かれた学校図書館を目指す。
 - ・学校図書館の開放(保護者・地域の方々への貸出)

沖縄県教育委員会

推進地域名	具志川市
-------	------

1. 推進地域の概要

(1) 地域の概要

沖縄本島中部、勝連半島の基部に位置する。かつては純農村として栄えたが戦後は沖縄経済、教育の中心地として発展し、昭和43年具志川市となり現在人口64,000人児童生徒数約7,700人。平成17年には1市2町と合併し人口114,000人、児童生徒数13,600人となる。

(2) 推進協力校の概要

	学校名	児童・生徒数	学級数
1	具志川市立川崎小学校	416	13
2	具志川市立天願小学校	838	25
3	具志川市立あげな中学校	734	21

① 川崎小学校

昭和20年12月22日開校。木造建築をイメージした新校舎の図書室は落ち着いた雰囲気をもたらし、そこで取り組まれた図書館活動も高く評価され平成15年度全国図書館協議会会長賞を受賞。充実した読書活動が行われている。

② 天願小学校

明治39年創立で平成18年に100周年を迎える長い歴史と伝統に輝く学校である。生徒数は898人と大規模であるが習熟度別授業を基本にきめ細かな教育活動を行っている。

③ あげな中学校

昭和37年開校。生徒数734人の大規模校だが「いいこといっぱいあげな中」を合い言葉に生徒、教員が積極的に諸活動に取り組んでいる。保護者、地域との連携もよい。特に合唱、陸上競技のレベルは高い。図書館は学校規模からすると小さめである。

(3) 協力機関等

具志川市立図書館

2. 実践研究の概要

(1) 読書活動推進会議

① 家庭・地域における親子読書活動の実態調

査。

- ② 読書サークルとの協力、連携の在り方。
- ③ 本に親しむ子どもを育てる家庭・地域の読書活動の在り方。

(2) 推進協力校における実践

① 朝の読書活動

年間を通して始業前の15～25分間自主読書と教師、読書サークルによる読み聞かせを行う

② 読書活動の取り組み

目標冊数の設定、推薦図書の紹介、読書旬間、読書月間の充実、読書活動の環境づくり

(3) 本事業実施期間の生徒の変容

- ① 質問紙による調査
- ② 観察法による調査
- ③ 読書冊数による変化

3. 実践研究の内容及び成果

(1) 読書活動推進協議会

- ① 家庭・地域における親子読書活動の実態調査
(市内小中学校保護者向けの実態調査のまとめ)

○ あなたは毎日本を読みますか

	小学校	中学校	H15年6月実施 回答1,785世帯 単位%
毎日読む	5	5	
よく読む	13	18	
時々読む	56	66	
読まない	26	11	

市内児童生徒の読書冊数は順調に伸びているが保護者のほうは「よく読む」を含めても2割程度である。この保護者を読書活動の在り方で4グループに分けその保護者の読書活動が子どもに及ぼす影響についてまとめてみた。

○ あなたの子は本を読みますか。

毎日読む親の子

	小学校	中学校	単位%
よく読む	61	50	
時々読む	26	43	
読まない	13	7	

よく読む親の子

	小学校	中学校	単位%
よく読む	52	41	
時々読む	45	52	
読まない	3	7	

ときどき読む親の子

	小学校	中学校	単位%
よく読む	37	39	
あまり読まない	58	50	
読まない	5	11	

読まない親の子

	小学校	中学校	単位%
よく読む	29	29	
あまり読まない	53	53	
読まない	18	18	

小中学校ともよく本を読む家庭の子は親と同じようによく本を読み、親が本を読まない家庭の子どもはこれもまた本を読む割合が低くなっている。このことから、親の家庭での読書活動への姿勢が子どもに影響していることが示唆された。

○ 子どもに読書を勧めていますか

	小学校	中学校	単位%
よく勧めている	51	38	
時々勧めている	42	46	
勧めていない	7	16	

子どもに対して「時々」を含めると9割前後の親が読書を勧めている。しかし一方で親自身の読書活動は「よく読む」を含めても2割程度である。保護者自身が本を読む楽しさを子どもと共感できる場を設定したい。

○ あなたは本を読むことが好きですか

「はい」		昭和59年	平成15年	単位%
小学生 4, 5, 6年	男子	62	72	
	女子	83	80	
	全体	73	76	
中学生 全生徒	男子	53	71	
	女子	58	81	
	全体	55	76	

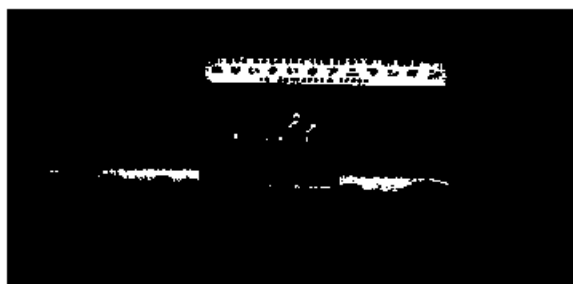
本市では昭和59年にも読書実態調査が行われているがそれと比較すると小学校の女子が3ポイント減少しているものの他は順調に伸びている。学校の地道な読書活動の取組の成果と考える。

特に中学校は男女とも20ポイント以上伸びている。よく高学年になるにつれ読書冊数が減少していくことが指摘されるが、8割近く

の生徒が本を読むことは好きと答えている。この気持ちを読書活動へ結び付けたい。この調査の結果と考察は市の平成15年度学力向上対策推進協議会家庭・地域部会実践発表会で公表し家庭・地域ぐるみの読書活動の必要性を訴えた。

② 講演会及びワークショップ

これまで主に学校職員向けに行われていたが、父母、読み聞かせサークル、公民館など広く参加を呼びかけた。



二回の講演会、ワークショップはすべて満席で、特に個人で子どもを抱いてワークショップに参加する熱心な母親の姿も多く見られ読書活動への関心の高まりを示した。

<終了後のアンケートから>

- ・時間がたつのも忘れるような読み聞かせでした。とても勉強になりました。
- ・読み聞かせの計画は「サークル任せではなく学級担任が学級の子どもたちにあった計画を立てるべき」というのはとても納得できました。

③ 市内ブックフェアの開催

学校図書館司書の活動の紹介、読み聞かせサークルの紹介と実演、絵本・児童文学書の紹介など家庭・地域ぐるみで読書の楽しさを共有、実感する場所としてブックフェアを開催した。幸い市内ブックフェア開催の12月21日は「絵本ワールドinおきなわ2003」の一週間後であったため特別予算を組んでもらい「絵本ワールド」で展示販売された絵本・児童書一万冊をそのまま市内ブックフェアで紹介を兼ねて展示販売した。

一日限りの開催であったが入館者は1,000人を超えた。それも生徒、保護者はもちろん、

乳児を連れてお母さん、幼児からお年寄りまでそれぞれ家庭・地域ぐるみでのブックフェアとなった。



〈会場でのアンケートから〉

- ・子育てで忙しくなかなか外出できないのでとてもありがたい。すばらしい企画です。
- ・学校関係だけでなくもっと家庭・地域へのアピールもほしい
- ・読み聞かせに興味を持っている人も多いので是非来年も続けてほしい。
- ・親子連れも多くこれを機会に各家庭の読書、読み聞かせの場が増えるのだなぁと思うと嬉しくなります。

(2) 推進協力校における実践

① 川崎小学校・天願小学校

○朝の読書活動：週4日の15分間読書（毎月第1・第3水曜日（川崎）、金曜日（天願）は父母による読み聞かせ）。

○読書週間6月：出前読み聞かせ、読書郵便読み聞かせの実施。

読書月間10月の実施：読書感想文、感想画、図書委員会による読書集会、読書アニメーション、ブックトークの実施。

○調べ学習のための図書館利用：教師と図書館司書の連携による多種多様な資料の準備。全学級週一時間「読書の時間」の設置。

○図書館の環境づくり：館内は明るく、居心地のいい場所である。館内掲示物、展示物は諸行事や季節を感じさせるよう工夫する。

○校内研修の実施：朝の読書活動の成果と課題、その課題解決について研修した。

成果：多種類の本に興味を持ち、長編を読む子が増えてきた。

子どもの心が落ち着き、聞く態度にもいい影響を及ぼしている。

保護者や地域の方々の協力が得やすくなった。職員の外部人材との連携が積極的になった。

② あげな中学校

○朝の読書活動：毎朝25分間読書（毎月1回父母サークルによる読み聞かせ）の実施。

○読書旬間9月：読書標語、お気に入り文章抜き書き、読書感想文、図書委員による推薦図書。

○調べ学習のための図書館利用：主に理科、社会の調べ学習、総合的な学習の時間に活用された。

○図書館の環境づくり：館内は狭く、図書館としては条件は悪い。観葉植物、絵本のマスコット等を配置し館内の雰囲気明るくなるよう工夫した。

成果：朝の読書で学校が落ち着いた雰囲気になった。全校生徒が本に接する場が持てた。保護者地域ボランティアの協力が得られるようになった。

③ 読書冊数

	平成13年	平成14年	平成15年
川崎小学校	130	118	149
天願小学校	81	109	92
あげな中学校	17	39	26

昨年度に比べると最終年度は川崎小学校のみの増加だが本県の目標冊数（小70冊、中20冊）に関しては3校とも達成できた。

4. 今後の課題等

同じ取組をしても学校間で差がある。特に中学校が全校を挙げての取組にはならなかった。係、担任だけでなく全職員の読書に対する理解が必要である。そのための教職員の読書実態調査も実施したい。また学校と地域が連携した、地域での読書活動推進事業の継続を図ること。そして児童生徒だけではなく大人、教職員も一緒に読書活動の定着を図っていきたい。

平成14・15年度生きる力をはぐくむ読書活動推進事業 (読書活動推進地域事業)の取組の概要

この事業は、児童生徒の読書活動に関し、学校図書館を含めた学校における学習活動、公共図書館の活用、家庭での働きかけなどを相互に連携させながら、学校・家庭・地域社会が一体となった効果的な取組方法について実践的な研究を行い、生きる力をはぐくむ読書活動の一層の推進に資することを目的として、平成14・15年度の2年間にわたり、全国17府県30市町村において取り組まれたものである。

推進地域においては、「生きる力」をはぐくむ読書活動を推進する観点から、学校、家庭、地域社会が相互に連携し、児童生徒の読書を進めるための様々な取組が行われ、成果を上げた。ここではその概要を示す。

なお、本事例集自体が極めて限られた紙幅の中でまとめられており、なおかつ記述の粗密の関係で取組内容の細部を読み取れないものもあることから、実践の全てをカバーしていない可能性はあるが、各地域の重要な取組は記載され、おおよその傾向は把握できると考え、この概要を作成した。

(1) 読書活動推進会議の取組

各地域ではこの研究の推進に当たり「読書活動推進会議」が設置された。推進会議では、読書活動推進の各種事業が効果的に行われるよう、事業の全体計画の作成、推進協力校における読書に関する現状調査の実施と結果分析、読書活動推進の成果についての評価、推進協力校や研究協力機関に対する助言及び指導、研究成果の普及・啓発などの取組が行われた。

この推進会議のもとに、「地域読書活動推進部会」「学校読書推進部会」「家庭読書活動推進部会」などを置き、地域、学校、家庭それぞれの読書活動を推進するとともに、相互の連携を有機的に図っている地域もみられた。

また、この推進会議が、地域の読書活動の推進を積極的に進めるため、

- ・地域の読書活動推進計画の策定
- ・地域独自の「読書の日」の制定
- ・ブックガイド等の推薦図書リスト作成
- ・読書活動標語、読書ポスターコンクール、読書感想文コンクール等の実施
- ・読書推進を目指したフォーラム、フェスティバル、講演会等の開催
- ・「読み聞かせ」の研修会等の実施
- ・読書ボランティア等の支援
- ・古本市など書籍のリサイクル事業

- ・地域独自の読書活動推進員、図書サポーター等の配置
- ・広報誌への掲載や啓発資料の発行

など、様々な事業を直接行っている例も多い。

また、ブックスタート事業に加えて、乳幼児向けのブックリストや幼稚園児対象のブックガイドを作成している地域もみられ、乳幼児期からの読書環境の整備が着実に進んできていることをうかがわせる。

取組の成果は、国立教育政策研究所主催の「平成15年度学校図書館フォーラム」（全国3か所で開催）においてパネル展示されたのをはじめ、各地域においても、ケーブルTVの活用、教育フェスティバルでの発表などを通して、積極的な普及・啓発が図られている。

(2) 推進協力校の取組

各地域には、それぞれ数校程度の推進協力校が置かれた。協力校では各学校の「読書活動推進の年間指導計画」に基づき、

- ・各教科、総合的な学習の時間等の学習活動を通じた読書活動の推進
- ・「朝の読書」をはじめとする全校一斉読書の推進や、読書目標を設定すること等による読書習慣の確立
- ・学校図書館の蔵書や資料の充実とその活用の推進
- ・児童生徒図書委員会活動の活性化
- ・「子ども読書の日」を中心とした読書推進啓発行事の実施

など、学校の教育活動全般にわたって読書活動推進を意識した取組がなされた。その際、家庭、地域、学校を通じた、子どもが読書に親しむ環境の整備や機会の提供に努め、

- ・親子読書の推進
- ・学校図書館の休日や休業日の開館
- ・学校図書館の地域への開放
- ・公立図書館司書等との連携
- ・公立図書館の移動図書館や団体貸出の活用
- ・保護者やボランティアグループによる学校図書館の補助や読み聞かせ等の実施
- ・保護者を対象とした読み聞かせ講習会等の実施

など、家庭や本事業の研究協力機関をはじめとした地域との連携も有機的に図られている。

また、各学校では、地域に伝承されている民話を取り上げ、語り部を招いた「民話の集い」や児童による「民話劇」上演を行うなどの地域の特色を生かした取組、さらには、中学生が幼稚園で読み聞かせを行ったり、地域の学校ネットワークを活用して図書資料の検索や相互貸借を行ったり、児童生徒が「読書環境こども調査隊」と称して公立図書

館を調査しその結果を各学校を巡回して報告したりなど、学校間の連携の取組も進んできている。

さらに、各学校での取組の成果を教員用の手引きにまとめて配布するなど、成果の普及・啓発とともに、教員の指導力向上にも力を入れている。

(3) 読書に関する現状調査

この事業の特色の一つは、読書に関する現状調査を行い、読書活動推進の取組が、児童生徒の読書冊数や読書意識等にどのような影響を与えたかなどの具体的な効果の把握を行ったことにある。

各地域では、児童生徒の読書冊数、読書時間、読書をする時間帯、学校図書館の利用頻度、公立図書館の利用頻度、読書についての意識などを、質問紙による調査と学校図書館利用データ等をもとに把握し分析している。中には、ブックトークの後で、「楽しかったか」「読んでみたい本はあったか」「今までより本を読むようになったか」などと尋ね、個別の取組についての成果を検証しているもの、「語彙力」「読解・鑑賞力」などとの関連をみているものもみられた。

また、「家族で本を読んでいるか」「本や読書が家庭で話題になるか」「学校からの家庭への図書館情報が増えたか」など、家庭における読書についての調査を、保護者を対象に行っている地域も多い。

数値による結果をみると、明らかに読書活動推進の成果がみられる。また、自由記述をみても、

(児童)

- ・知らなかったことがわかり、言葉を覚え、読める漢字が増えた。
- ・本の世界で想像するのが楽しくなり、想像力がアップした。
- ・みんなにおもしろい本について話をできるようになった。友達と話すことが増えた。
- ・ぼーっとすることがなくなり、早く本が読みたいから家での行動が早くなった。
- ・人々の暮らしや苦しみやがんばりなどについてよくわかり、悲しいことなどがわかるようになった。

(保護者)

- ・普段は忙しくて親子でふれあうことがないのですが、最近は毎週日曜日に「図書館に連れて行って」と言われます。連れて行くと、何冊かの本を宝物のようにして持って帰ってきます。

などのように、読書推進のための取組の成果が顕著に現れている。

このような調査では、どの時期の、どの取組が読書量の増加に影響したのか、読書への意識高揚に役立ったのかまで詳しく分析することが求められるが、この報告書では紙幅の関係でそこまでは詳述されていない。詳しくは、各地域に問い合わせさせていただいた

い。

以上、本事業の成果をみてきたが、各地区の報告書にもあるように課題も残されている。事業の成果を共有することはもちろんであるが、明らかになった課題もまた、これから読書活動を一層推進しようとする地域に共通するものでもある。これらの課題を乗り越えることで、子どもたちによりよい読書環境を提供することができ、読書力を付けることになる。時代の変化は、子どもの興味・関心のありようを変え、高度情報化と国際化の波は子どもたちの足元を洗っている。このような状況のもと、読書活動関係者の担うべき役割は、ますます大きくなっている。子どもの読書活動の活性化に向けて更なる努力を期待したい。

平成14・15年度
生きる力をはぐくむ読書活動推進事業実践事例集

平成17年3月

国立教育政策研究所 教育課程研究センター

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-5-1

文部科学省ビル7階